

令和2年度
男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

令和2年（2020年）12月

光 市

目 次

I アンケートの概要	2
1. アンケートの目的	2
2. アンケートの内容	2
3. アンケートの対象者	2
4. アンケートの方法	2
5. アンケートの実施期間	2
6. アンケートの回答数	2
7. アンケート結果の留意事項	3
8. 母集団と回答者との関係	3
9. 回答者の基本属性	4
II アンケート結果の概要	6
1. 男女の地位の平等について	6
2. 男女の生き方について	20
3. 働く環境について	28
4. 女性の活躍の推進について	44
5. 仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）の両立について	47
6. セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、 マタニティーハラスメントについて	60
7. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	64
8. 性的少数者（セクシャル・マイノリティ）（LGBT）について	70
9. 男女共同参画について	73
10. 自由意見	81

I アンケートの概要

1 アンケートの目的

男女共同参画に関する市民意識を総合的に把握し、光市男女共同参画基本計画の策定に活用するなど、今後の本市男女共同参画施策を検討するための基礎資料とします。

2 アンケートの内容

下記の(1)～(9)の項目について、23の質問を設定しました。

【アンケート項目】

- (1) 男女の地位の平等について
- (2) 男女の生き方について
- (3) 働く環境について
- (4) 女性の活躍の推進について
- (5) 仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）の両立について
- (6) セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティーハラスメントについて
- (7) ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- (8) 性的少数者（セクシャル・マイノリティ）（LGBT）について
- (9) 男女共同参画について

3 アンケートの対象者

18歳以上の市民から1,500人を無作為抽出（基準日：令和2年10月1日現在）

4 アンケートの方法

郵便でアンケート調査票と返信用封筒を配布し、本人が回答を記入の上、一定期間内に返送していただく方法（郵送アンケート法）により実施しました。（自記式郵送法・無記名）

5 アンケートの実施期間

令和2年10月29日（木）～令和2年11月12日（木）

6 アンケートの回答数

回収率は、40.9%で、前回調査より4.2ポイント減少しています。

	配布数	有効配布数 A	回収数 B	回収率 B/A
今回調査 (R2)	1,500	1,493	610	40.9%
前回調査 (H27)	1,500	1,497	675	45.1%
前々回調査 (H23)	1,500	1,495	545	36.5%

7 アンケート結果の留意事項

- ①集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比(%)の合計が100.0%にならないことがあります。
- ②1人の対象者に複数の回答を認めた設問では、内訳の合計が100.0%を超えることがあります。

8 母集団と回答者との関係

令和2年10月1日現在で満18歳以上の市民を母集団としています。

(1) 性別による人口構成比の比較

	性別	母集団	回答者
(1)	男性	47.1%	45.1%
(2)	女性	52.9%	54.6%
(3)	その他	0.0%	0.0%
(4)	無回答	—	0.3%
	計	100.0%	100.0%

- ※ 性別については、今回調査から「1 男性・2 女性・3 (1あるいは2の選択肢の中では決められない方、当てはまらない方等は、3を選んでください。)」の3択とした。(性別の「3」については、本報告書では性別「その他」と表記することとする。)なお、今回調査において性別「その他」の回答者は見られなかったため、本報告書の以降の分析においては、性別「その他」についての記載を省略する。

- 性別による母集団の人口構成と回答者の人口構成では、女性の回答率がやや高く、男性の回答率がやや低い。

(2) 年代による人口構成比の比較

	年代	母集団	回答者
(1)	10歳代	2.2%	1.1%
(2)	20歳代	9.5%	4.8%
(3)	30歳代	10.2%	6.9%
(4)	40歳代	15.9%	12.6%
(5)	50歳代	13.9%	12.9%
(6)	60歳代	15.2%	18.7%
(7)	70歳代以上	33.1%	42.8%
(8)	無回答	—	0.2%
	計	100.0%	100.0%

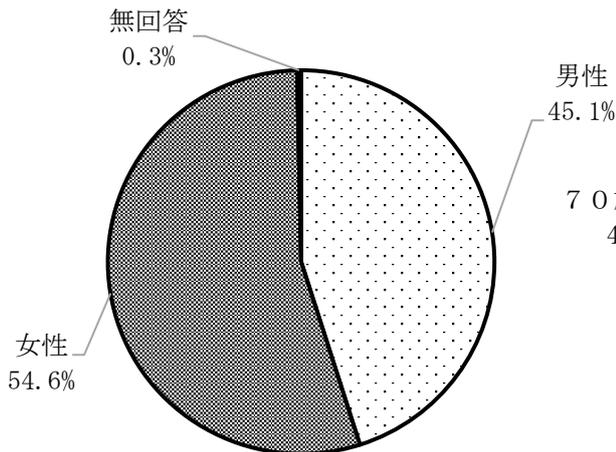
- 年代による母集団の人口構成と回答者の人口構成では、10歳代から40歳代の回答率がやや低く、60歳代、70歳代以上の回答率がやや高い。

9 回答者の基本属性

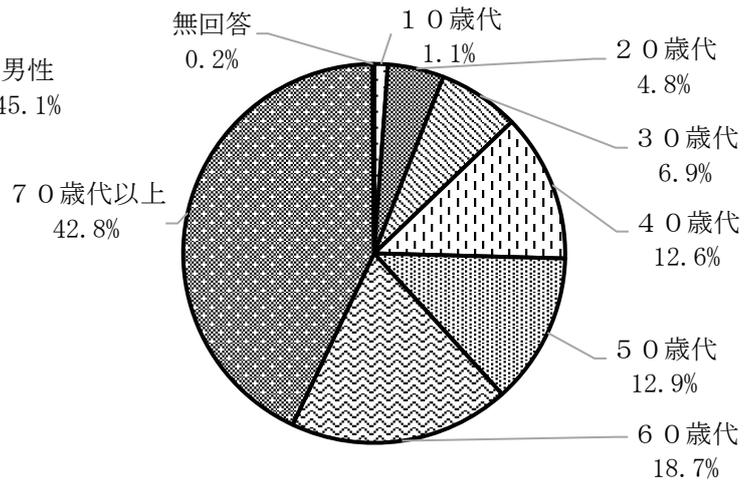
性別については、男性が45.1%、女性が54.6%となっており、実人口比と比較すると女性がやや高く、男性がやや低くなっています。

年齢については、高齢者が多く、60歳代以上が全体の60%を占めています。

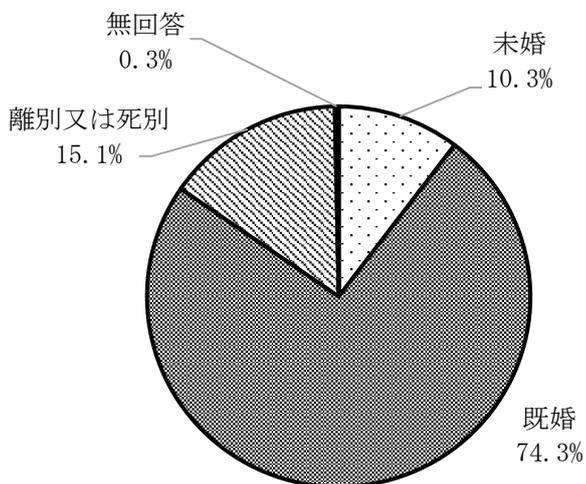
① 回答者の性別



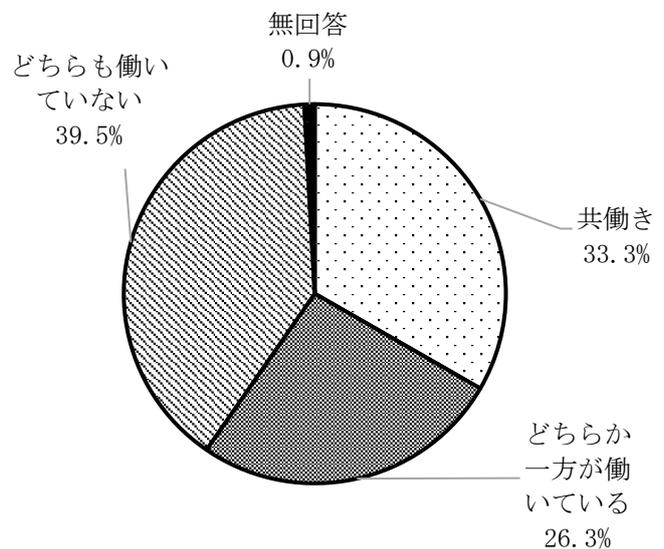
② 回答者の年齢



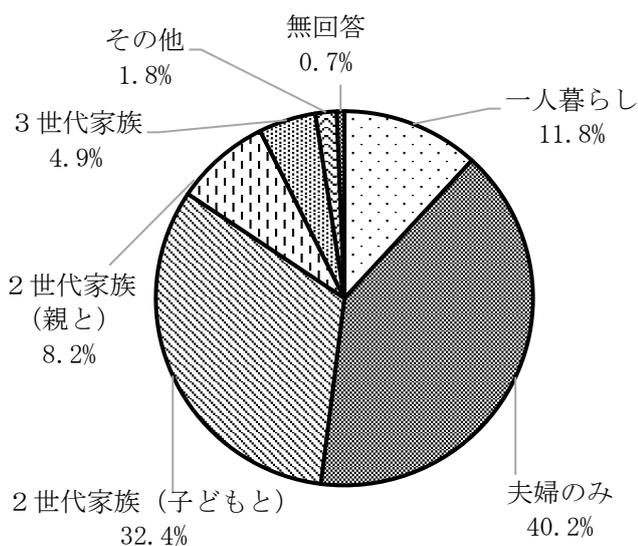
③ 配偶者の有無



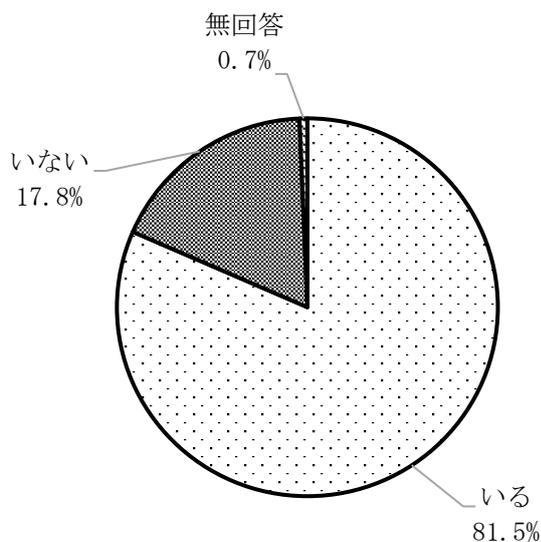
④ 就業の形態（既婚者のみ）



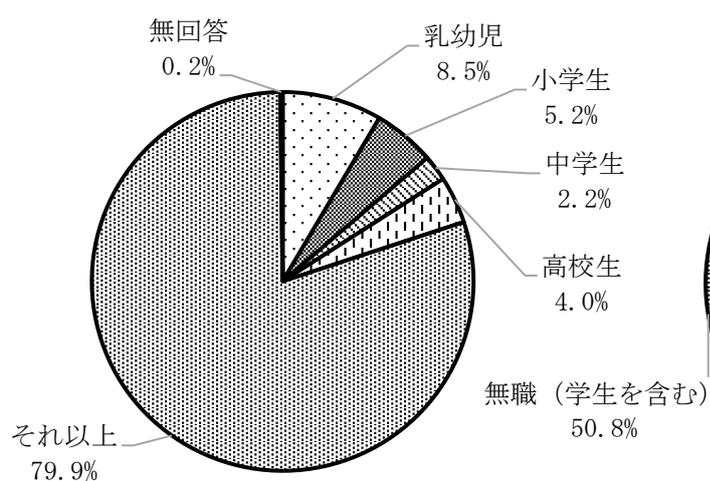
⑤ 世帯構成



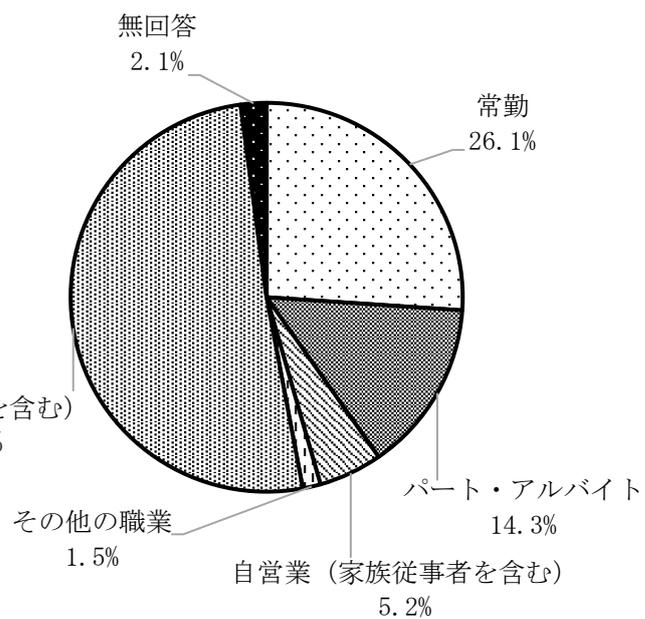
⑥ 子どもの有無



⑦ 一番下の子どもの年齢



⑧ 職業



II アンケート結果の概要

男女の地位の平等についておたずねします

問1 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

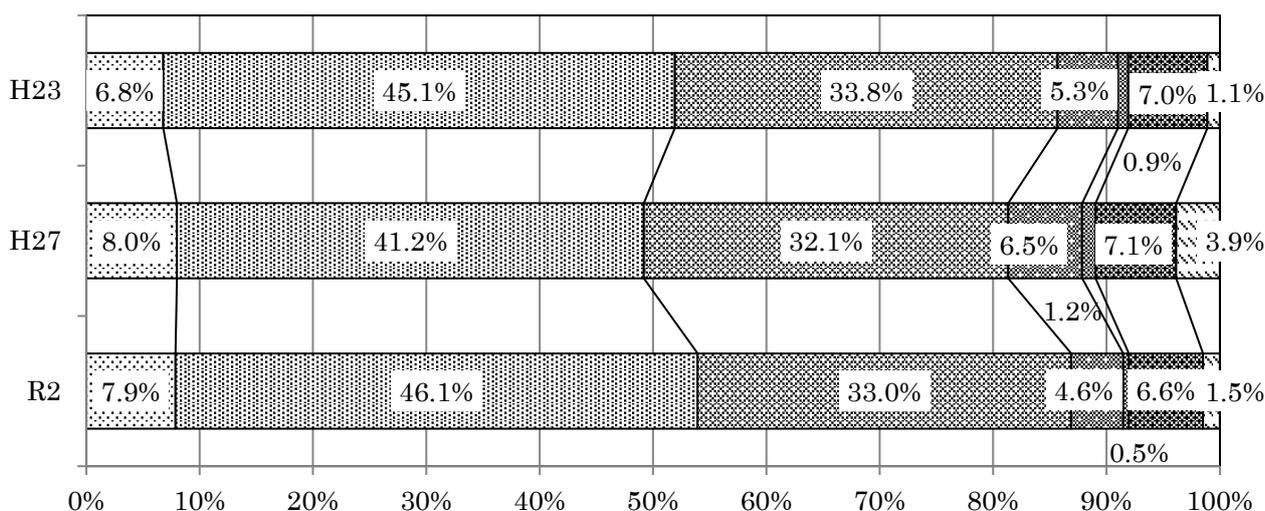
それぞれの分野で男女の地位について、「平等」という回答の割合が最も高い分野は、「学校教育では」の59.6%（前回64.0%）、以下「地域活動では」の38.9%（前回36.3%）の順になっています。

回答の割合は、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇されている」（以下「男性の方が優遇されている」）は、「政治や行政では」が70.5%（前回61.6%）と最も高く、以下「慣習・しきたりなどでは」の67.0%（前回55.4%）、「社会全体として」の66.1%（前回59.7%）の順になっています。

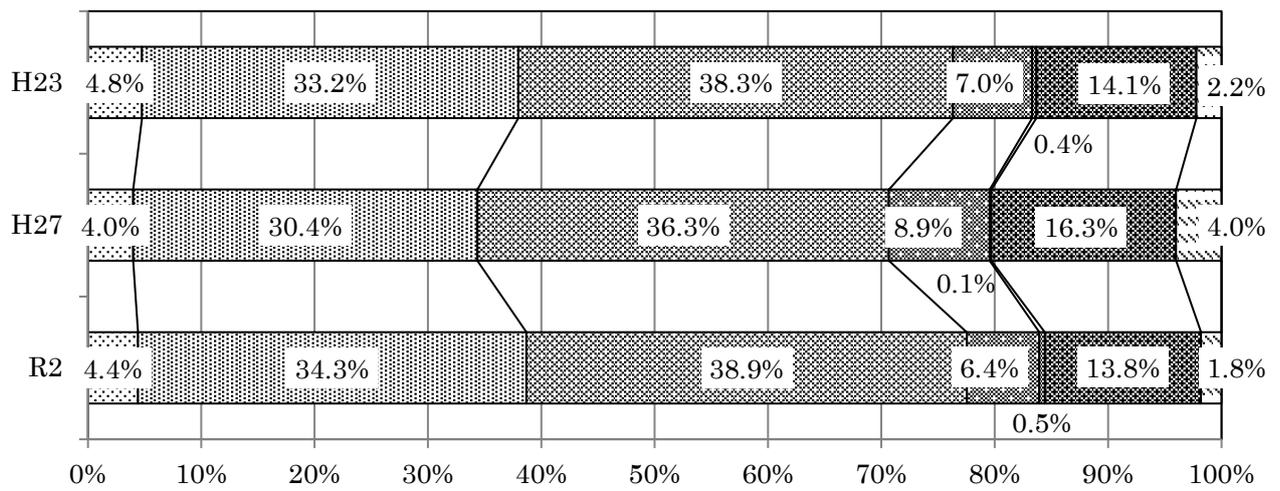
前回と比べ、「職場では」を除く全ての分野で「男性の方が優遇されている」が増加しています。また、「家庭生活では」と「地域活動では」と「職場では」の分野で「平等」が増加しており、「学校教育では」と「職場では」の分野で「わからない」が増加しています。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ☐ 男性の方が非常に優遇されている | ☐ どちらかといえば男性の方が優遇されている |
| ☐ 平等になっている | ☐ どちらかといえば女性の方が優遇されている |
| ☐ 女性の方が非常に優遇されている | ☐ わからない |
| ☐ 無回答 | |

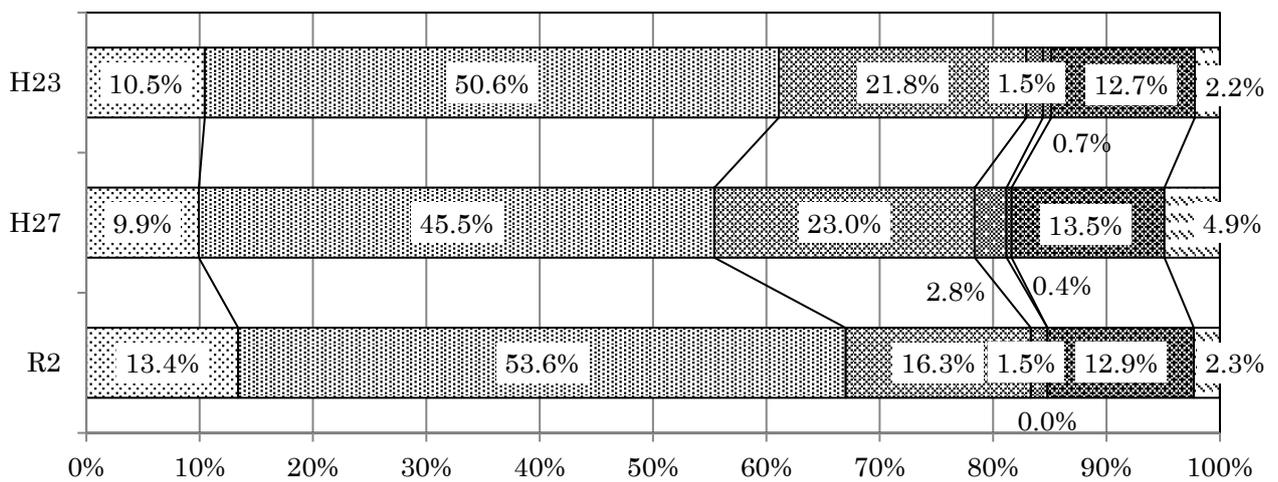
(1) 家庭生活では



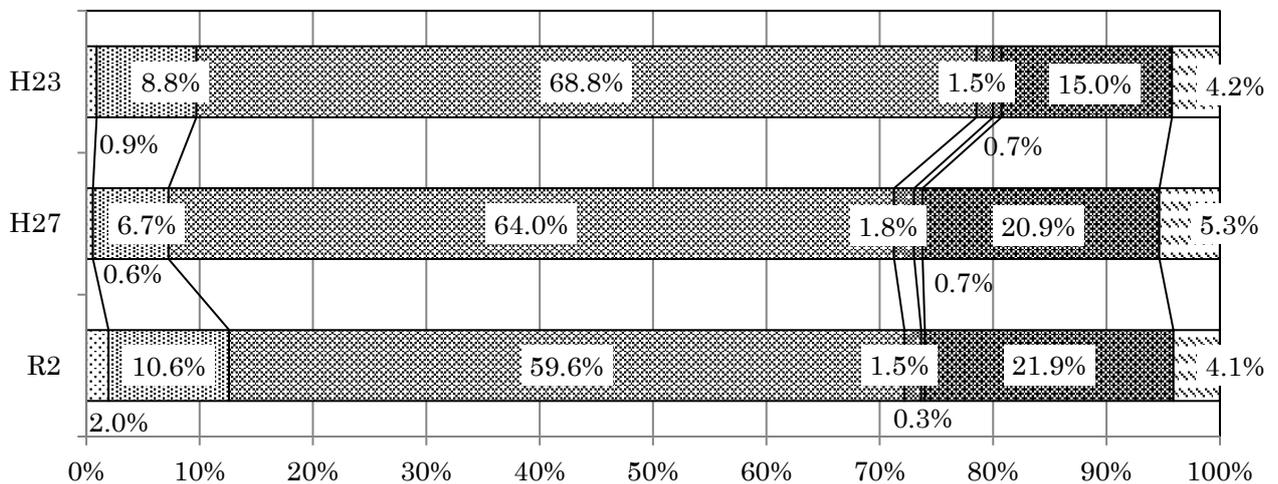
(2) 地域活動では



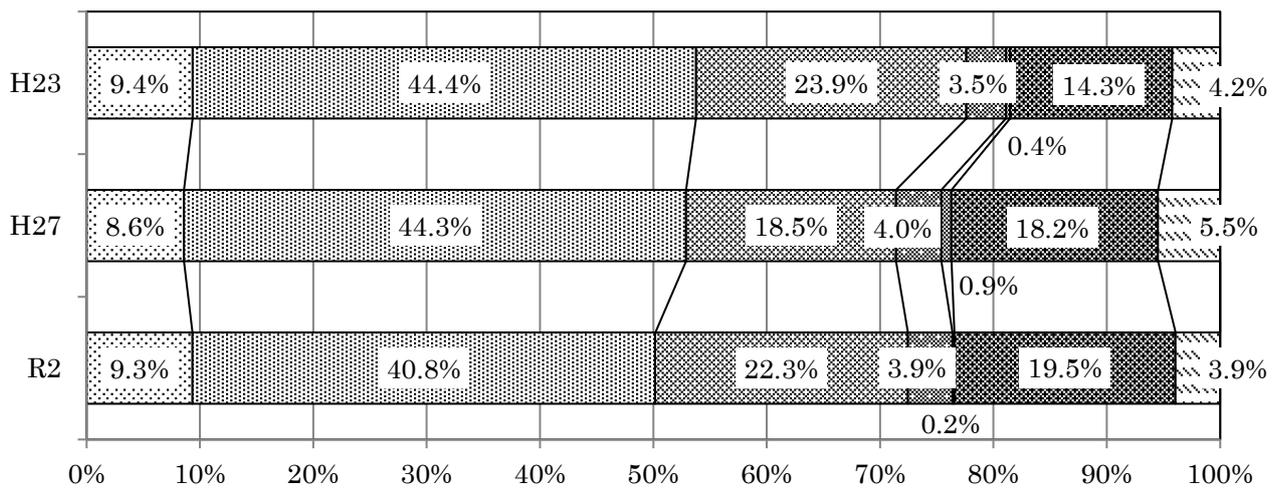
(3) 慣習・しきたりなどでは



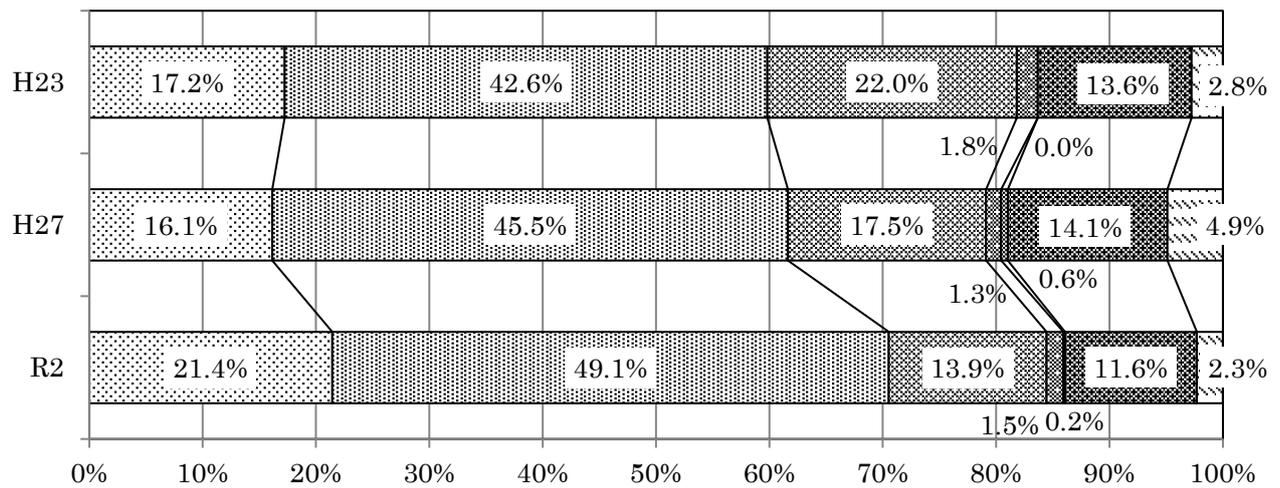
(4) 学校教育では



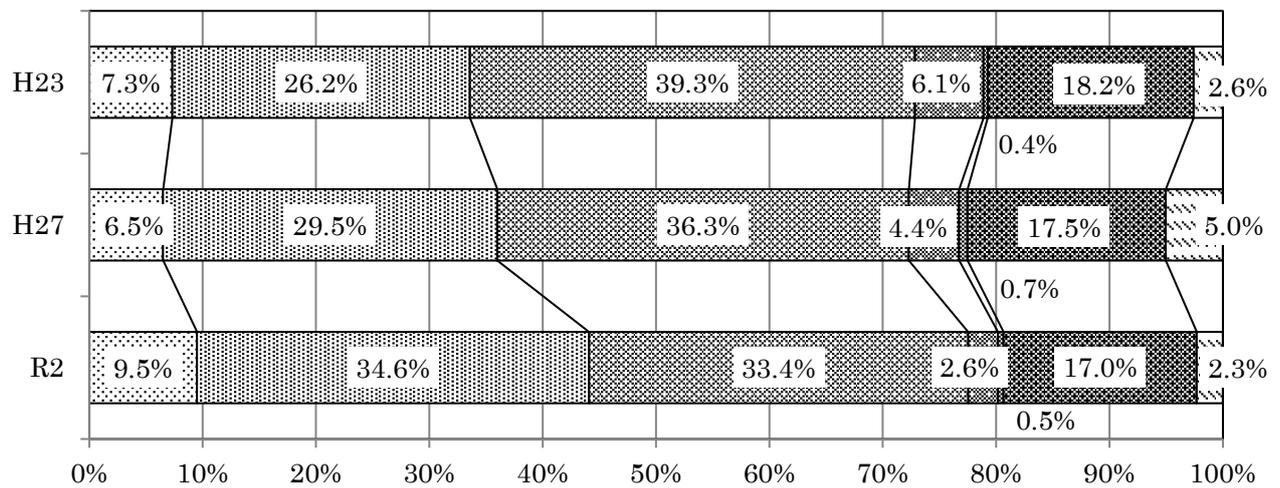
(5) 職場では



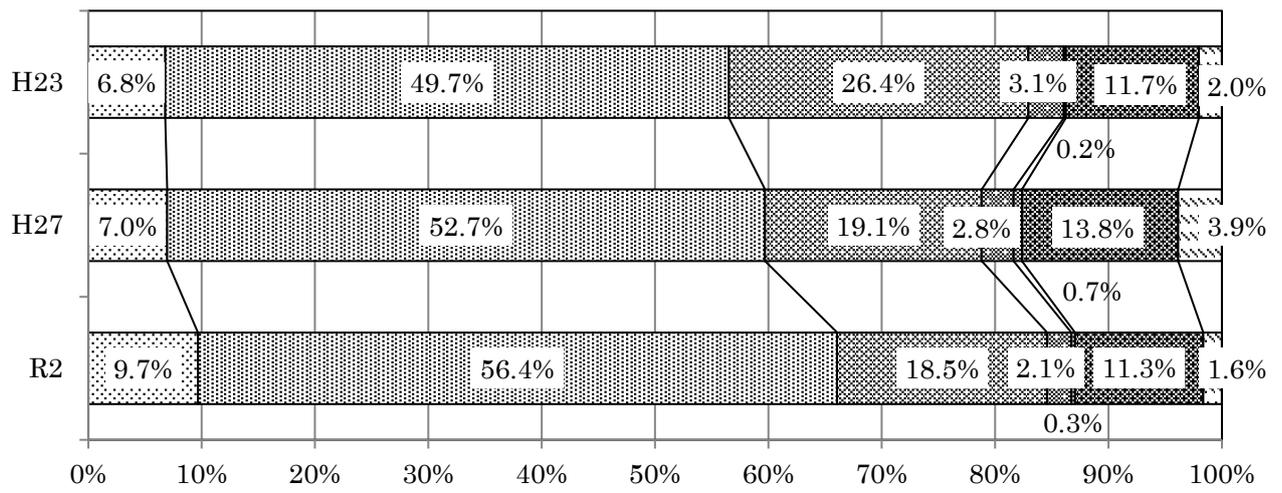
(6) 政治や行政では



(7) 法律や制度では



(8) 社会全体として

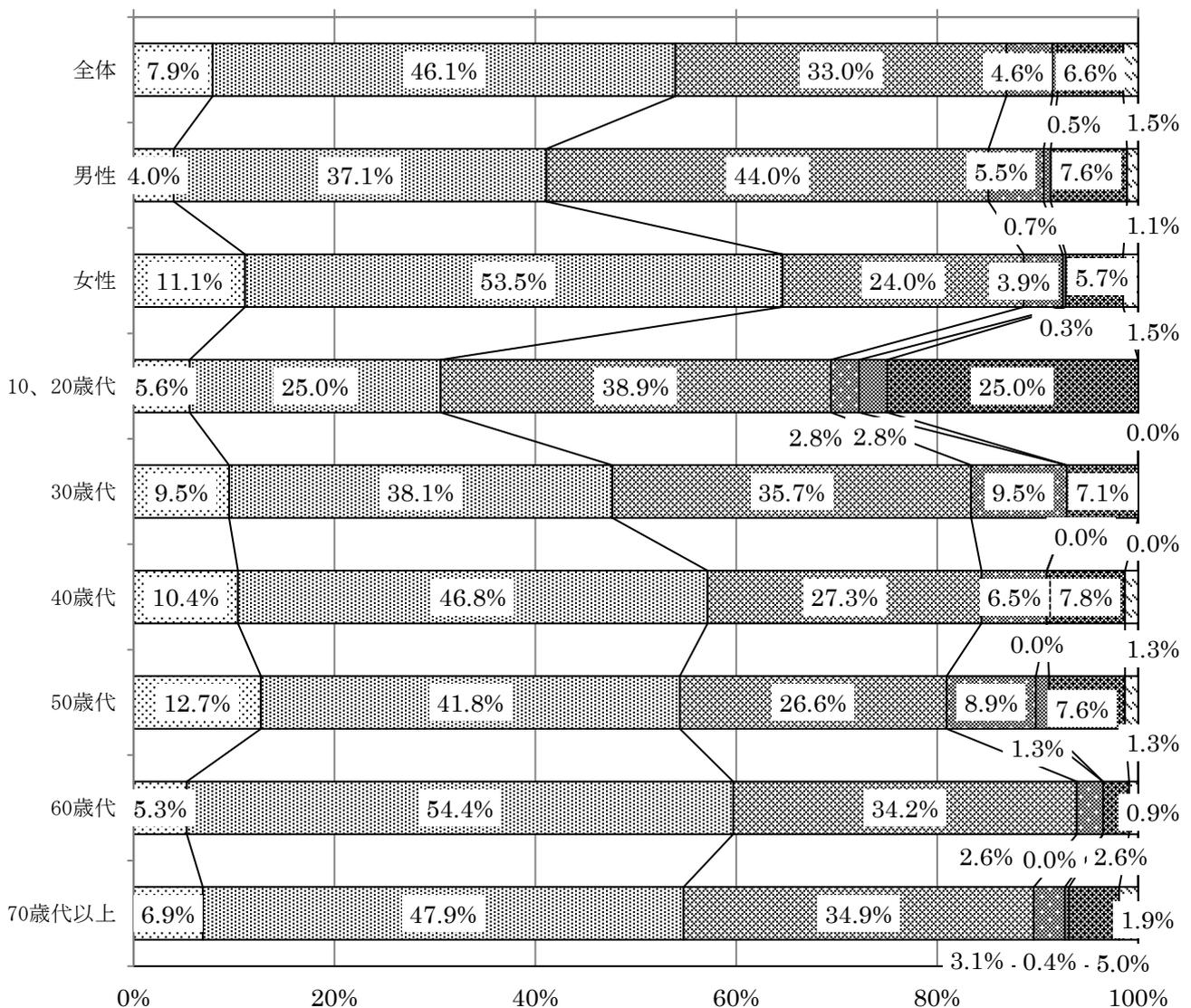
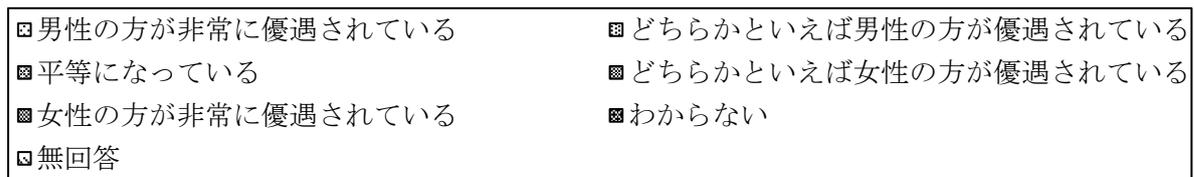


(1) 家庭生活では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は54.0%、「平等」は33.0%となっています。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」は男性の41.1%に対し、女性では64.6%と23.5ポイント高く、逆に「平等」は男性の44.0%に対し、女性では24.0%と20.0ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、40歳代以上では「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、60歳代では59.7%と最も高くなっています。一方、10、20歳代では「平等」が38.9%であり、「男性の方が優遇されている」の30.6%を上回っています。

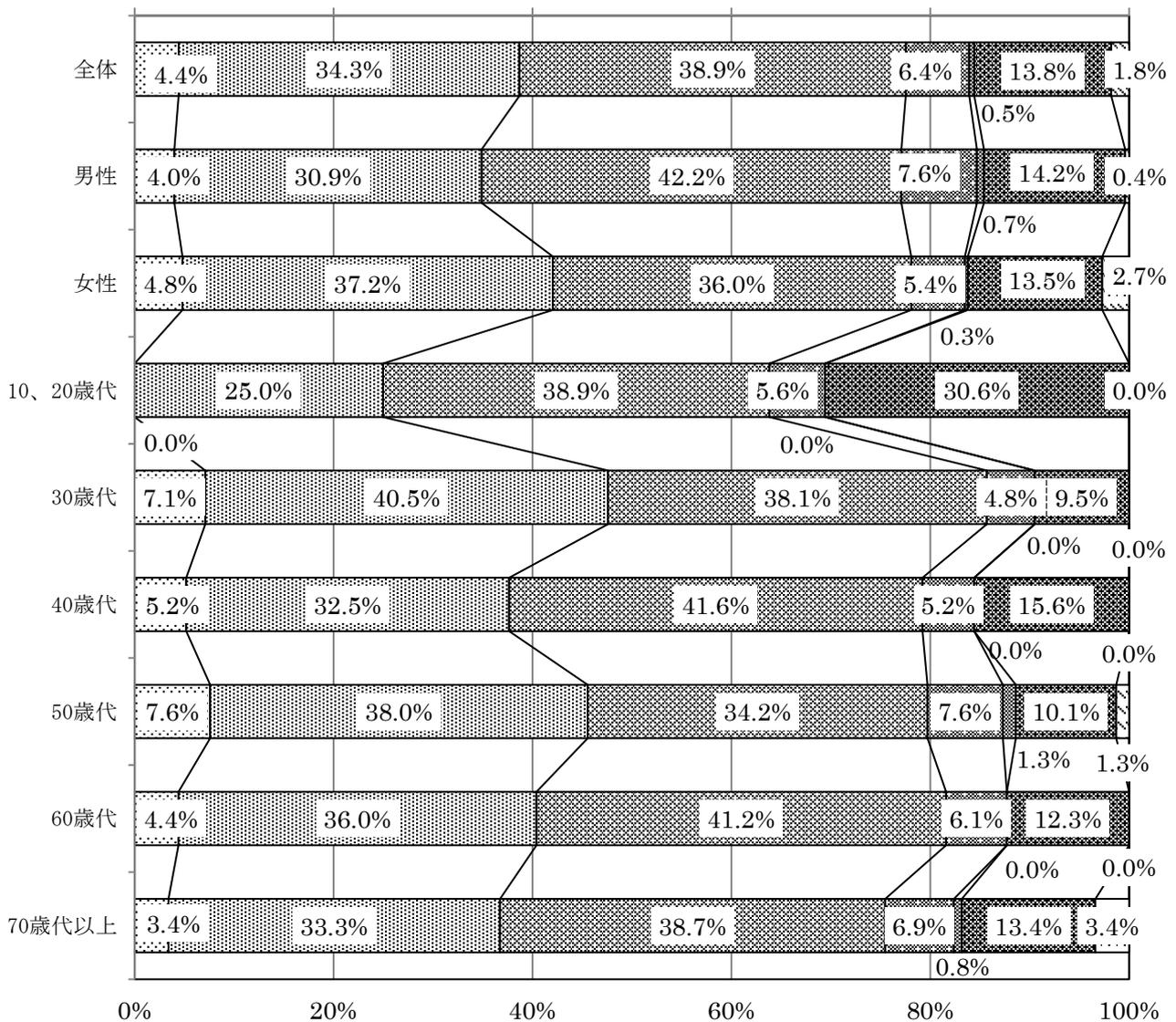
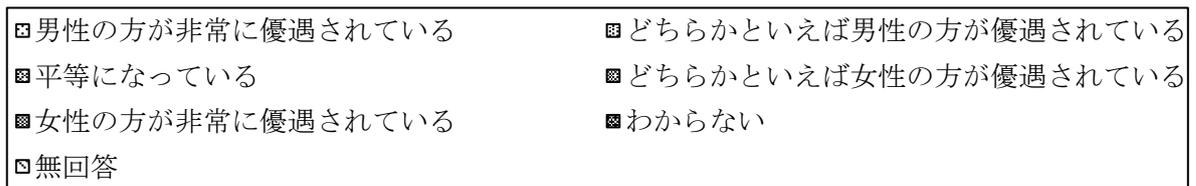


(2) 地域活動では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は38.7%、「平等」は38.9%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の34.9%に対し、女性は42.0%と7.1ポイント高く、「平等」は男性の42.2%に対し、女性は36.0%と6.2ポイント低くなっています。

年齢別でみると、30歳代で「男性の方が優遇されている」が47.6%で最も高くなっています。

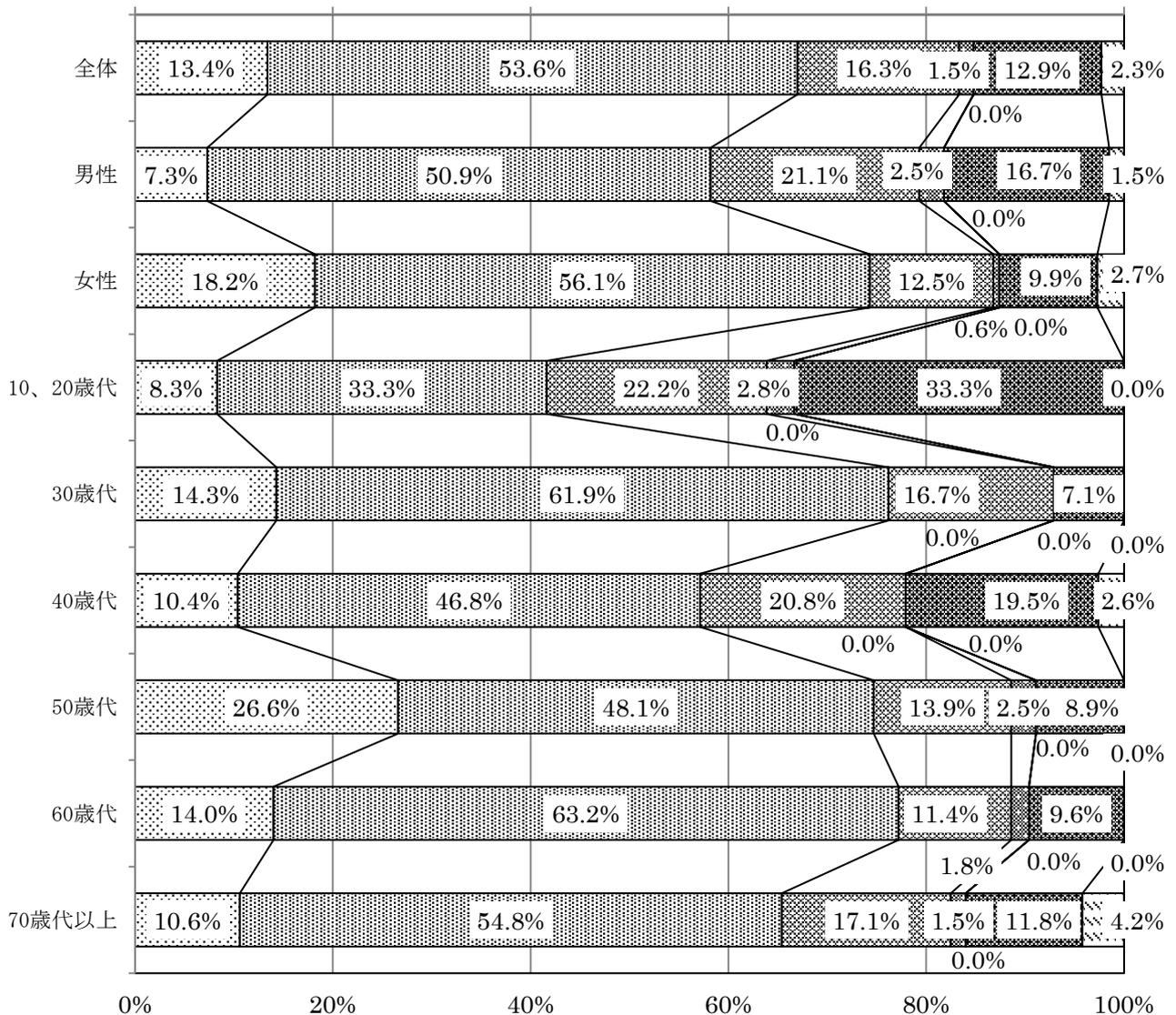
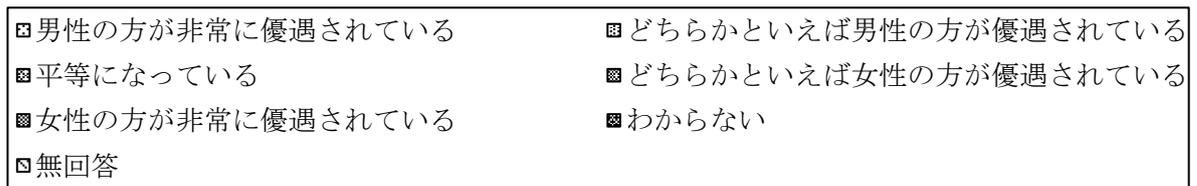


(3) 慣習・しきたりなどでは

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は67.0%であり、「平等」の16.3%を大きく上回っています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の58.2%に対し、女性は74.3%と16.1ポイント高く、「平等」は男性の21.1%に対し、女性は12.5%と8.6ポイント低くなっています。

年齢別でみると、10、20歳代を除く各年代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えています。特に30歳代では76.2%と最も高くなっています。

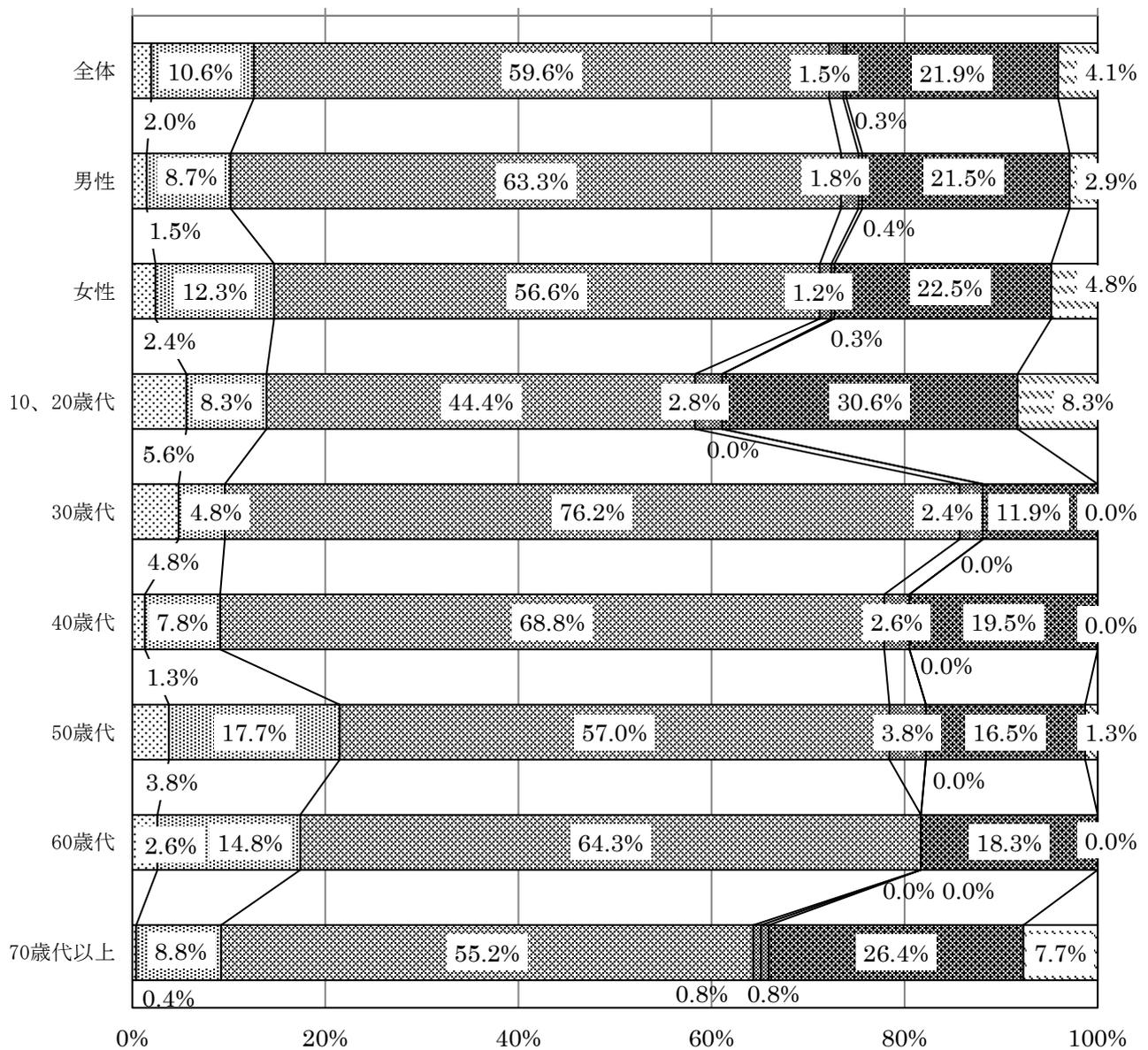
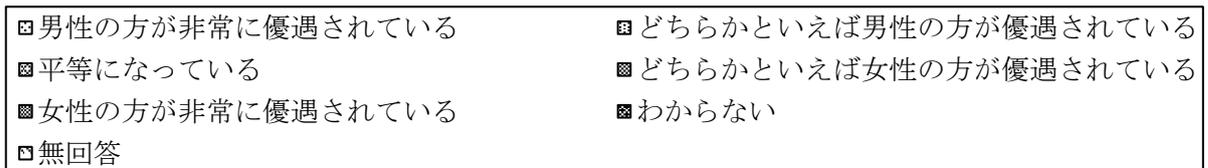


(4) 学校教育では

回答の割合は、「平等」は59.6%であり、「男性の方が優遇されている」の12.6%を大きく上回っています。

性別でみると、「平等」は男性の63.3%に対し、女性は56.6%と6.7ポイント低く、逆に「男性の方が優遇されている」は男性の10.2%に対し、女性は14.7%と4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、10、20歳代を除く各年代で「平等」が50.0%を超えており、特に30歳代では76.2%と最も高くなっています。

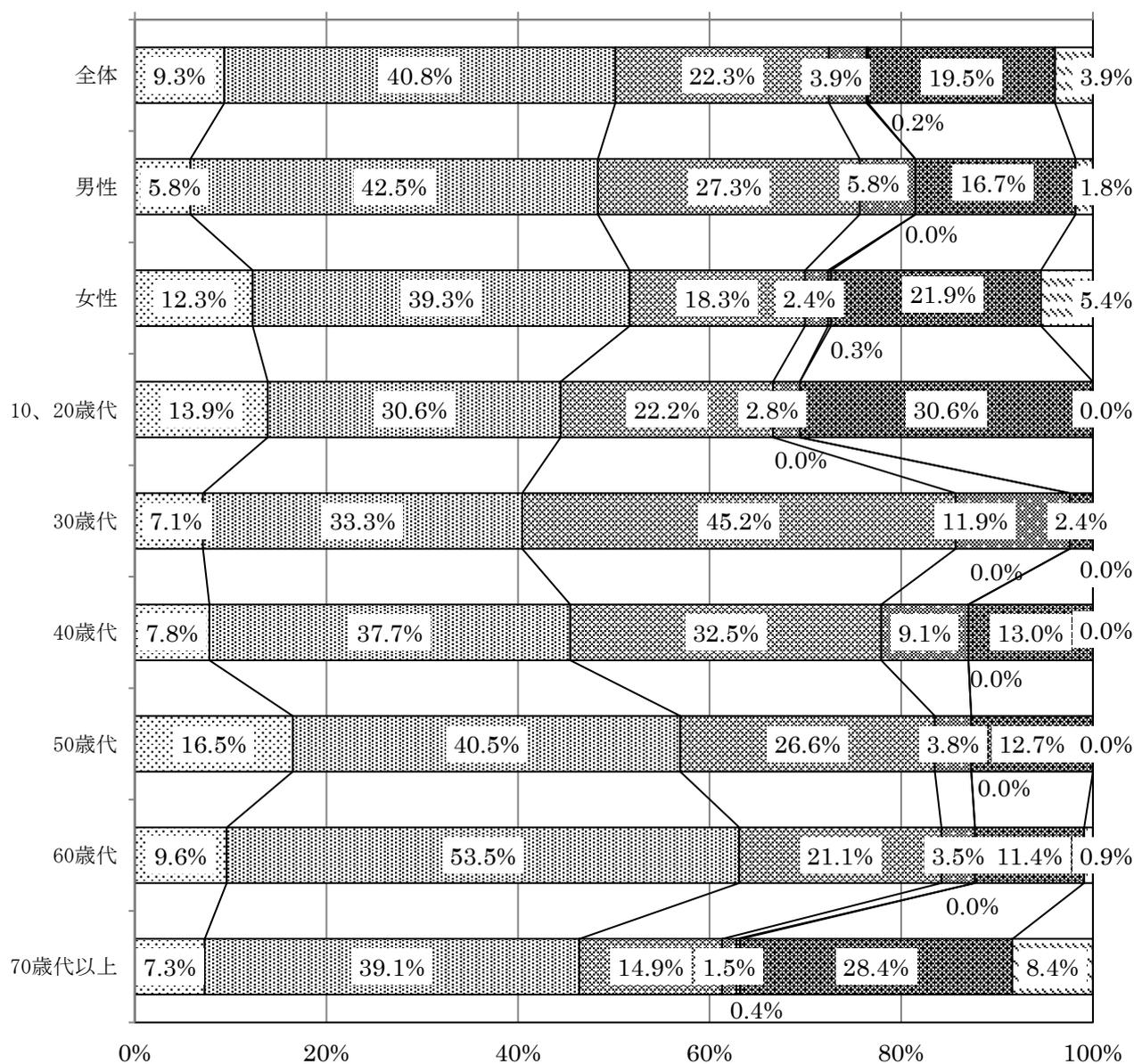
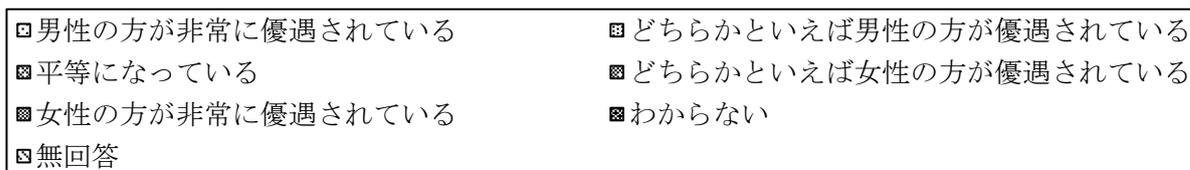


(5) 職場では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は50.1%、「平等」は22.3%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の48.3%に対し、女性は51.6%と3.3ポイント高く、「平等」は男性の27.3%に対し、女性は18.3%と9.0ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」がすべての年代で40.0%を超えており、特に60歳代では63.1%と最も高くなっています。

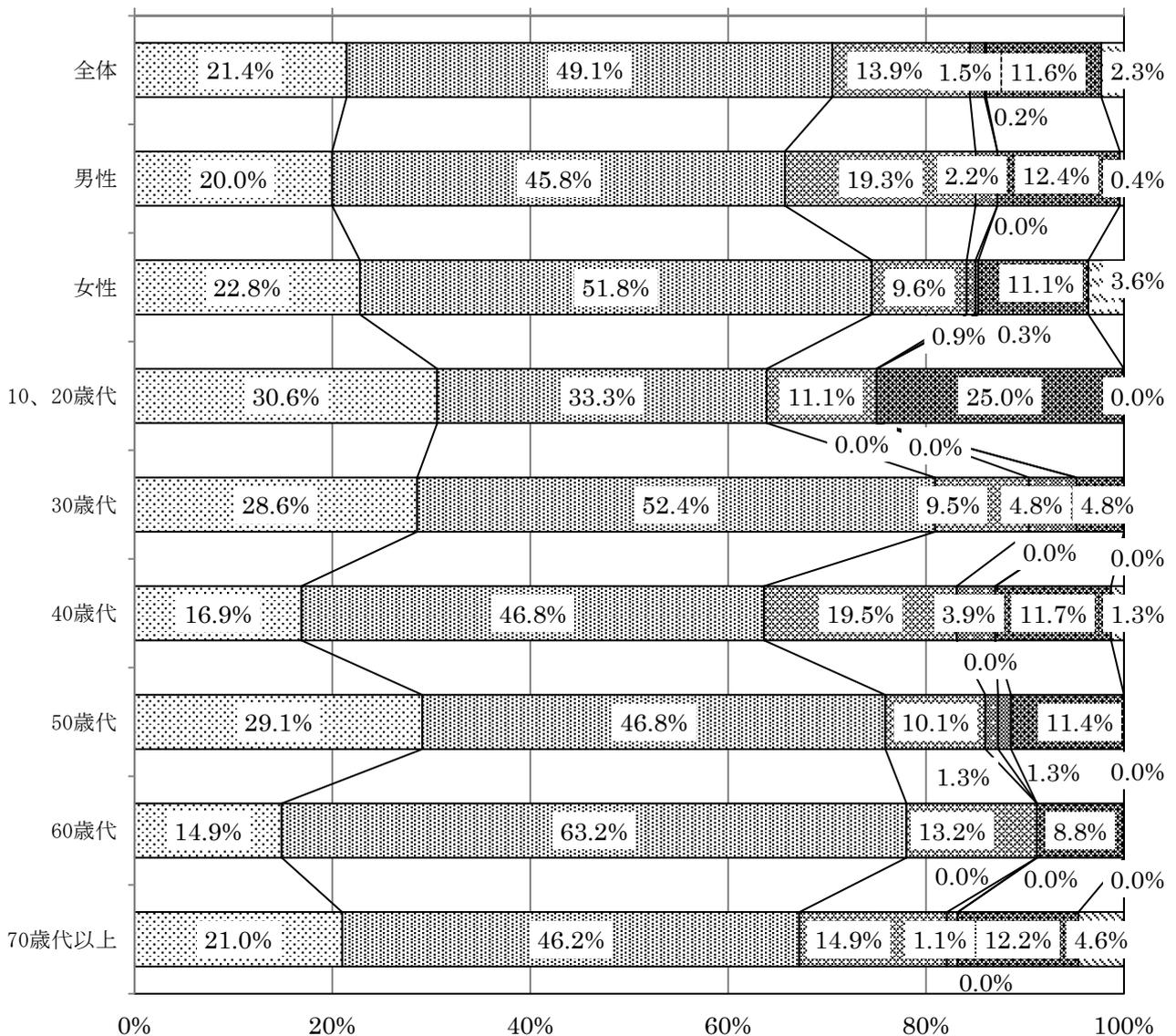
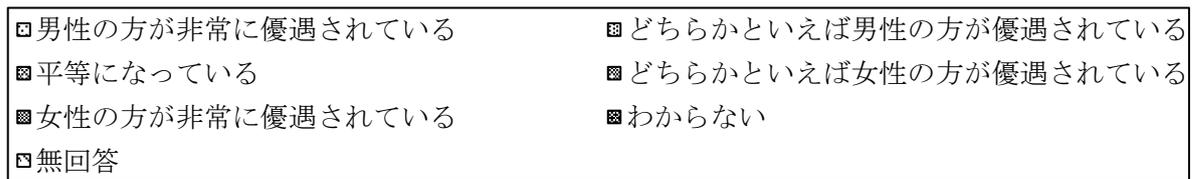


(6) 政治や行政では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は70.5%、「平等」は13.9%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の65.8%に対し、女性は74.6%と8.8ポイント高く、「平等」は男性の19.3%に対し、女性は9.6%と9.7ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「男性の方が優遇されている」がすべての年代で60.0%を超えており、特に30歳代では81.0%と最も高くなっています。

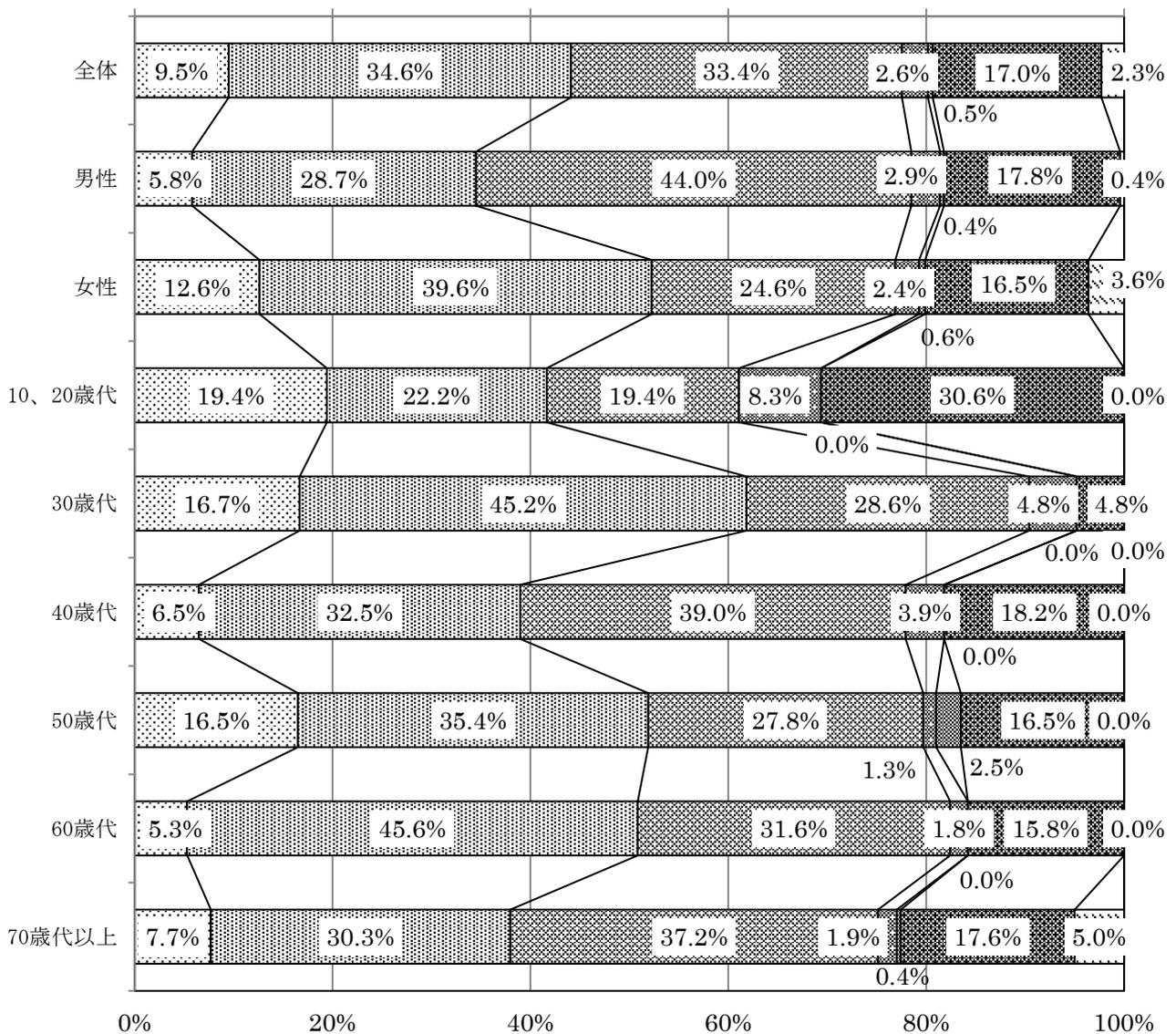
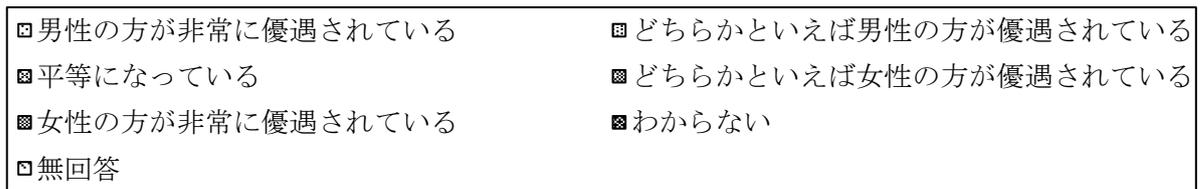


(7) 法律や制度では

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は44.1%、「平等」は33.4%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の34.5%に対し、女性は52.2%と17.7ポイント高く、「平等」は男性の44.0%に対し、女性は24.6%と19.4ポイント低くなっています。

年齢別でみると、30歳代、50歳代、60歳代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、30歳代では61.9%と最も高くなっています。



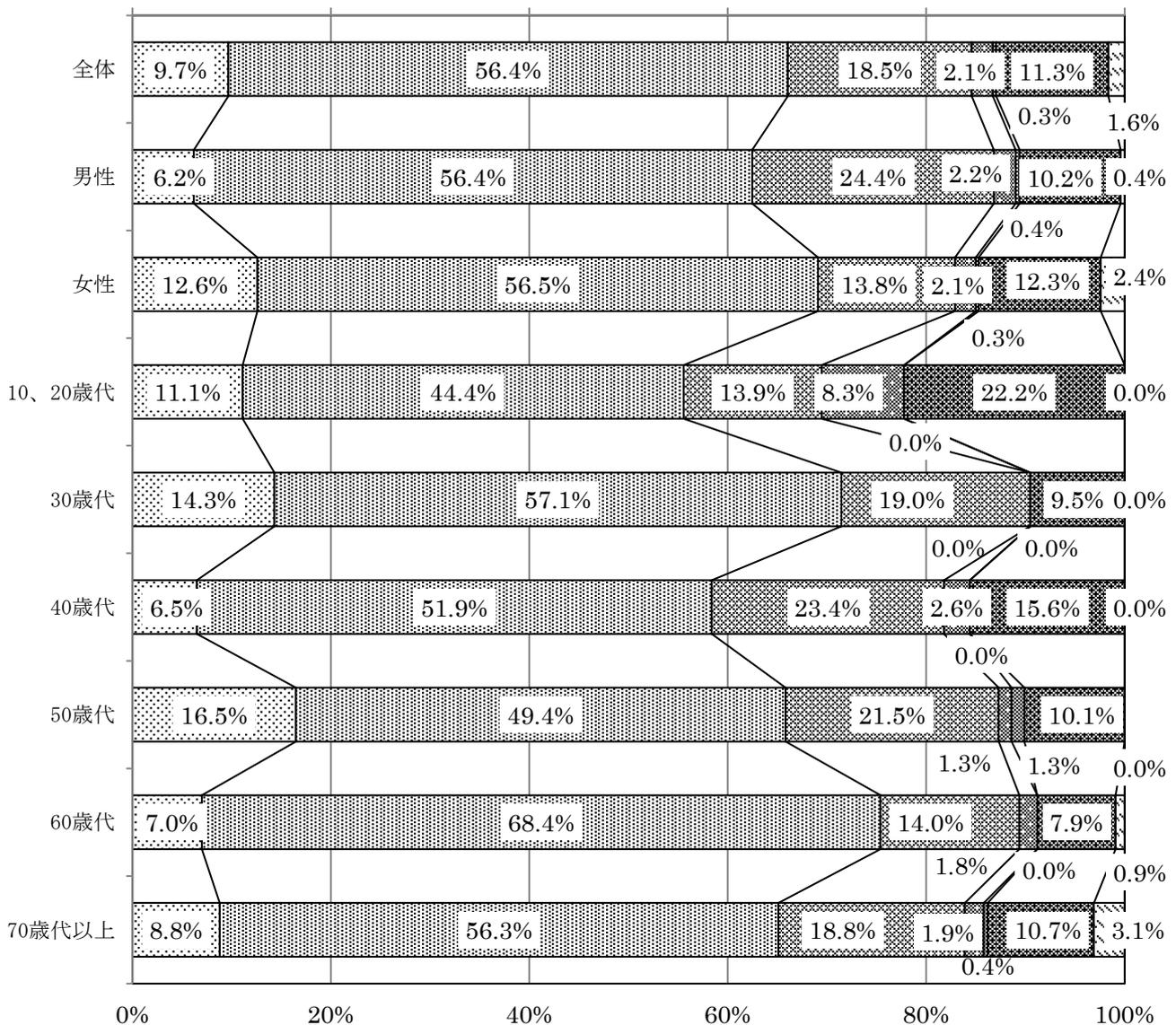
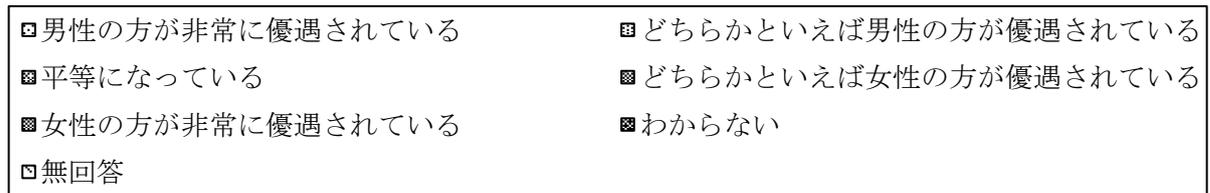
(8) 社会全体として

回答の割合は、「男性の方が優遇されている」は66.1%、「平等」は18.5%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」は男性の62.6%に対し、女性は69.1%と6.5ポイント高く、「平等」は男性の24.4%に対し、女性は13.8%と10.6ポイント低くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」が50.0%を超えており、特に60歳代では75.4%と最も高くなっています。

一方、「平等」は40歳代が23.4%と最も高く、10、20歳代で13.9%と最も低くなっています。

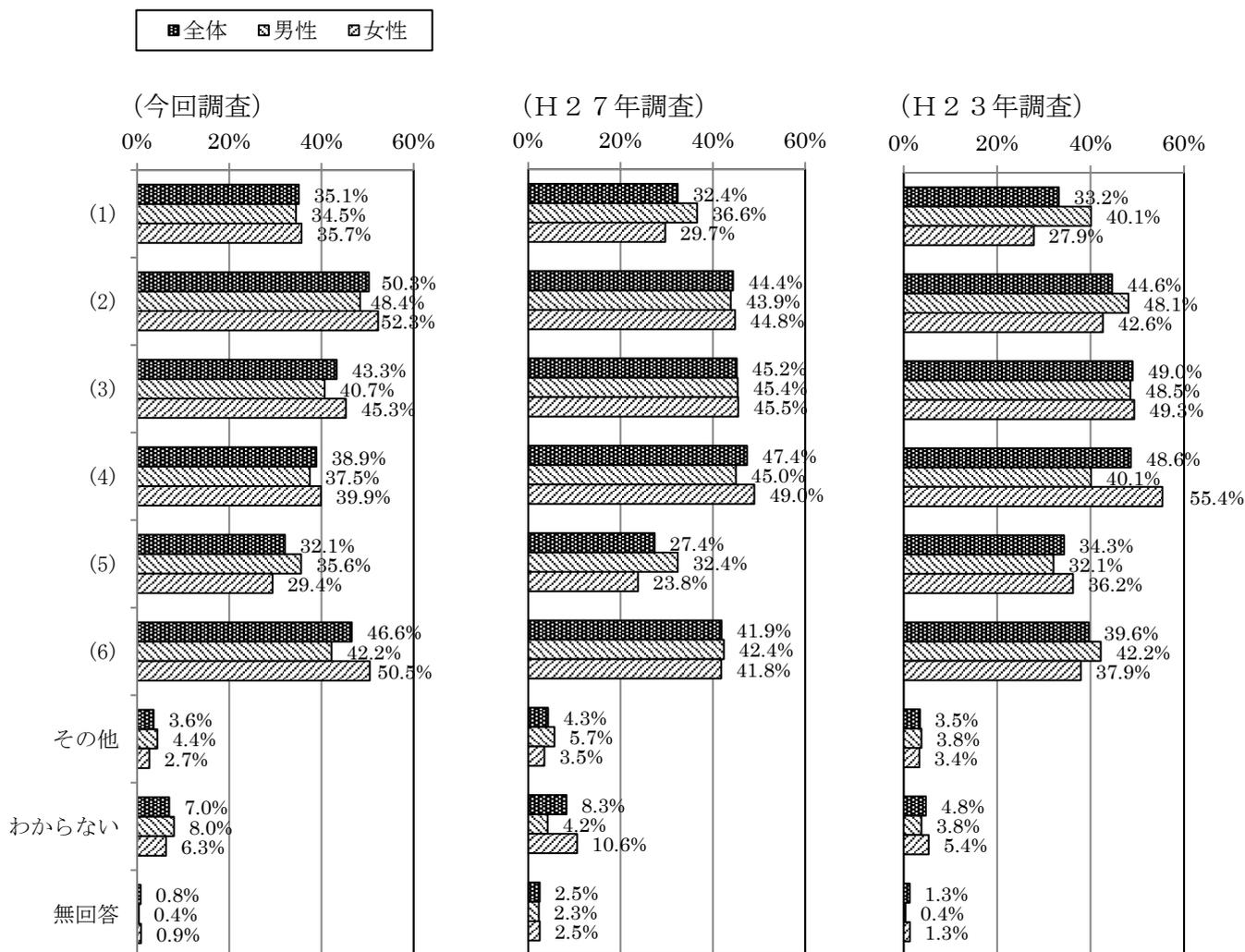


問2 社会のあらゆる分野で、男女が平等になるために重要なことは何だと思いますか。
(3つまで回答可)

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこととしては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」が50.3%と最も高く、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」(46.6%)が続き、以下「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(43.3%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」(38.9%)の順となっています。

性別でみると、男性は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」(48.4%)、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」(42.2%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(40.7%)の順、女性は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」(52.3%)、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」(50.5%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる」(45.3%)の順となっています。

また、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」は男性で42.2%、女性で50.5%と女性の方が8.3ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女の間での回答率の差が大きくなっています。



※複数回答のため、合計が100%を超えます。

【選択肢】

- (1) 法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改める
- (2) 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める
- (3) 女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる
- (4) 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
- (5) 行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用する
- (6) 子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える

<その他意見>

- ・そもそも本問から男女が平等の社会を築く為の邪魔になっているように思う。「男か」「女か」「女性差別」等の言葉があるだけで違うように感じる (20 歳代・男性)
- ・この項目が女性を差別しているように感じます。(30 歳代・男性)
- ・子育てにおける様々な役割を完全に平等とする社会通念を一般化する (40 歳代・女性)
- ・この項目に男性について書かれていない時点で平等ではない。(20 歳代・女性)
- ・能力のある女性はどんどん社会進出していると思う。(5) のような制度は能力のない女性が役職についてしまうのでやめてほしい (50 歳代・女性)
- ・そもそも、平等とは何なのか、男女と質問しているが、男女+年令、考え方等 (本人の価値観等) を含める総合的な判断が必要 (60 歳代・男性)
- ・実力主義にすれば、男女の差など無くなる。「平等=同じ」ではない、男女に違いはある。数で揃えるなどとは愚かな&貧弱な発想である。(60 歳代・男性)
- ・給料の差別 民間は時にその様なことが多い (60 歳代・女性)
- ・現状にて可とする (70 歳代以上・男性)
- ・男性が社会で優遇されれば、女性は家庭にいる事もできるし、平等がいいというわけでもないと思う。(50 歳代・女性)
- ・個人の問題 (50 歳代・女性)
- ・女性自身も自覚を持ち、社会的にも活動出来る様にする。(70 歳代以上・男性)
- ・一定割合で女性を登用するのではなく、職業生活で活躍したいと思う女性を増やす教育風土をつくる。(30 歳代・男性)
- ・無理だと思う。(30 歳代・男性)
- ・男女平等は無理と思います (70 歳代以上・女性)
- ・男女平等にしてほしいと思わない (50 歳代・女性)
- ・働きやすく (女性が) する為の子育て環境。小学生も含める。乳・幼児は手厚いが (40 歳代・女性)
- ・無理強いほしくない方が良いのでは (60 歳代・男性)

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。

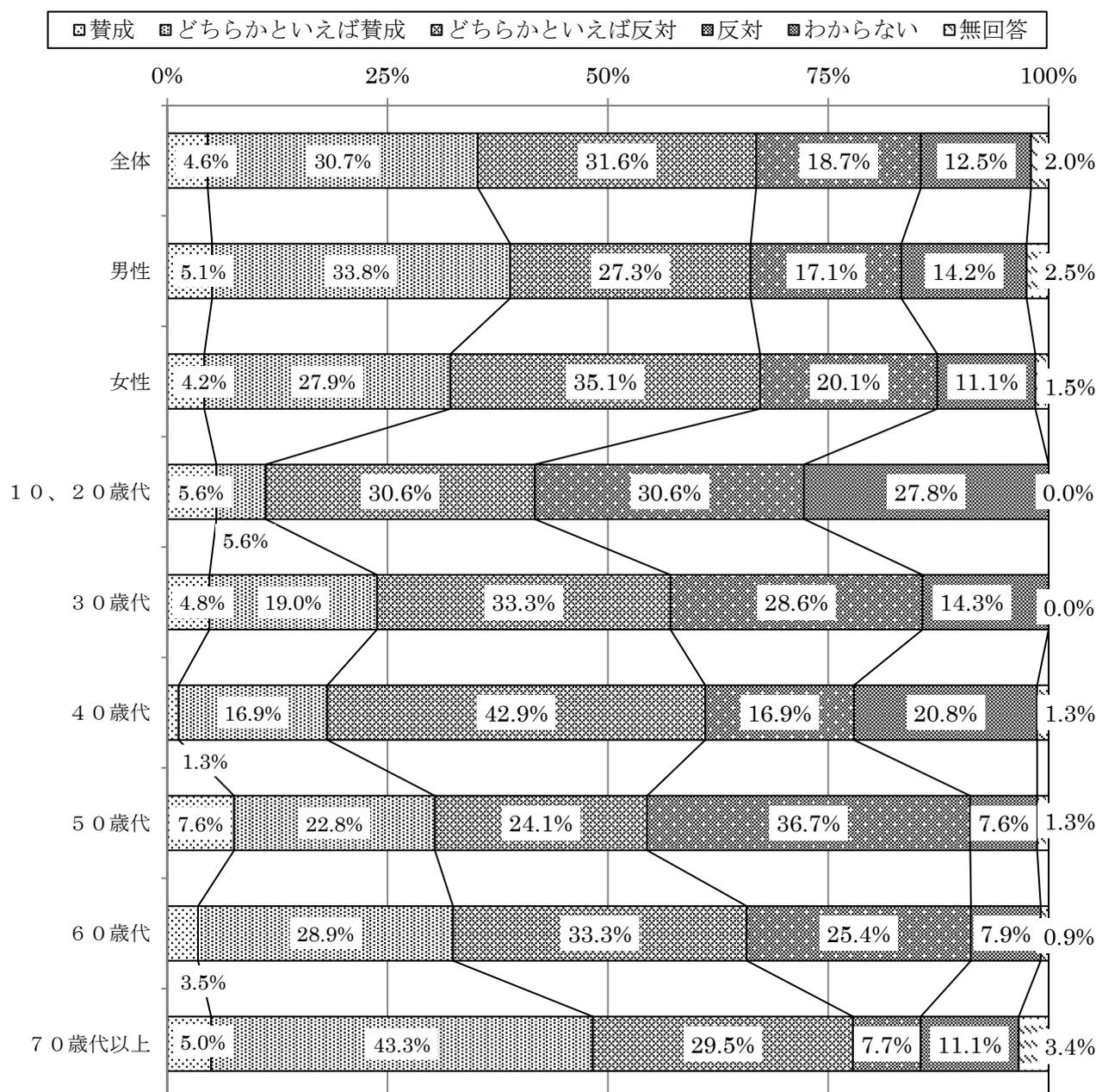
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」と答えた方が35.3%、性別で見ると男性が38.9%、女性が32.1%と男性が6.8ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、70歳代以上で「賛成」が48.3%と最も高くなっています。

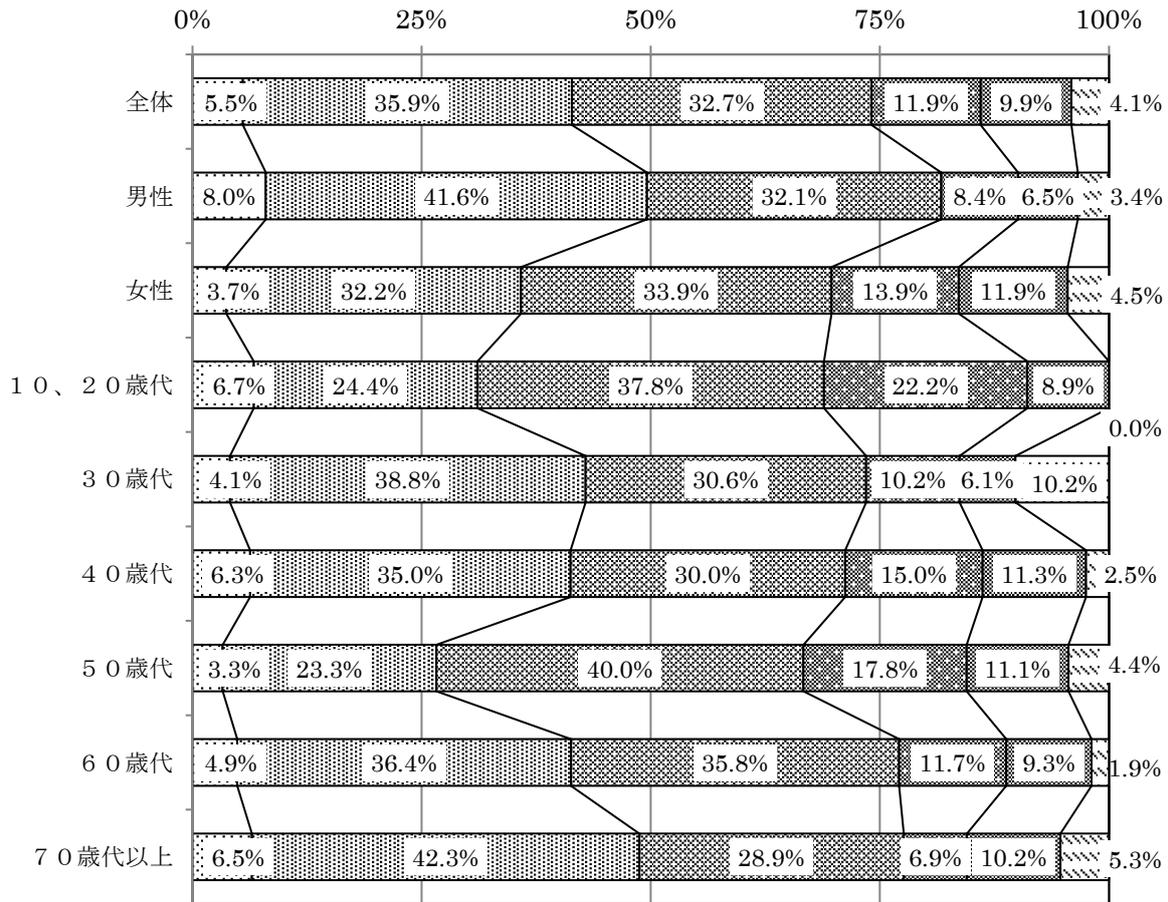
また、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた「反対」と答えた方が50.3%、性別で見ると男性が44.4%、女性が55.2%と女性が10.8ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、30歳代で「反対」が61.9%と最も高くなっています。

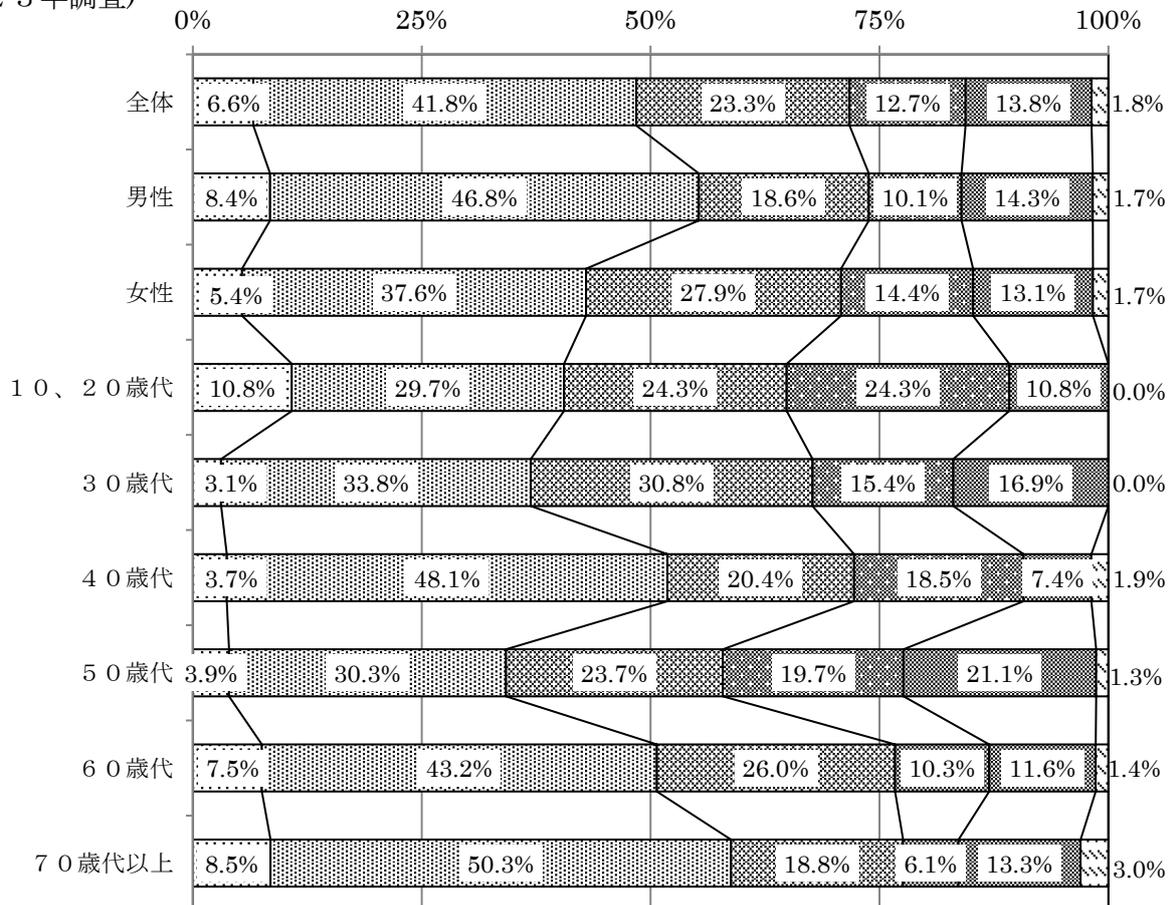
(今回調査)



(H27年調査)



(H23年調査)



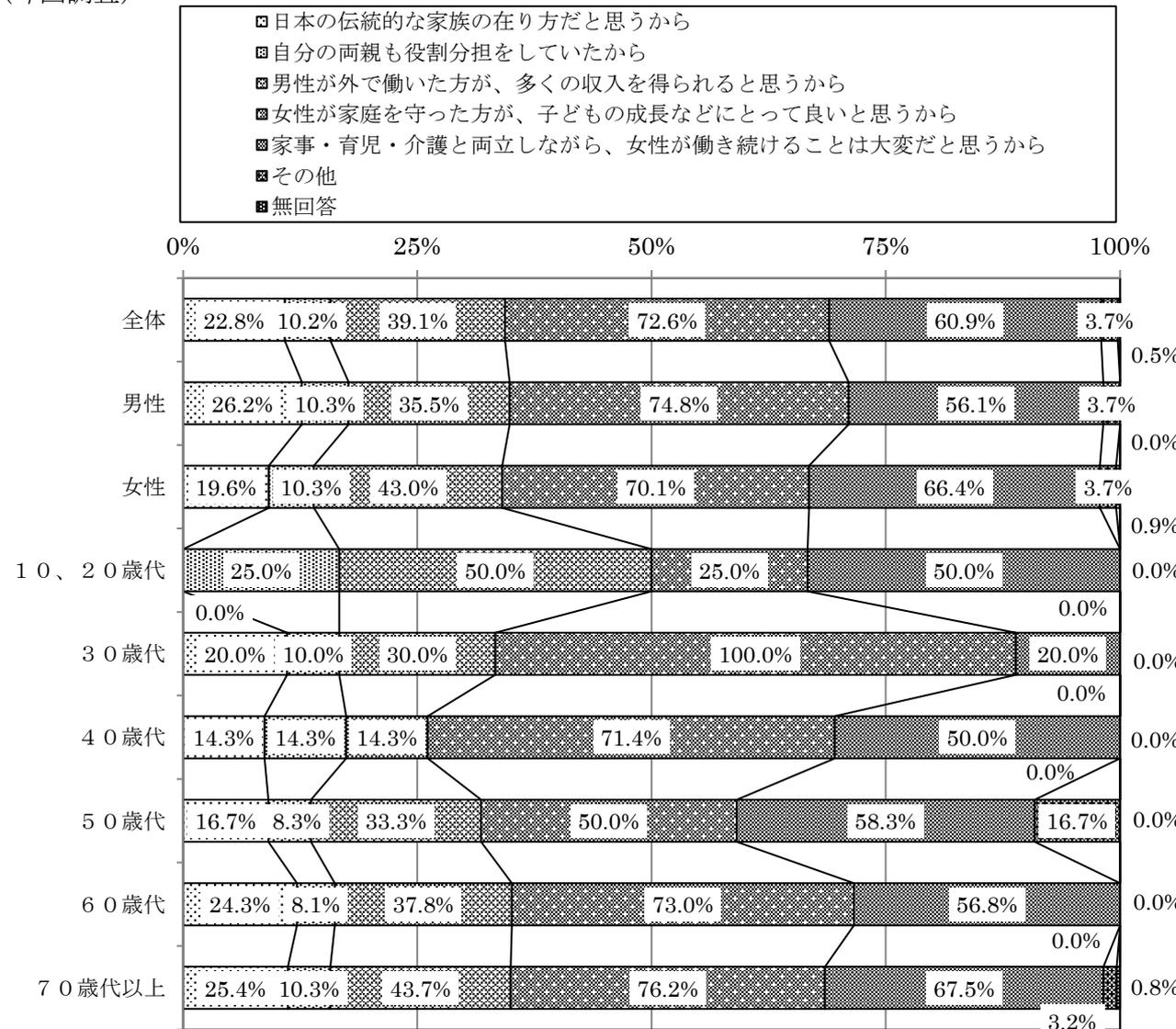
**問4 問3で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。
なぜそう思いましたか。 (3つまで回答可)**

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方の理由としては、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が72.6%と最も高く、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(60.9%)、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(39.1%)の順となっています。

性別で見ると、男性、女性とも「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」(男性74.8%。女性70.1%)、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(男性56.1%、女性66.4%)、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(男性35.5%、女性43.0%)の順となっています。

また、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」は女性の方が10.3ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女間での回答率の差が大きくなっています。

(今回調査)



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
※今回から回答の選択肢を変更しています。

【選択肢】

- (1) 日本の伝統的な家族の在り方だと思ふから
- (2) 自分の両親も役割分担をしていたから
- (3) 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思ふから
- (4) 女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思ふから
- (5) 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思ふから

<その他意見>

- ・子供が小さいうちは特に母親の役割は大きいと思ふから(50歳代・女性)
- ・子供が小さい間は母親のおっぱいと愛情は必要(50歳代・男性)
- ・子供から手がはなれたら働きに出る(70歳代以上・女性)
- ・女性は子どもを産むから(50歳代・女性)
- ・女性の方が細かい事に気を配ることができると思ふから。(50歳代・男性)
- ・男と女では、気づかひの違いがあるので(70歳代以上・女性)
- ・子供の将来の基本的なしつけが大事(70歳代以上・男性)
- ・哺乳類の子育ては全て母親(70歳代以上・男性)

(H27年調査)

- ☐ 男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから
- ▨ 家族を養うのは男性の責任で、家族の世話は女性の責任だから
- ▩ 女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから
- ▧ 職場で男女の待遇に差があるから
- ▦ 夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから
- ▤ 子どもに良くない影響が出るから
- ▥ その他
- 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
 (※今回調査とは回答の選択肢が異なります。)

【選択肢】

- (1) 男性は仕事、女性は家事や育児に向いているから
- (2) 家族を養うのは男性の責任で、家族の世話は女性の責任だから
- (3) 女性が働きに出ると、子育て・家事・介護にさしつかえるから
- (4) 職場で男女の待遇に差があるから
- (5) 夫婦の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから
- (6) 子どもに良くない影響が出るから

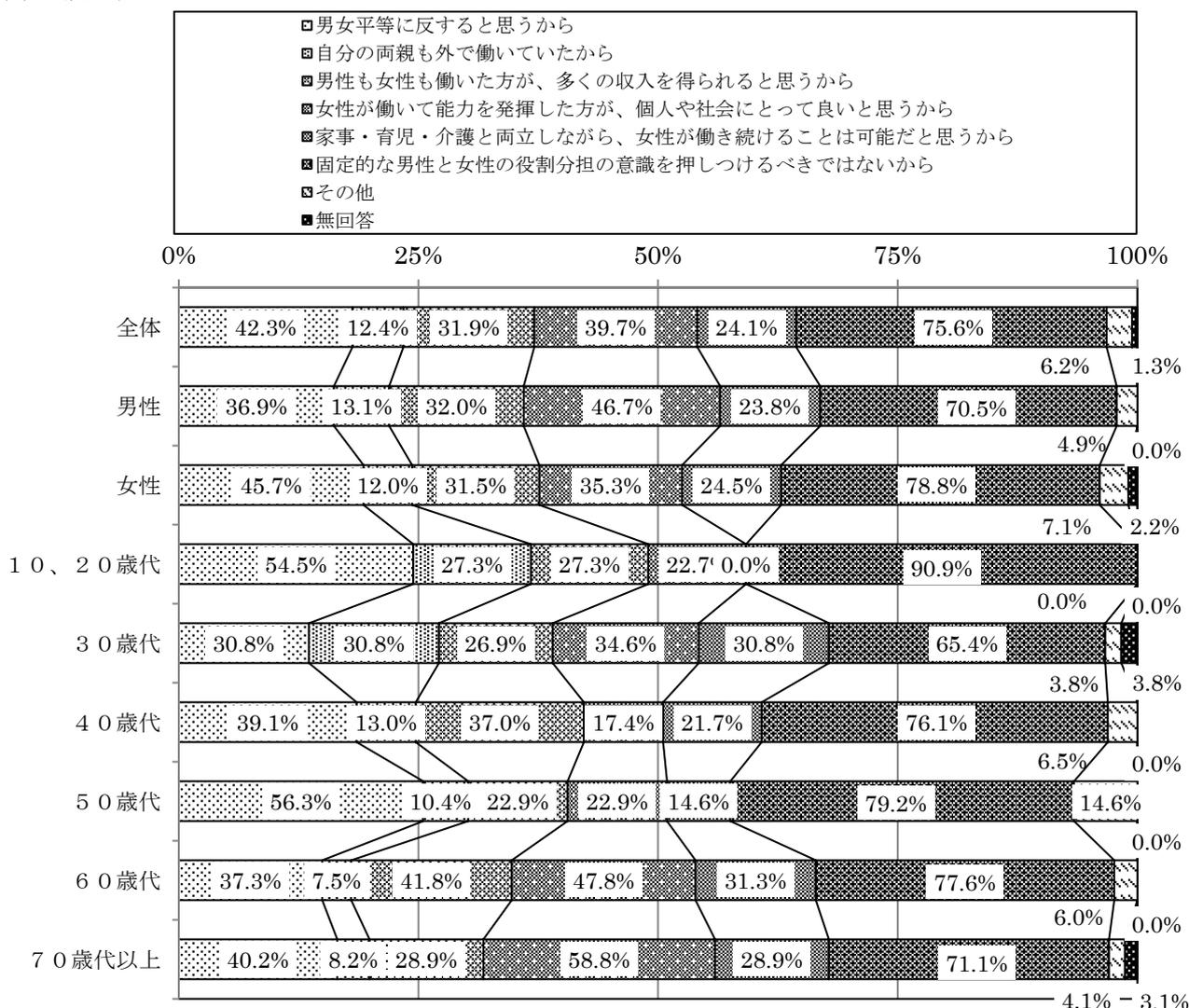
問5 問3で「どちらかといえば反対」「反対」と答えた方におたずねします。
なぜそう思いましたか。 (3つまで回答可)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた方の理由としては、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が75.6%と最も高く、「男女平等に反すると思うから」(42.3%)、「女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(39.7%)の順となっています。

性別でみると、男性の回答は「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(70.5%)、「女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(46.7%)、「男女平等に反すると思うから」(36.9%)の順、女性の回答は「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(78.8%)、「男女平等に反すると思うから」(45.7%)、「女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(35.3%)の順となっています。

また、「女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は男性で46.7%、女性で35.3%と男性の方が11.4ポイント高くなっており、他の選択肢に比べ、男女間での回答率の差が大きくなっています。

(今回調査)



※複数回答のため、合計が100%を超えます。

※今回から回答の選択肢を変更しています。

【選択肢】

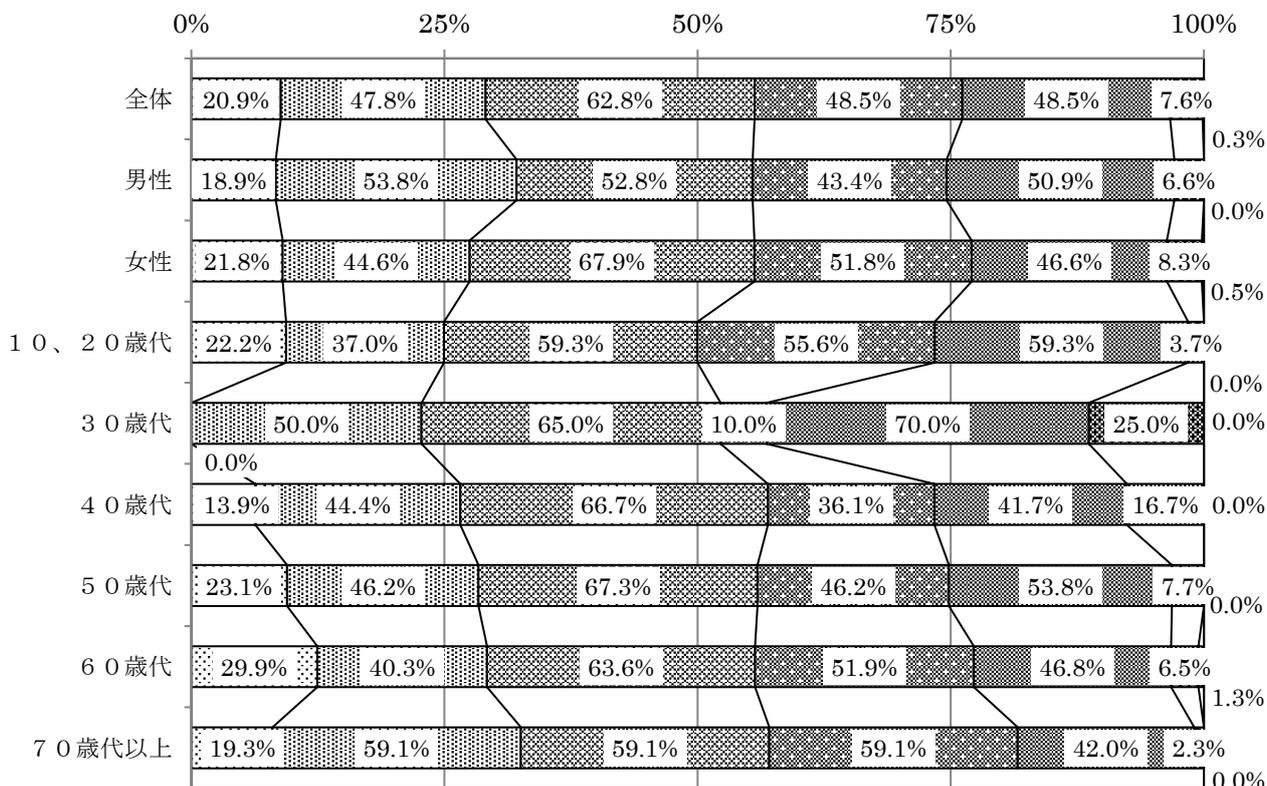
- (1) 男女平等に反すると思うから
- (2) 自分の両親も外で働いていたから
- (3) 男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- (4) 女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
- (5) 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから
- (6) 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから

<その他意見>

- ・色々考えがあっというと思うから。(50 歳代・女性)
- ・社会に出ての方が考え方がかたよらない(50 歳代・女性)
- ・女は家庭…では無給で結果収入を得る男の方がお金を握って立場が強い。(40 歳代・女性)
- ・家事が何も出来ない男性が多い(60 歳代・男性)
- ・今後の日本社会に女性の社会進出は不可欠(少子化による労働力不足)(50 歳代・女性)
- ・これからの高齢化社会、人口減少においてどちらがと言う事はないと思う(60 歳代・男性)
- ・本人の意思が大切(70 歳代以上・男性)
- ・共働きであれば、家事等も平等に負担すべきと思うから(30 歳代・男性)
- ・向き不向きがあるから(40 歳代・女性)
- ・男の収入より女の方が多く場合もある(50 歳代・女性)
- ・3 つまでとありますが行政など女性が働ける環境がつくられてはじめて(5)も○につけられます。(70 歳代以上・女性)
- ・自分は適当にやってきた。(70 歳代以上・女性)
- ・現在男性一人の収入では結婚は出来ても子供は持てないと思う(70 歳代以上・男性)
- ・これからの世の中 男女役割を決めるのではなく自分が出来る方を自由を選んで行ける様になれば良いのでは…(50 歳代・女性)
- ・(5) 自体の考え方がおかしい(50 歳代・女性)
- ・生活が出来るのであれば役割分担が反対でも良い(60 歳代・男性)
- ・男性も女性も仕事をしたければすればいいし、家事をしたければすればいいと思うから(40 歳代・女性)
- ・お互いが出来る事はすれば良い(60 歳代・女性)
- ・得意なことをすればよいと思う(50 歳代・女性)

(H27年調査)

- 女性が家庭にいると社会的に孤立し、良くないから
- 男女平等の観点から
- 仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから
- 子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をしても良いと思うから
- 女性がそう望むのであれば反対する理由がないから
- その他
- 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
 (※今回調査とは回答の選択肢が異なります。)

【選択肢】

- (1) 女性が家庭にいると社会的に孤立し、良くないから
- (2) 男女平等の観点から
- (3) 仕事は女性にとっても自己実現（生きがい、能力の発揮）の場であるから
- (4) 子育て・家事・介護がおろそかにならない範囲であれば仕事をしても良いと思うから
- (5) 女性がそう望むのであれば反対する理由がないから

問6 仕事における男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。

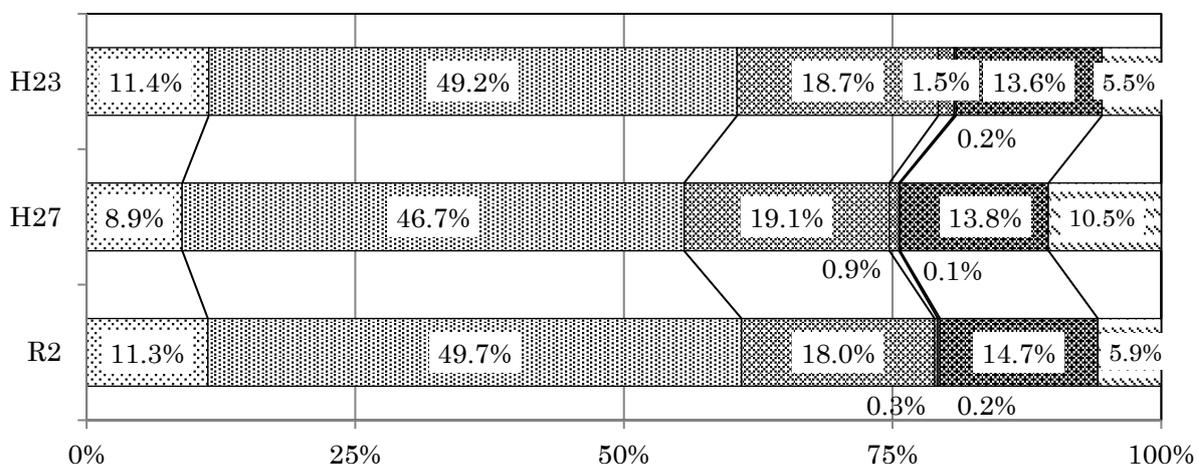
仕事における男女の扱いについて、「平等になっている」が最も多かったものは1項目もなく、「退職・解雇」が25.2%（前回20.3%）、「募集や採用」が18.0%（前回19.1%）、「仕事の内容」が16.8%（前回18.5%）、「賃金」が15.2%（前回12.9%）、「昇進・昇格」が9.7%（前回6.5%）となっています。

また、「男性の方が優遇されている」が全ての項目で多く、「昇進・昇格」が71.3%（前回69.9%）、「賃金」が66.4%（前回63.8%）、「募集や採用」が61.0%（前回55.6%）、「仕事の内容」が51.5%（前回47.1%）、「退職・解雇」が44.1%（前回43.1%）となっています。

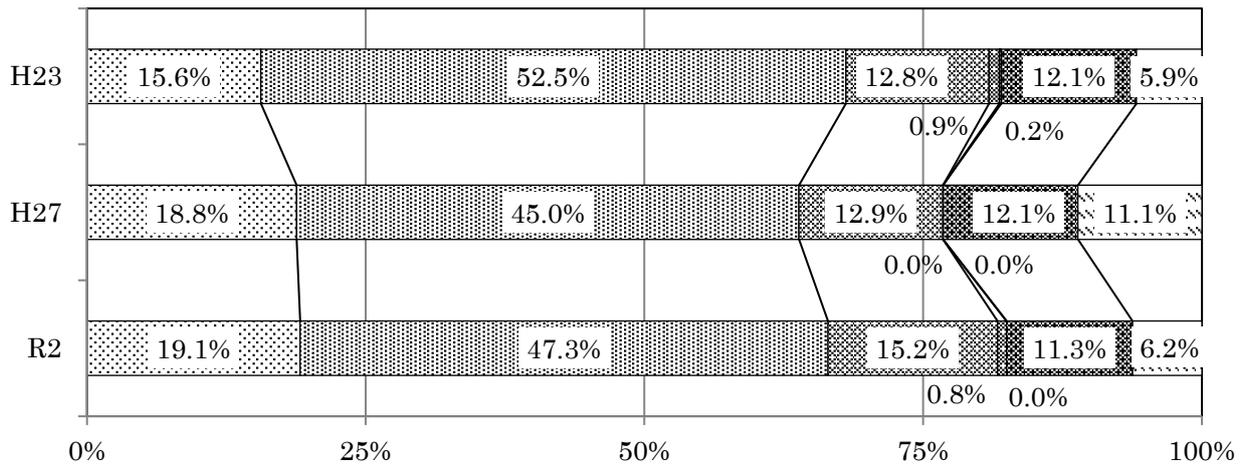
なお、「女性の方が優遇されている」はいずれの項目でも低くなっています。

- ☐ 男性の方が非常に優遇されている
- ☑ 平等になっている
- ☒ 女性の方が非常に優遇されている
- ☐ 無回答
- ☒ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ☒ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ☒ わからない

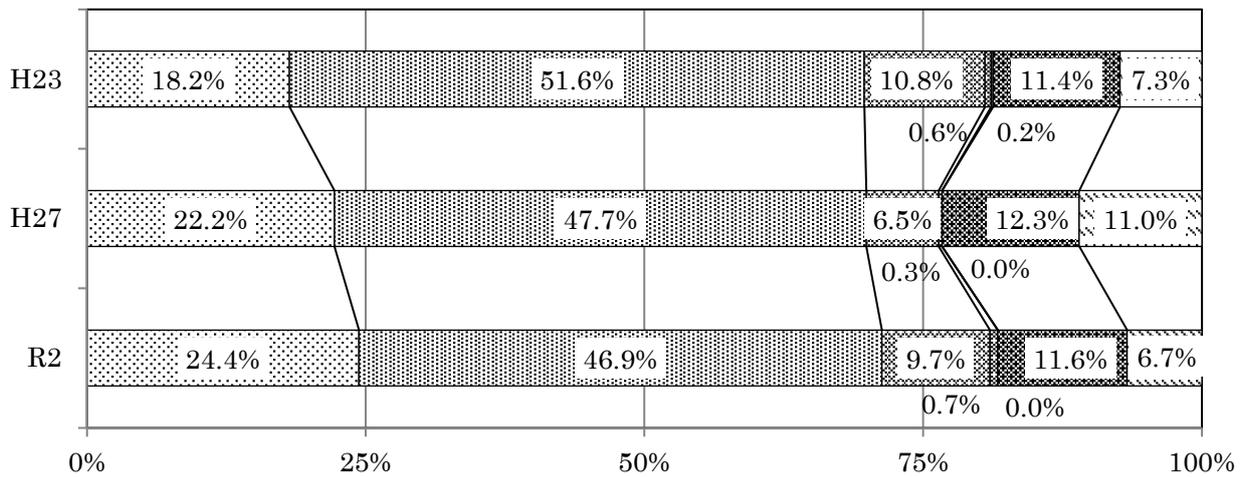
(1) 募集や採用



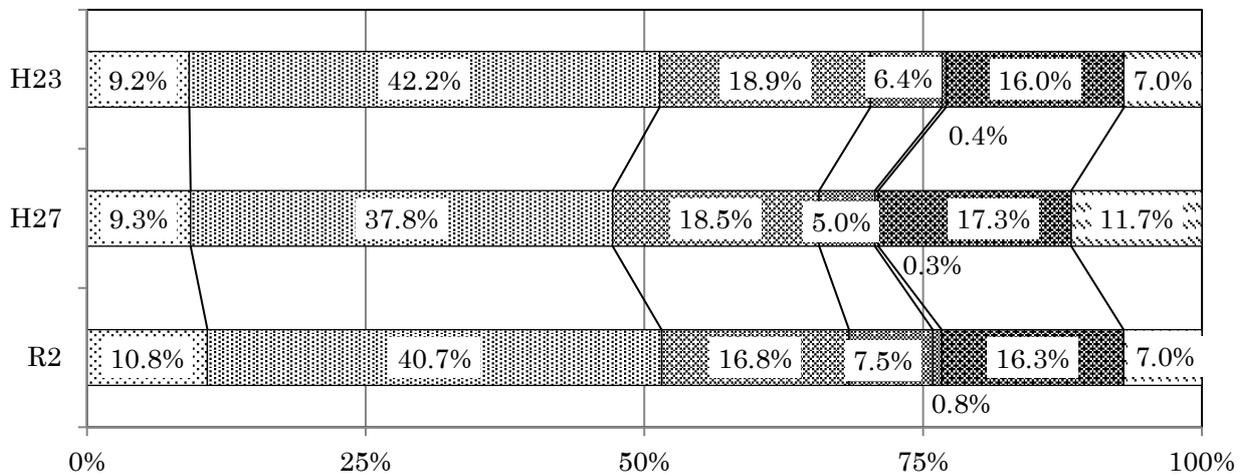
(2) 賃金



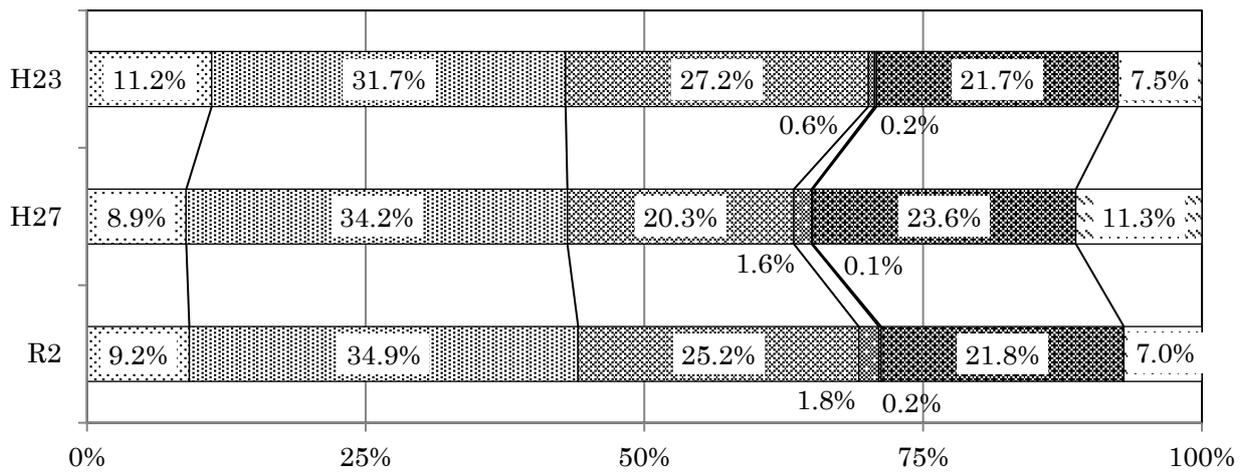
(3) 昇進・昇格



(4) 仕事の内容



(5) 退職・解雇

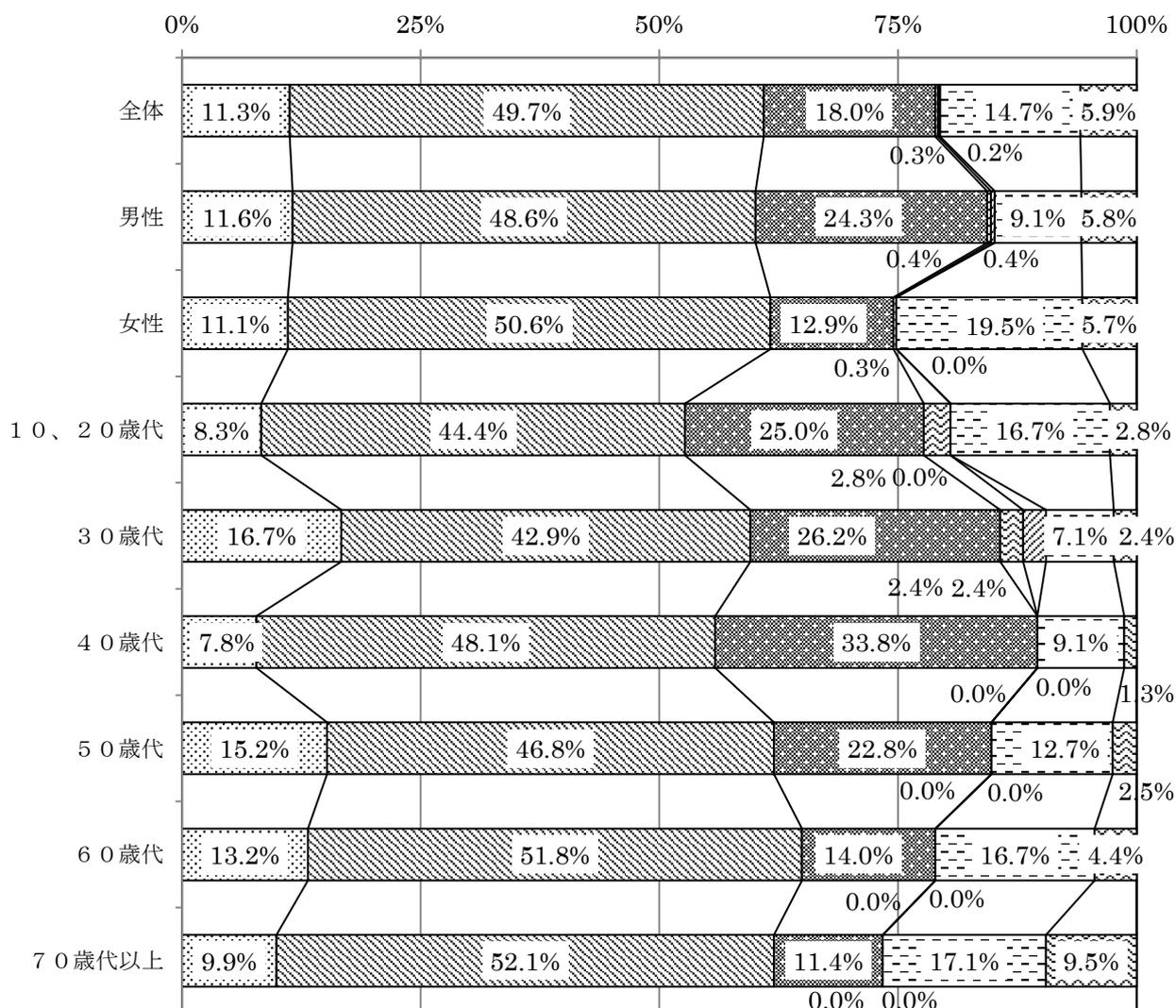
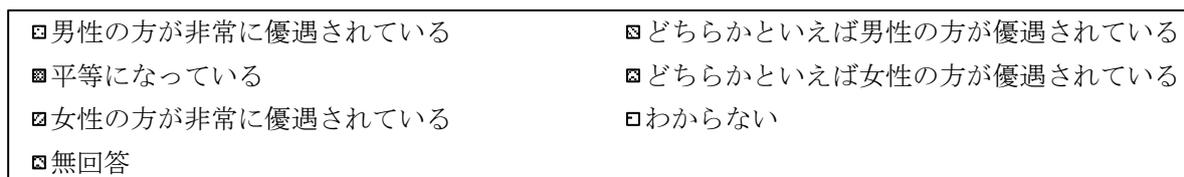


(1) 募集や採用

募集や採用については、「平等になっている」は18.0%、「男性の方が優遇されている」は61.0%となっています。

性別で見ると、「平等になっている」は男性の24.3%に対し、女性は12.9%と11.4ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

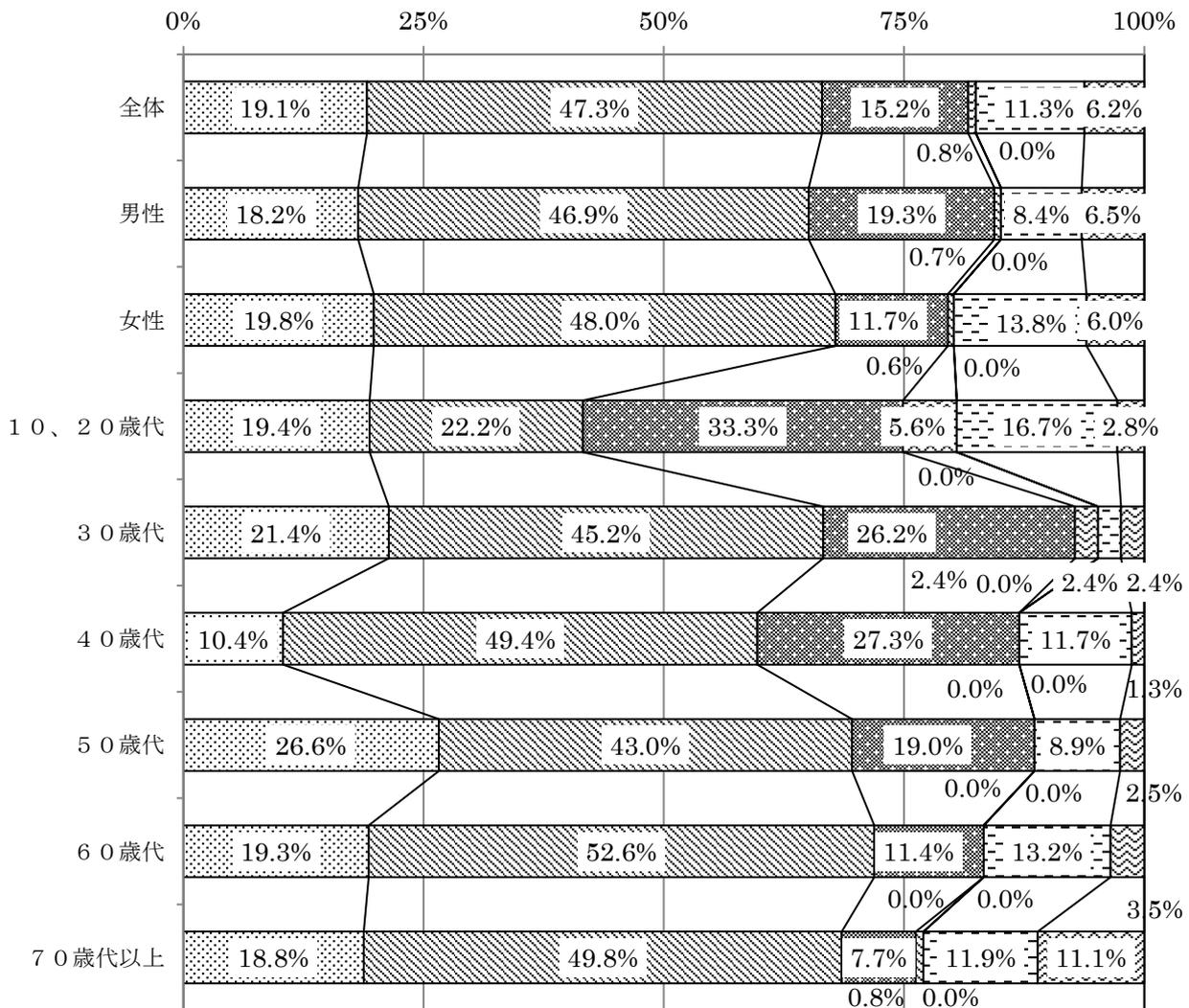
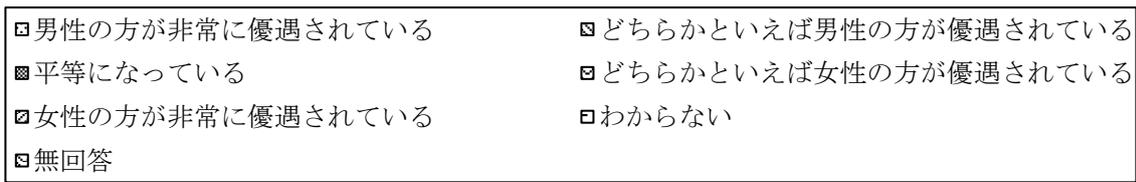


(2) 賃金

賃金については、「男性の方が優遇されている」は66.4%、「平等になっている」は15.2%となっています。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」は男性の65.1%に対し、女性は67.8%とほぼ同じで、「平等になっている」は男性の19.3%に対し、女性は11.7%と7.6ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、30歳代以上の各年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

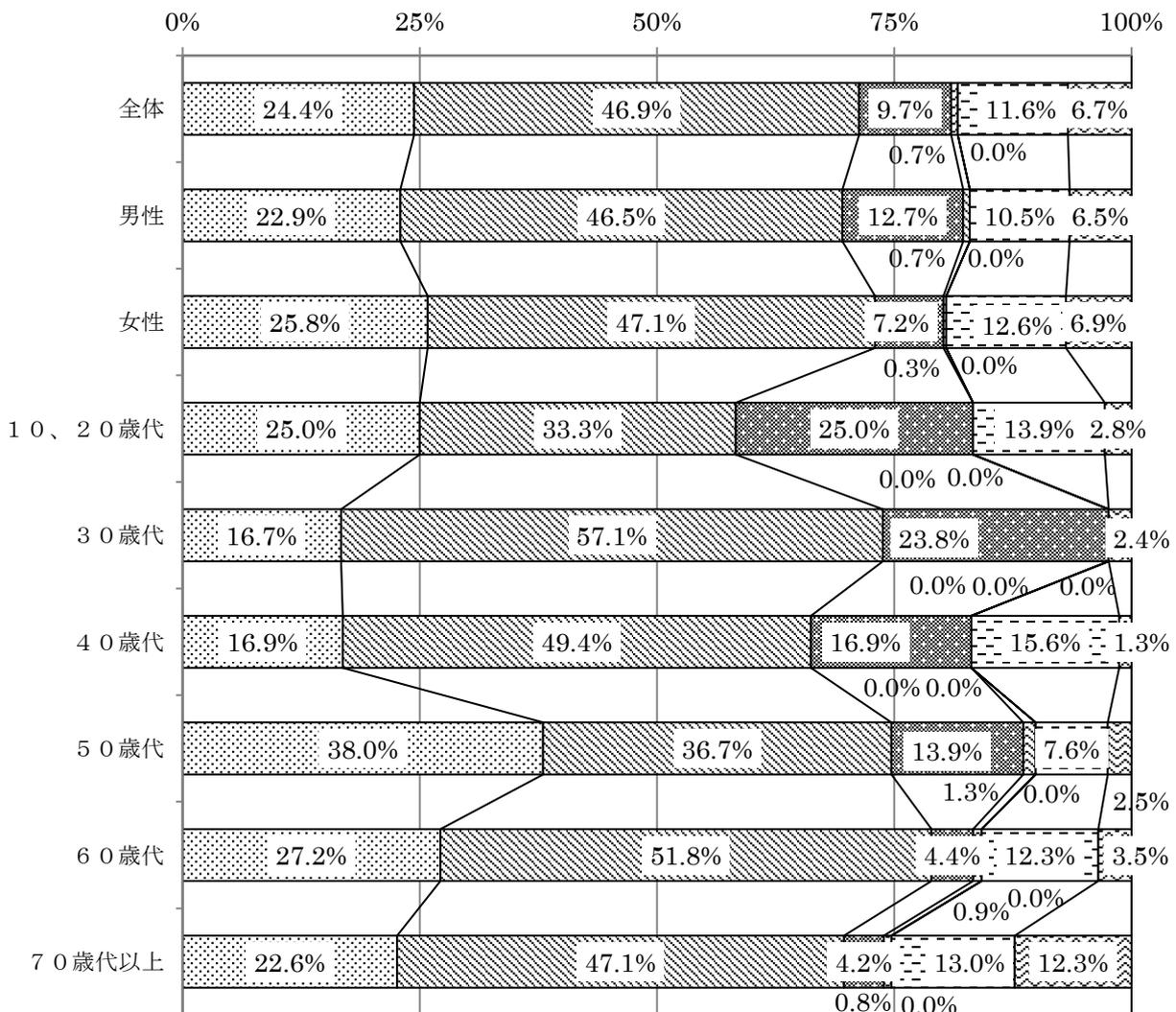
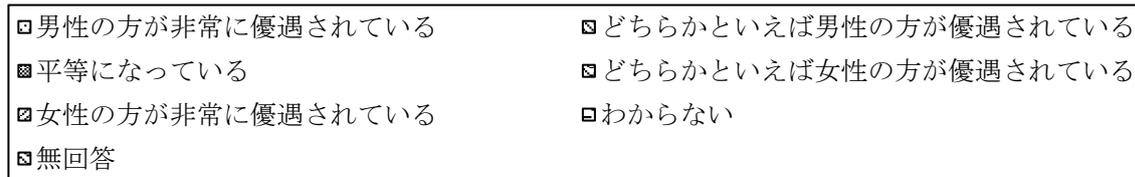


(3) 昇進・昇格

昇進・昇格については、「男性の方が優遇されている」は71.3%、「平等になっている」は9.7%となっています。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」は男性の69.4%に対し、女性は72.9%と3.5ポイント高く、「平等になっている」は男性の12.7%に対し、女性は7.2%と5.5ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、50歳代以外の各年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

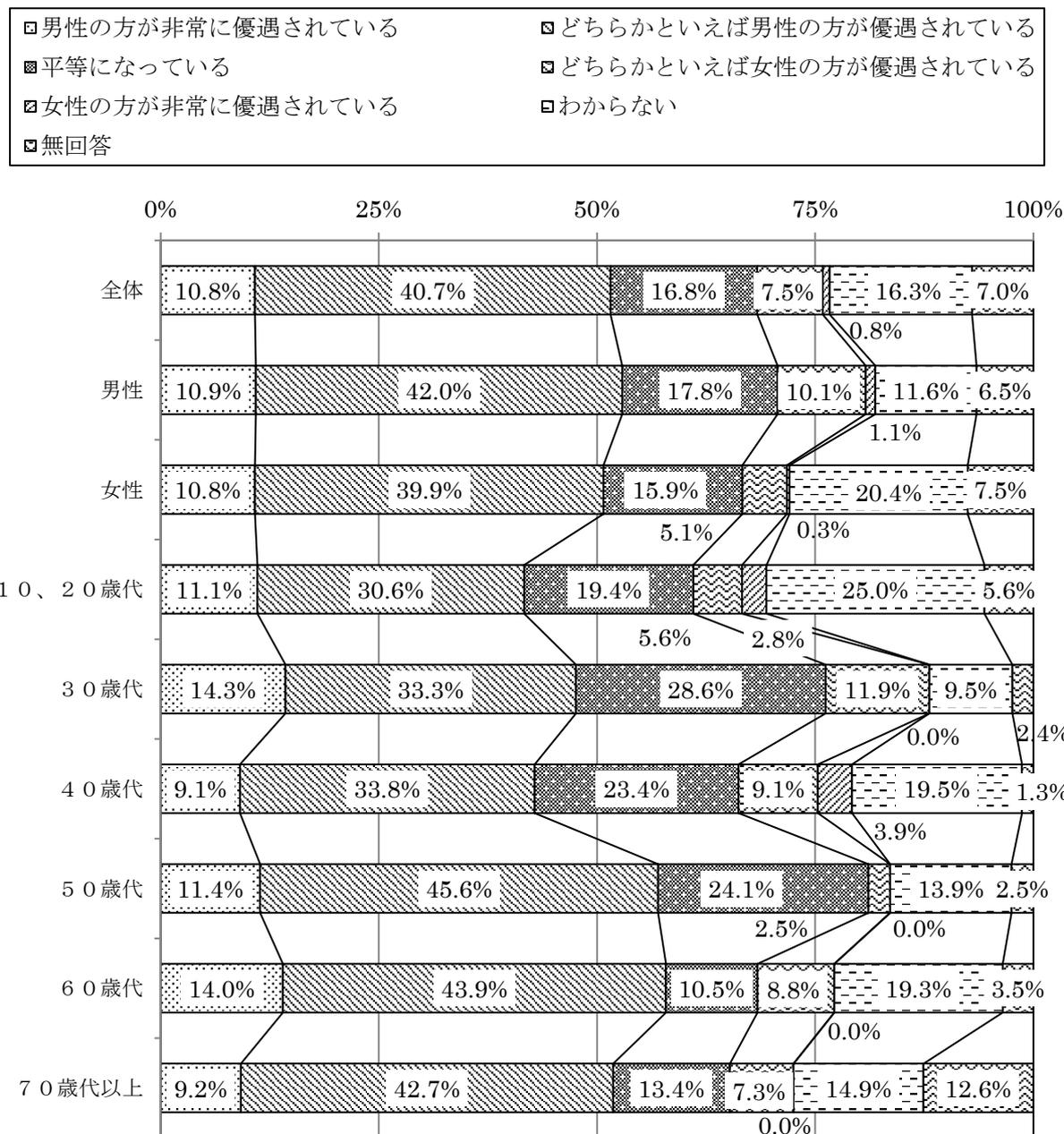


(4) 仕事の内容

仕事の内容については、「平等になっている」は16.8%、「男性の方が優遇されている」は51.5%となっています。

性別でみると、「平等になっている」は男性の17.8%に対し、女性は15.9%とほぼ同じで、「男性の方が優遇されている」は男性の52.9%に対し、女性は50.7%と2.2ポイント低くなっています。

年齢別でみると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。

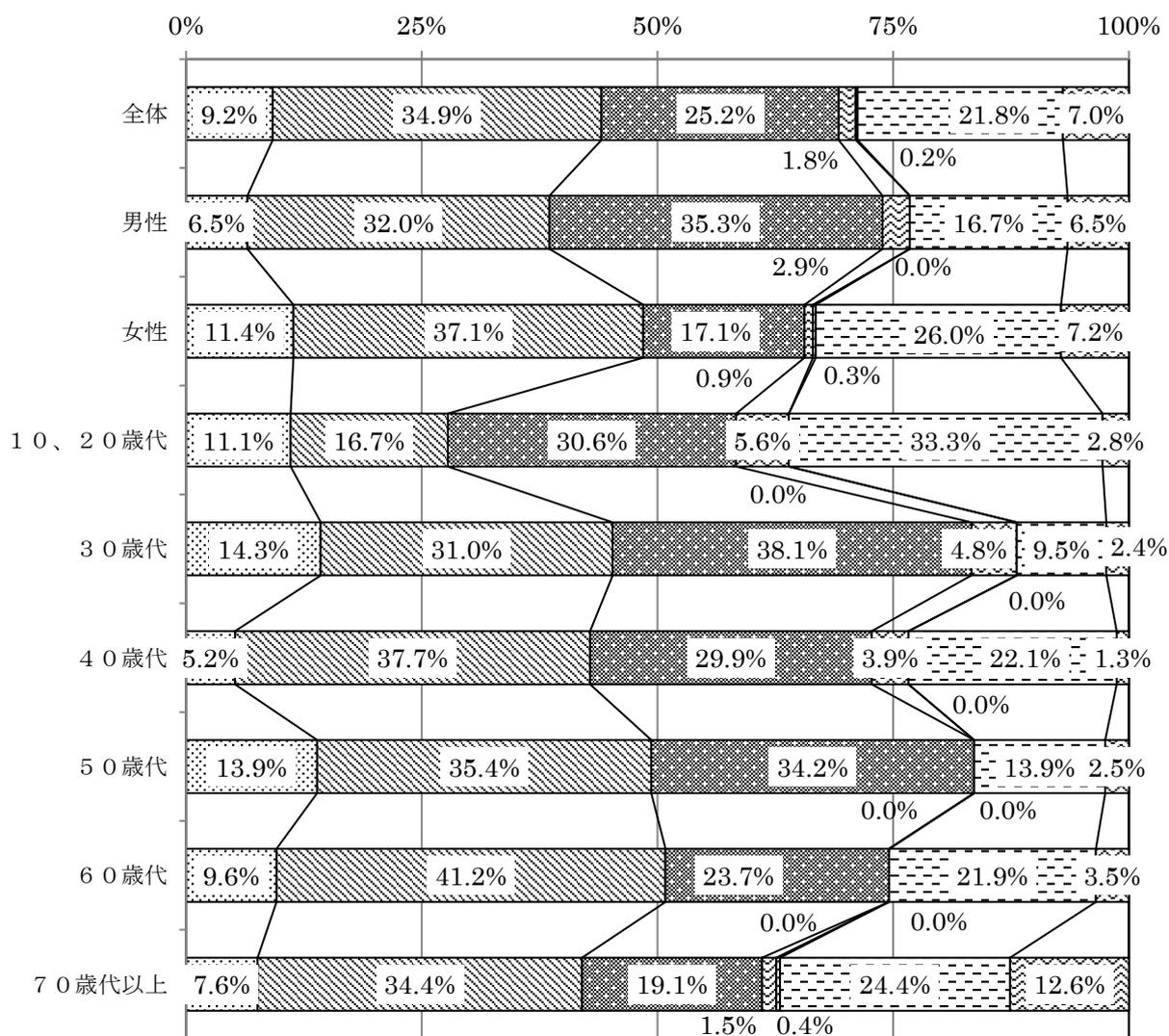
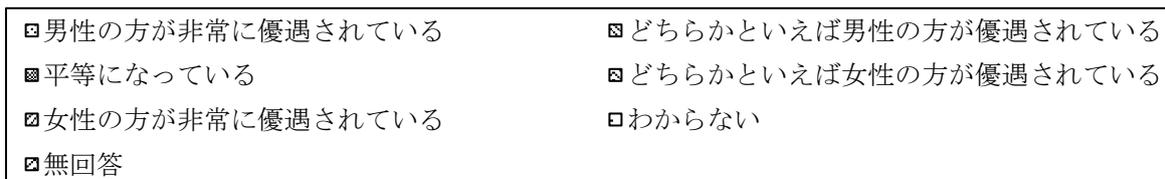


(5) 退職・解雇

退職・解雇については、「平等になっている」は25.2%、「男性の方が優遇されている」は44.1%となっています。

性別で見ると、「平等になっている」は男性の35.3%に対し、女性は17.1%と18.2ポイント低く、「男性の方が優遇されている」は男性の38.5%に対し、女性は48.5%と10.0ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、40歳代以上の各年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっています。



問7 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

女性が仕事を持つことについては、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が40.6%（前回44.9%）と最も高く、以下「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」（29.5%、前回25.2%）、「子どもができるまでは仕事を持つ方がよい」（5.8%、前回7.9%）の順となっています。

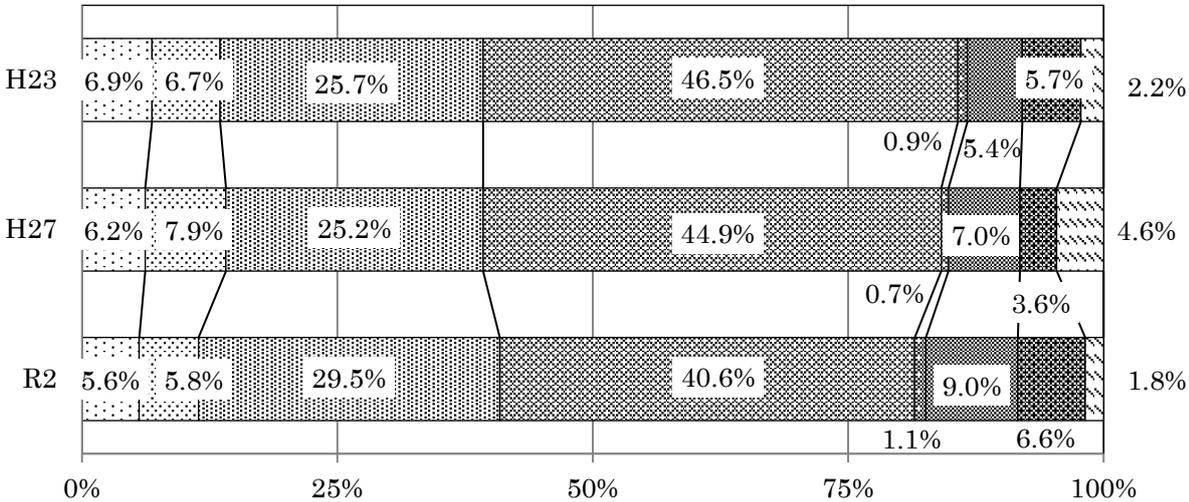
性別でみると、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」は男性の37.2%に対し、女性は43.0%と5.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、10、20歳代から40歳代の若い年代層で「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が最も高くなっています。

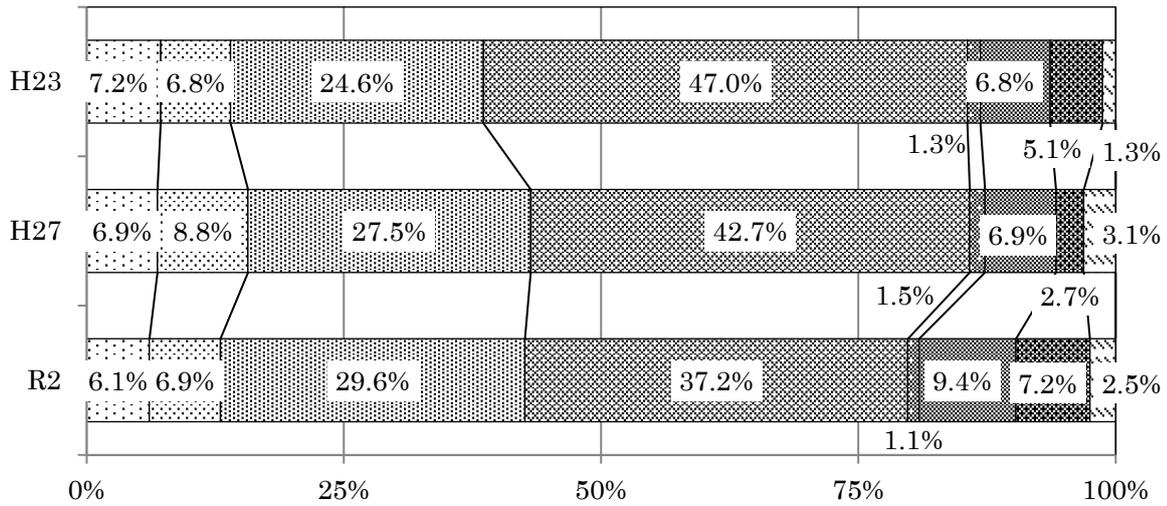
また、「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」については、50歳代以外の各年代で増加しています。

- 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▣子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
- ▤子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい
- ▥子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▦女性は仕事を持たない方がよい
- ▧その他
- ▨わからない
- ▩無回答

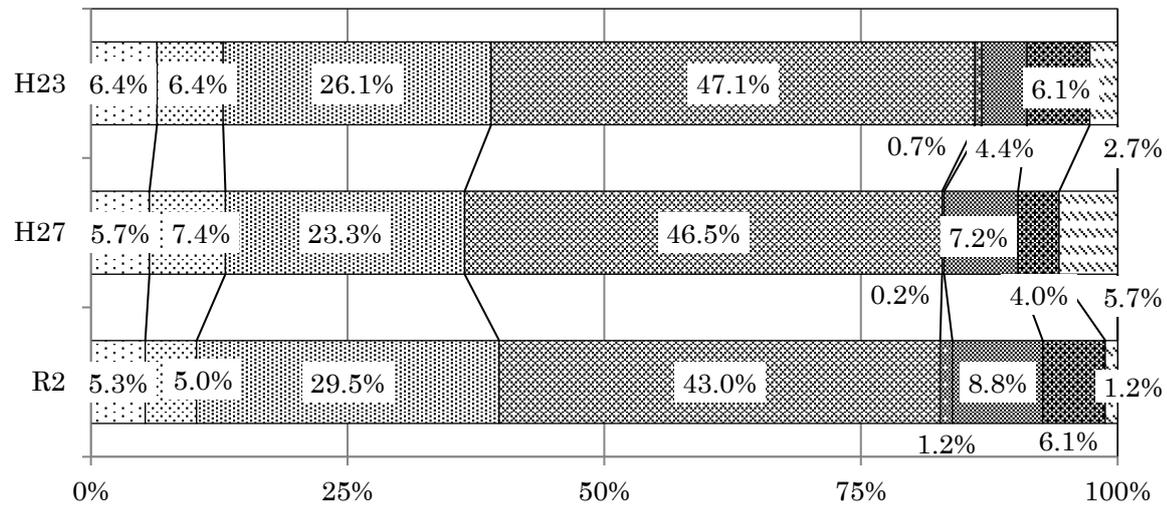
全体



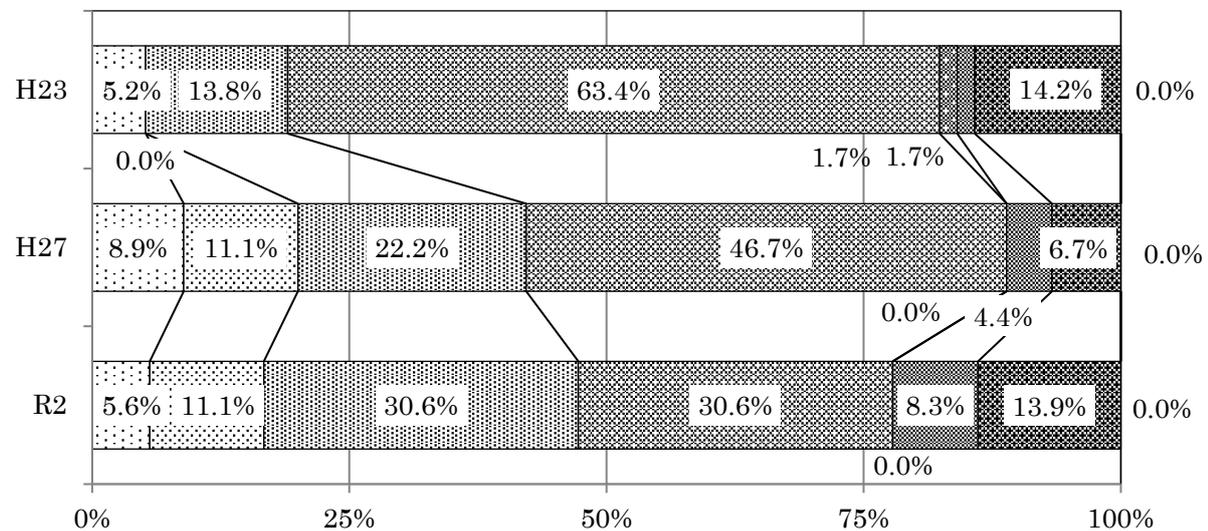
男性



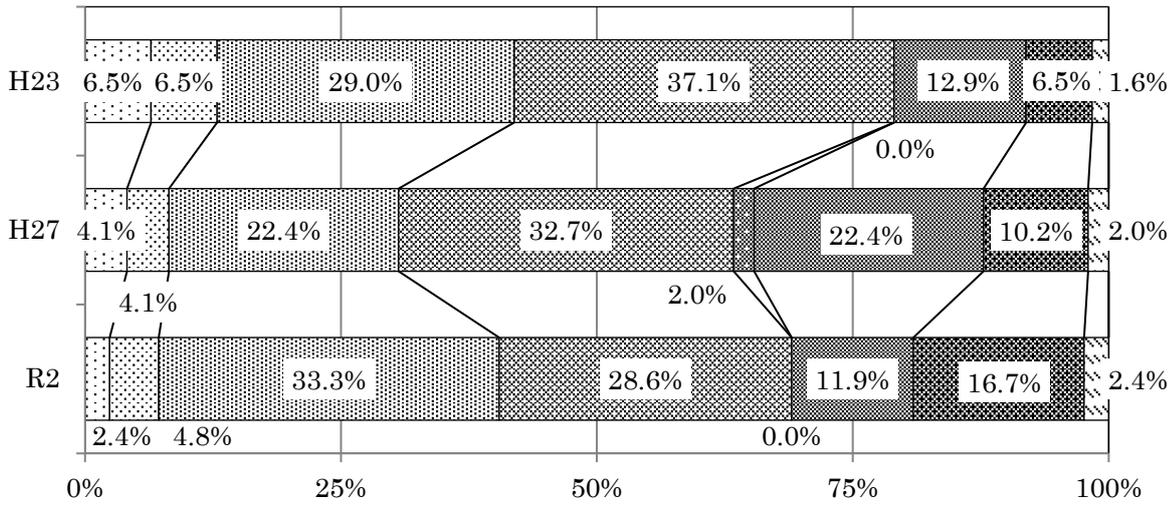
女性



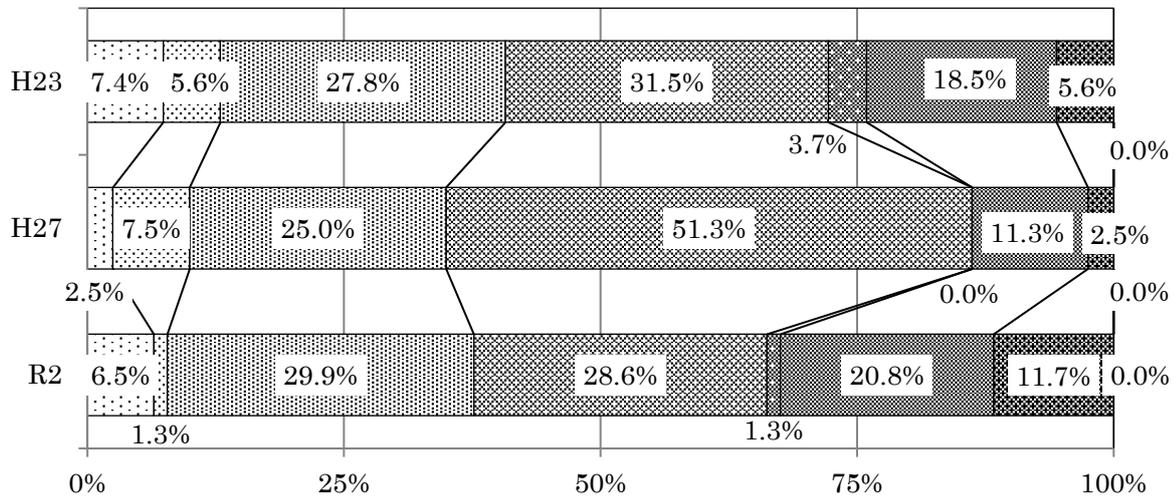
10、20歳代



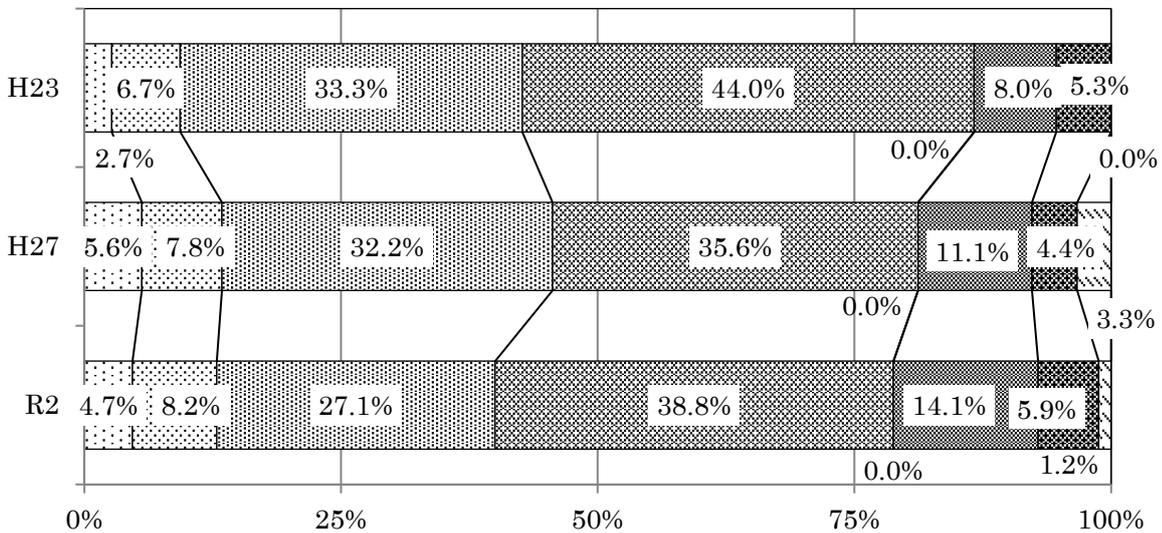
30歳代



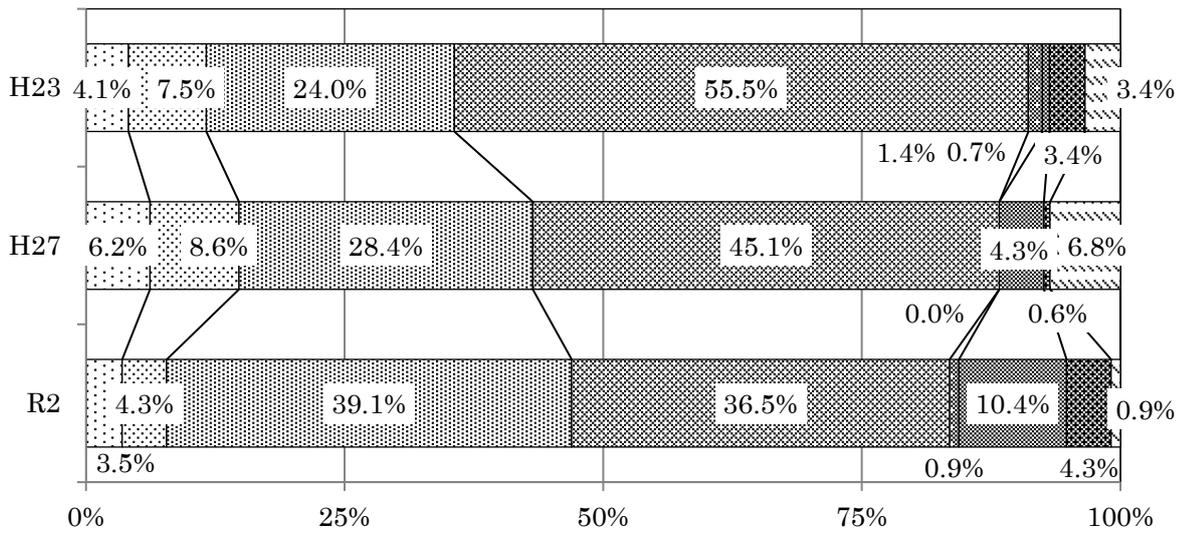
40歳代



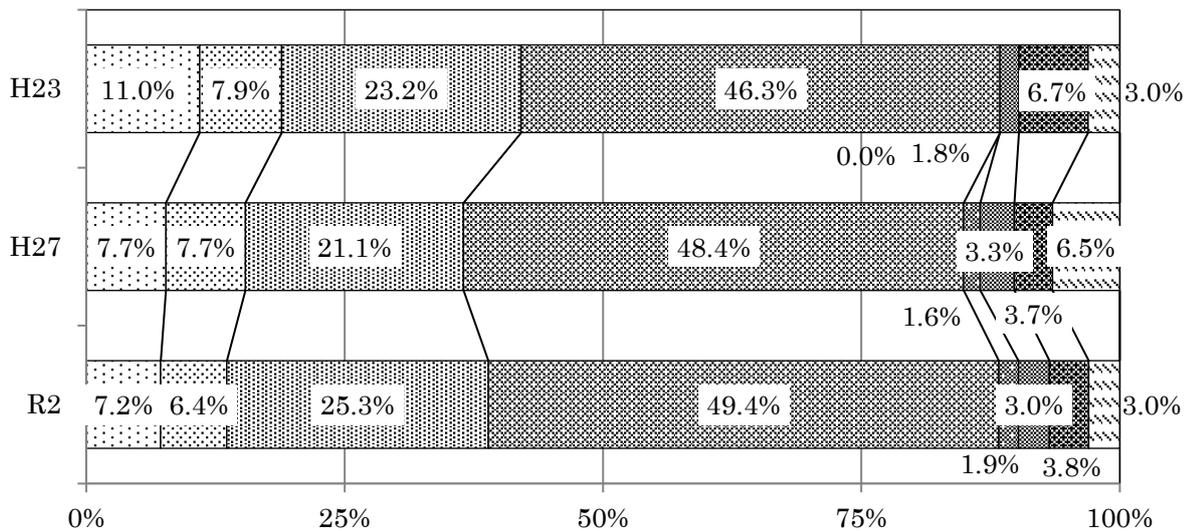
50歳代



60歳代



70歳代以上



【選択肢】

- (1) 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- (2) 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
- (3) 子どもができてずっと仕事を続ける方がよい
- (4) 子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- (5) 女性は仕事を持たない方がよい

<その他意見>

- ・それぞれの家庭によって事情があるので無理のないようにするのがよい。(70 歳代以上・女性)
- ・自由でよい。(50 歳代・女性)
- ・仕事の出来る環境が欲しい(70 歳代以上・女性)
- ・女性が仕事をするかどうかは、個人の自由だと思う(50 歳代・女性)
- ・4 だとブランクが出来、結局社会復帰時に不利。子どもがいても何らかの形で仕事と関わりが続くのが望ましいが現実は厳しい。(40 歳代・女性)
- ・その人がどう考えているか、なのでどちらがよいなどとは言えない(40 歳代・男性)
- ・個人で考えた方法を自由に選べるのが良い(40 歳代・男性)
- ・個人の意思の尊重でよいと思う(20 歳代・男性)
- ・女性が仕事をもつことで、自分が他者に頼らず自立でき、生きがいのひとつになるのでは…(60 歳代・女性)
- ・各家庭によるので一概には言えない(30 歳代・女性)
- ・個人の自由(40 歳代・男性)
- ・個々人の希望に沿った決断をすればよいと思います。(70 歳代以上・男性)
- ・仕事をしたければすれば良い(50 歳代・男性)
- ・本人の意思に任せるべき(30 歳代・男性)
- ・人による(40 歳代・女性)
- ・人それぞれ(60 歳代・女性)
- ・自分の自由、仕事をしたければすればいい(50 歳代・男性)
- ・個別の問題。仕事に情熱と能力のある女性は、工夫して仕事を続けていると思います。逆に、「結婚したら、子供ができたなら、仕事をやめる」という考え方を逃げ道に使っているのでは？(50 歳代・男性)
- ・結婚するまで仕事を持った方が良いがその先は女性が決め男性はそのフォローをすべき(40 歳代・男性)
- ・働ける環境があるかぎり、働けばいい(20 歳代・女性)
- ・その家庭の事情によると思う(60 歳代・男性)
- ・本人が決める事(50 歳代・男性)
- ・本人の意思、意欲が問題と思う。意思が通る環境が大切(70 歳代以上・男性)
- ・各々の能力であるから簡単に答えられる問題ではない(70 歳代以上・女性)
- ・夫が協力者でないと、子どもが出来ると仕事するのは大変。育児の割合で、仕事ができるかできないかは決まると思う。(40 歳代・女性)
- ・人それぞれであり、女性だから男性だから…という考えは特にありません。(50 歳代・女性)
- ・親など支援してくれる人が近くにいればずっと仕事を続ける方がよい。(60 歳代・女性)
- ・好きにすれば良い(40 歳代・男性)
- ・自分の判断に委ねます(60 歳代・男性)
- ・個人の考え方次第(50 歳代・女性)
- ・その女性による(40 歳代・男性)
- ・その人それぞれ 個人による(50 歳代・女性)
- ・子供が小さいうちはとにかく家庭に入り子供と家庭を守ることが絶対的に家庭円満(60 歳代・女性)
- ・個人の考えによると思う(50 歳代・男性)
- ・人それぞれでいい(40 歳代・女性)
- ・本人次第だけど一度は仕事の経験がある方がよいと思う(70 歳代以上・女性)
- ・子どもの将来に対して必要なら働くべき (経済環境による) (40 歳代・男性)

- ・個人の自由(60 歳代・男性)
- ・生活費を働いて得る事は当然の事で、全ての人が働く機会は均等に得られるべきだと思います。改めて、女性が仕事を持つ事について、考える事が必要でないか？(50 歳代・女性)
- ・女性の意思を尊重すべきだと思う(20 歳代・男性)
- ・フォローする体勢を安心して働けるほど充実させて、後は家族で話し合っって自由に選べたら良いです。(60 歳代・女性)
- ・上記のどのような選択も、自由にできるのがよい。(30 歳代・女性)
- ・それは個人の自由で良いのでは…(50 歳代・女性)
- ・それぞれの環境に合わせたら良い(60 歳代・女性)
- ・本人の意思(40 歳代・女性)
- ・本人次第のこと(60 歳代・男性)
- ・仕事をしたい女性が仕事を続けられる社会の在り方が重要と思う(30 歳代・男性)
- ・本人しだい。個人の考え方しだい(70 歳代以上・男性)
- ・どのように仕事をするかは、当人の個人的問題であり自由だと思う。(60 歳代・女性)
- ・個人の考え方・能力に応じて(70 歳代以上・男性)
- ・本人が仕事をしたければすればいいし、したくなければしなくてよいと思う。(40 歳代・女性)
- ・当人次第(40 歳代・男性)
- ・各々の夫婦に合った形で決めればよい(40 歳代・女性)
- ・育児には協力者がいるか？(60 歳代・女性)
- ・個人の自由である(40 歳代・男性)
- ・したかったらすればいい(30 歳代・女性)

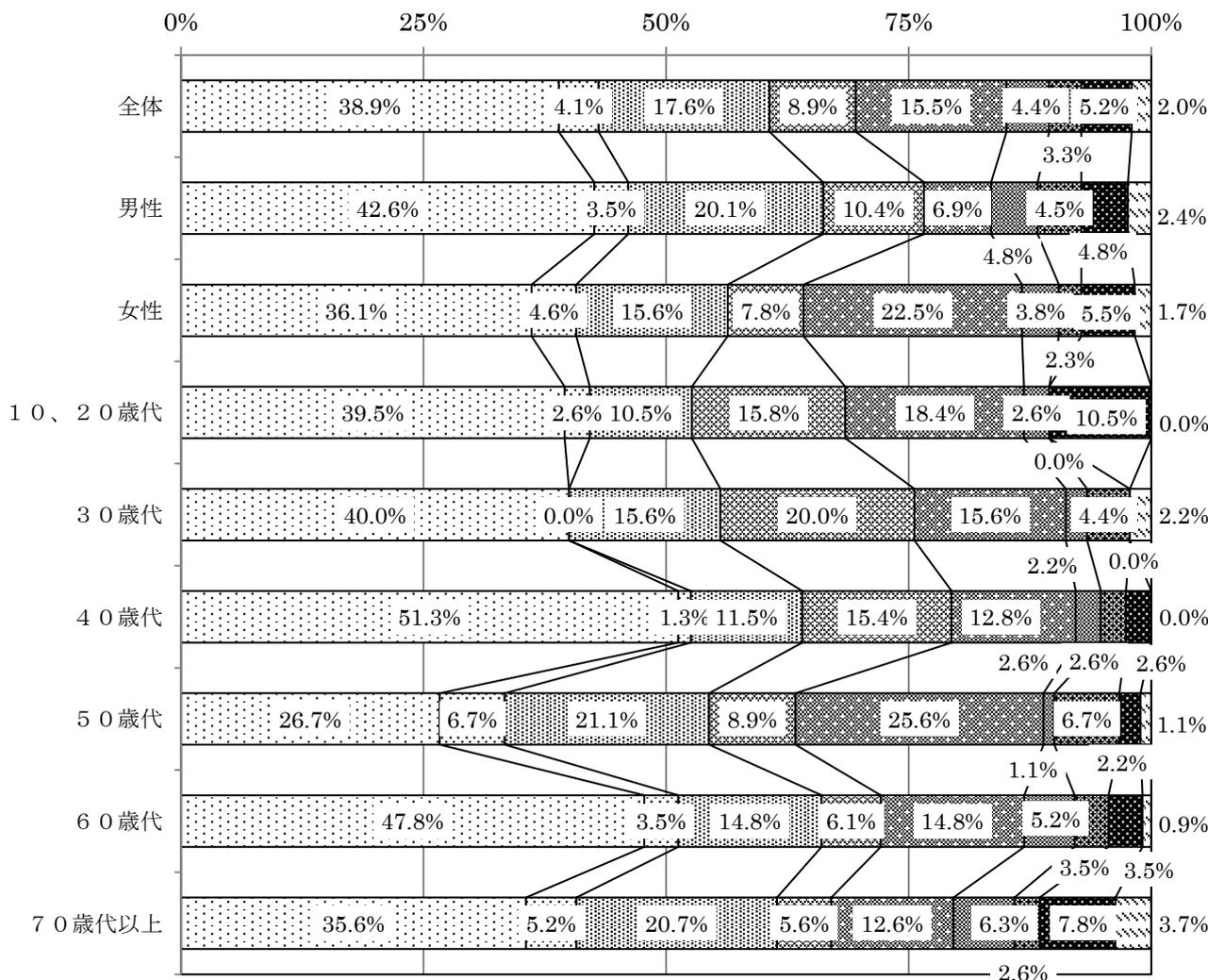
問8 男性の「育児休業・介護休業」の取得が進まない最も大きな理由は何だと思いますか。

男性の「育児休業・介護休業」の取得が進まない最も大きな理由については、「取得できる職場環境ではないから」が38.9%と最も高く、以下「男性が取得するという認識が薄いから」(17.6%)、「育児、介護は女性が行うものだと思われるから」(15.5%)の順となっています。

性別で見ると、「育児、介護は女性が行うものだと思われるから」は男性の6.9%に対し、女性は22.5%と15.6ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、全ての年代で「取得できる職場環境ではないから」が最も高くなっています。

- 取得できる職場環境ではないから
- 男性が取得するという認識が薄いから
- 育児、介護は女性が行うものだと思われるから
- その他
- 無回答
- 男性の昇進等に悪影響があると思われるから
- 家庭の収入が減少するから
- 男性が育児、介護を行うことに抵抗があるから
- わからない



(※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

【選択肢】

- (1) 取得できる職場環境ではないから
- (2) 男性の昇進等に悪影響があると思われるから
- (3) 男性が取得するという認識が薄いから
- (4) 家庭の収入が減少するから
- (5) 育児、介護は女性が行うものと思われるから
- (6) 男性が育児、介護を行うことに抵抗があるから

<その他意見>

- ・職場が忙し過ぎてやめられないからだと思えます。(50 歳代・女性)
- ・育児休業、介護休業を取得することへの偏見(40 歳代・女性)
- ・男性に育児はむかないから(60 歳代・女性)
- ・育児・介護に関するスキルが、日本社会の長い歴史の中で、男性の方がまだまだ劣位であるため(50 歳代・男性)
- ・取得できる状況にあっても遠慮してしまうから(30 歳代・男性)
- ・社会的（日本的）なじょう成が進んでいないため(60 歳代・男性)
- ・代役を担う人材の確保するだけの余裕が雇用主に無い。大半の男性が育児、介護を長期に渡り根気強く出来るとは思えない。挙げ句の果てには放棄し、事故、事件に発展する可能性もあり得る(50 歳代・男性)
- ・子供達の環境をみると、男性の育休はふえている。今後介護休業の取得が進むのか？(70 歳代以上・女性)
- ・現在の休業期間では短すぎる。育児休業であればせめて小学3年生くらいまで必要。その上で収入の保障も。介護休業についても期間は無制限、収入の保障も必要。(50 歳代・男性)
- ・男性が働くものとした考えがあるから、女性は選ばなければ何でも仕事につける。(70 歳代以上・女性)
- ・会社に金がないから！！(70 歳代以上・男性)
- ・男に育児ができると思えないから。(50 歳代・男性)
- ・「育児休業・介護休業」という言葉が重い。もっと楽な気持ちに受け止められる言葉を捜してみてください(70 歳代以上・女性)
- ・社会の理解が進んでいない(30 歳代・男性)
- ・進まなくていいと思えます(70 歳代以上・女性)
- ・事情によって違う(70 歳代以上・男性)
- ・法制上の義務と保証が必要(60 歳代・男性)
- ・社会がまだその意識がないから(50 歳代・女性)
- ・休む自信がないから(70 歳代以上・男性)
- ・個人の自由である(40 歳代・男性)
- ・育児、介護は女性が行うもの(60 歳代・男性)

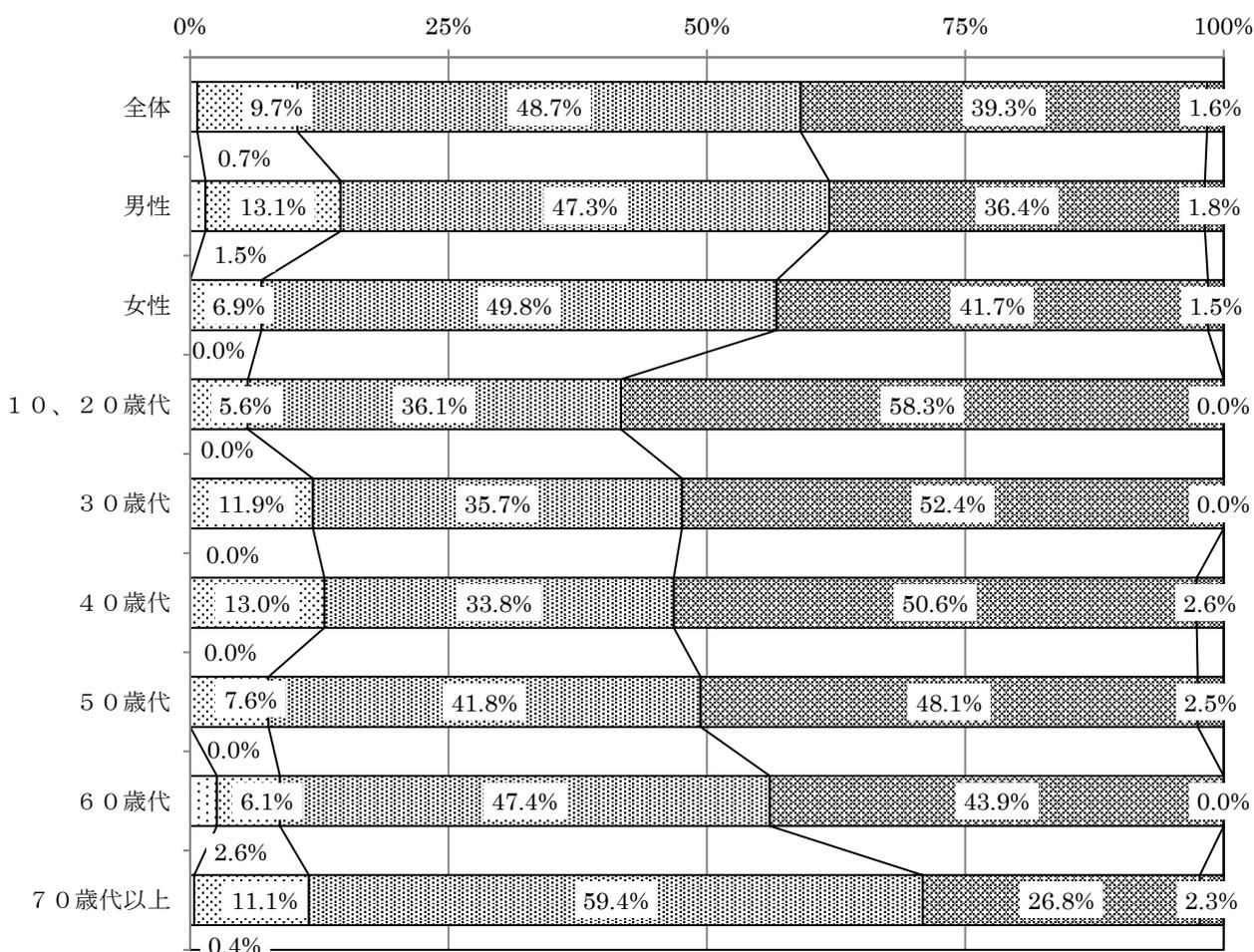
問9 「女性活躍推進法」(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)について
ご存じですか。

「女性活躍推進法」(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)の知名度については、「聞いたことはあるが、内容はあまりよく知らない」が48.7%と最も高く、以下「聞いたことがない」(39.3%)、「法律の内容について、少し知っている」(9.7%)の順となっています。

性別で見ると、「法律の内容について、少し知っている」は男性の13.1%に対し、女性は6.9%と6.2ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、50歳代以下の各年代で「聞いたことがない」が最も高く、60歳代以上の年代で「聞いたことはあるが、内容はあまりよく知らない」が最も高くなっています。

- 法律の内容について、よく知っている
- ▣ 法律の内容について、少し知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、内容はあまりよく知らない
- 聞いたことがない
- 無回答



(※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

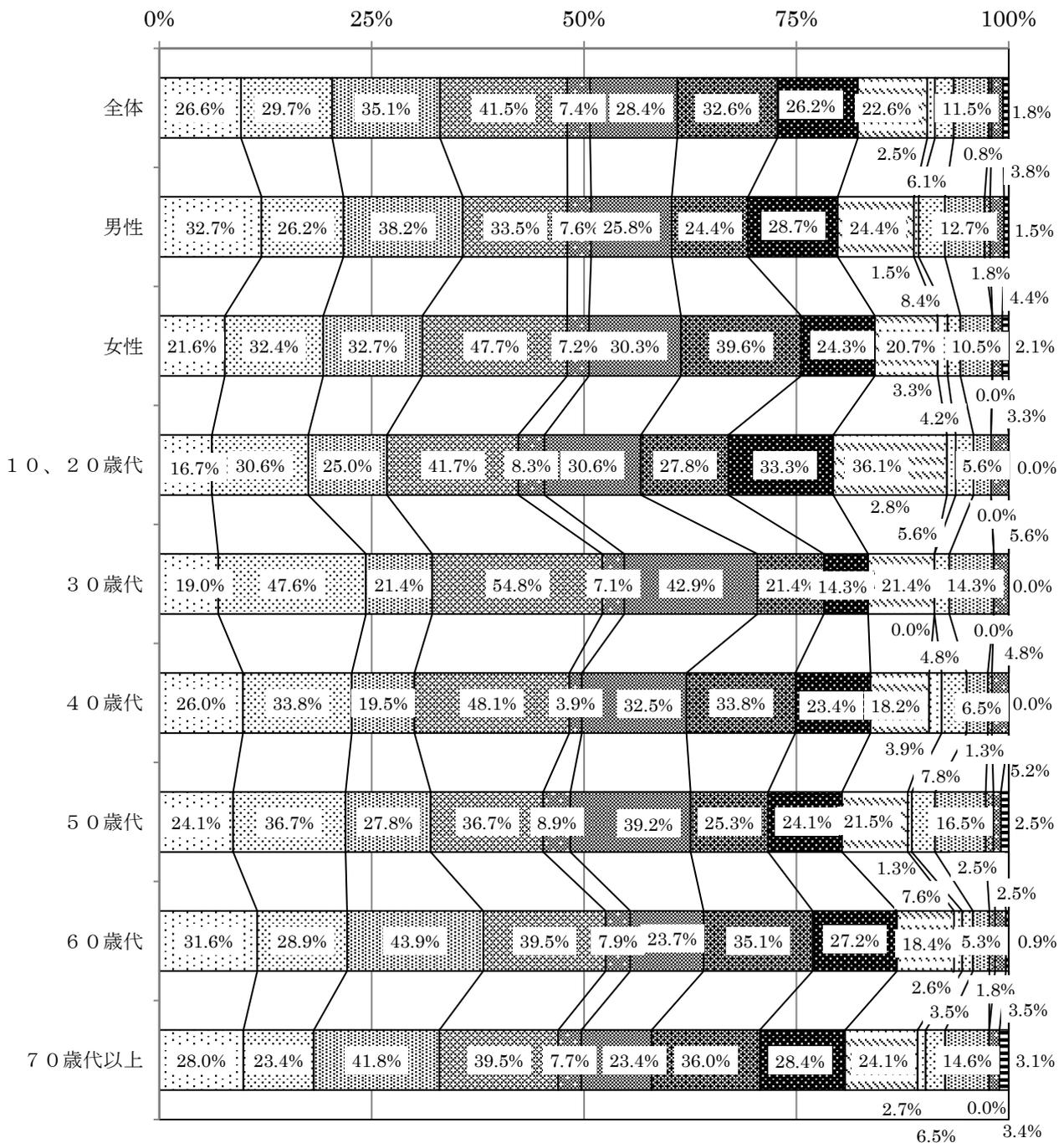
問10 女性が職業生活で活躍するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまで選択可)

女性が職業生活で活躍するために必要なことについては、「子どもが病気やけがの時などに休みが取れる制度を導入する」が41.5%と最も高く、以下「「育児休業制度・介護休業制度」を普及促進する」(35.1%)、「女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める」(32.6%)の順となっています。

性別でみると、「子どもが病気やけがの時などに休みが取れる制度を導入する」は男性の33.5%に対し、女性は47.7%と14.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、40歳代以下の各年代で「子どもが病気やけがの時などに休みが取れる制度を導入する」が最も高くなっています。また、60歳代以上の年代で「「育児休業制度・介護休業制度」を普及促進する」が最も高くなっています。

- 雇用・労働条件での男女間格差を是正する
- 労働時間の短縮、フレックスタイム制（自由勤務時間制）、在宅勤務制等を導入する
- 「育児休業制度・介護休業制度」を普及促進する
- 子どもが病気やけがの時などに休みが取れる制度を導入する
- 子育て時期などにおける転勤に配慮する
- 男性が家事や育児、介護へ参加する
- 女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める
- 育児や介護のための施設やサービスを充実する
- 結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する
- 就職情報を積極的に提供する
- 技能修得のための機会を充実する
- 女性の自覚や意欲・能力を向上させる
- その他
- わからない
- 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
 (※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

<その他意見>

- ・男は男、女は女、自分のできる事をすればいい(50歳代・男性)
- ・男性が、主夫の役割を担当したり、家事を仕事より優先する事に対する社会のネガティブイメージを少しずつ改めてゆく必要あり(50歳代・男性)
- ・社会全体の認知：大昔の人々の様に、全ての人が働く事の大切さに対する意識改革(60歳代・男性)
- ・すべては男女に限らず、個人の自覚と努力、能力次第である事を男女共に認識する、あるいはさせるべき！(60歳代・男性)

問11 結婚されている方におたずねします。

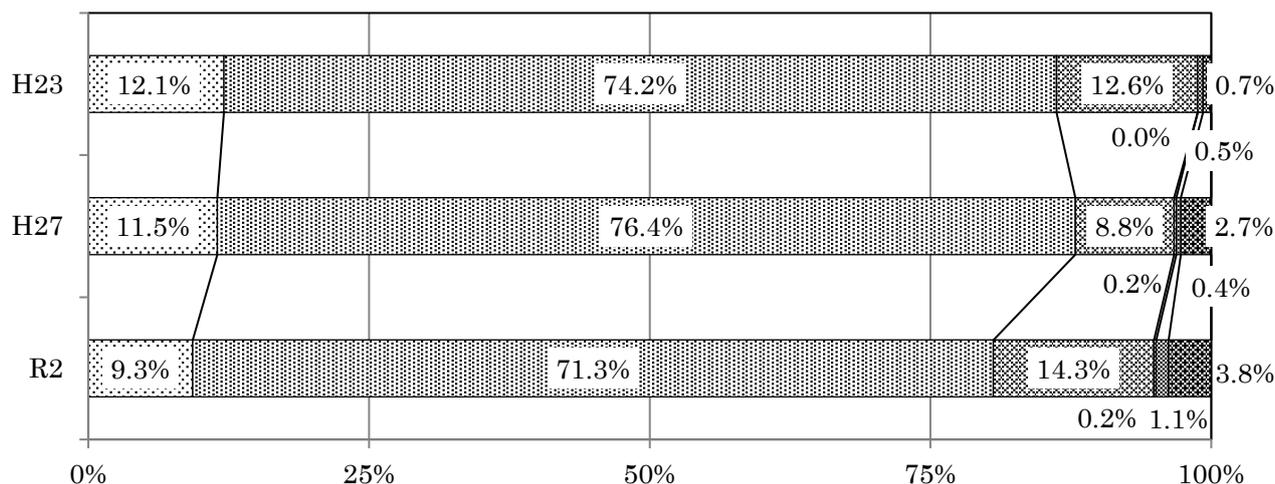
あなたの家庭では、日常生活の役割分担をどのようにされていますか。

既婚者の実際の家事分担については、「妻が中心」が最も多かったのは8項目中7項目で、「日常の家計管理」（71.3%、前回76.4%）、「食事づくり」（87.9%、前回88.5%）、「食事のあとかたづけ」（70.3%、前回73.9%）、「洗濯」（75.9%、前回82.3%）、「掃除」（65.1%、前回68.8%）、「子どものしつけや家庭教育」（40.2%、前回41.9%）、「家族の介護」（31.3%、前回32.6%）となっています。

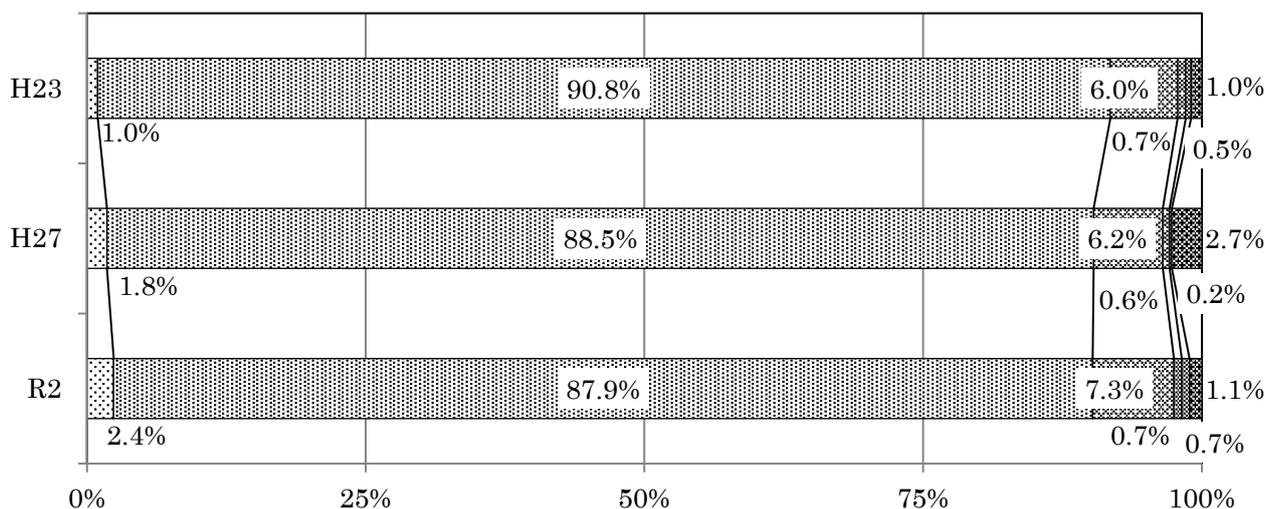
また「家族で分担」が最も多かったのは8項目中1項目で「地域活動等への参加」（35.5%、前回30.0%）となっています。

夫が中心 妻が中心 家族で分担 その他の人 わからない・該当しない 無回答

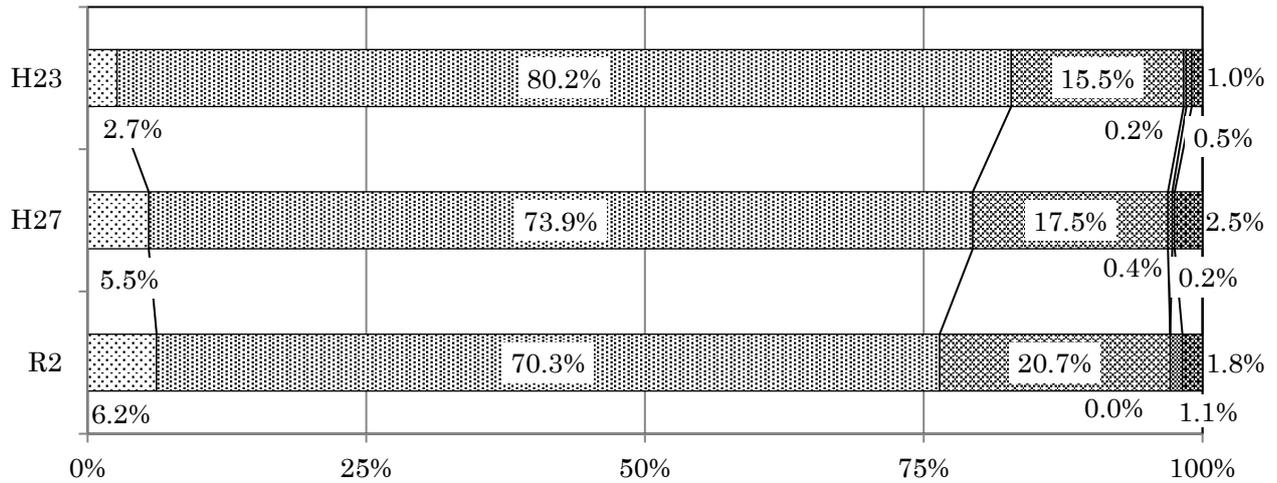
(1) 日常の家計管理



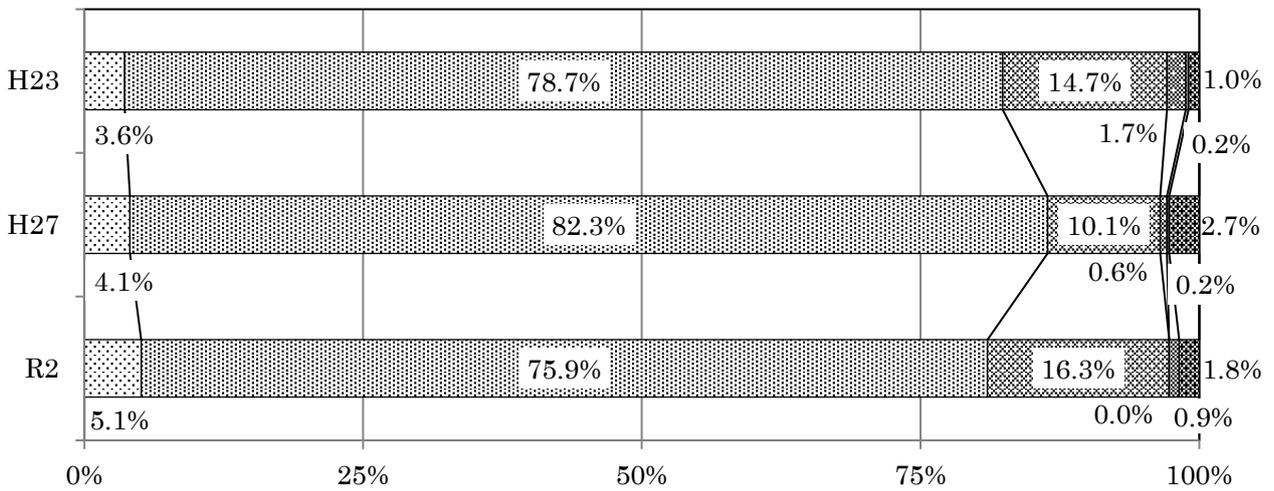
(2) 食事づくり



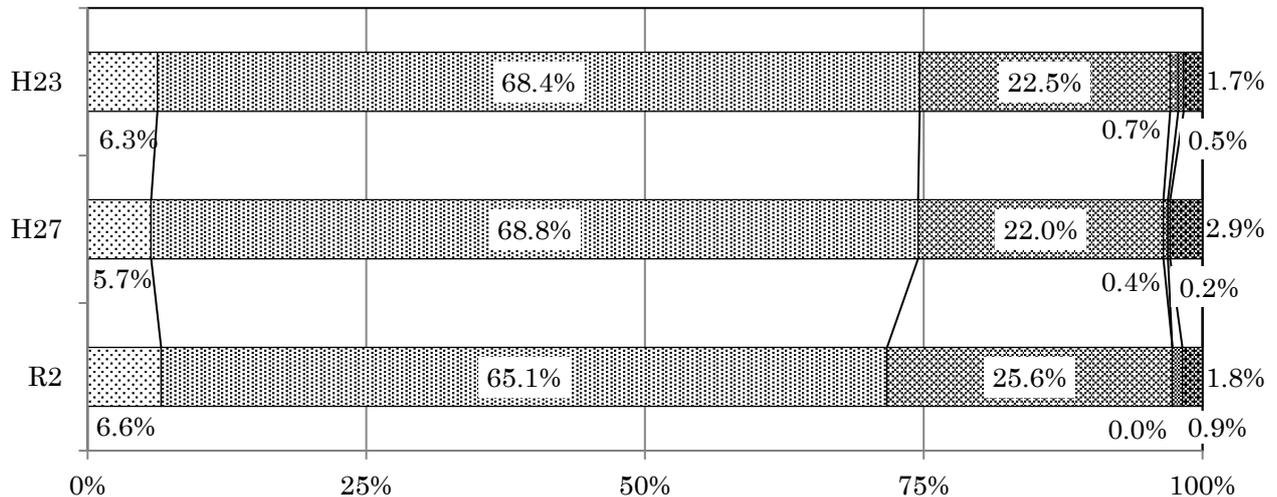
(3) 食事のあとかたづけ



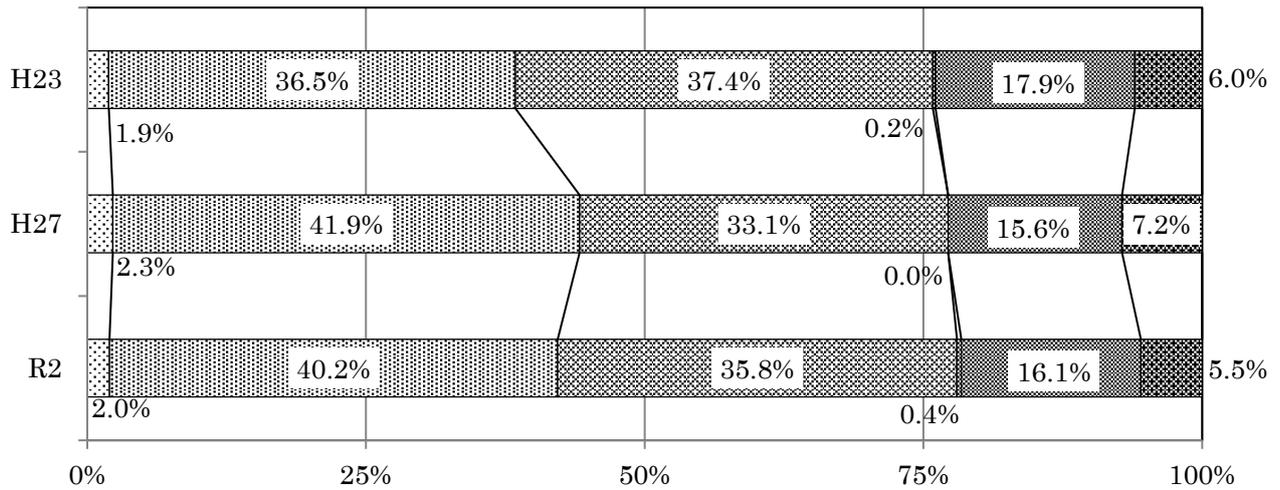
(4) 洗濯



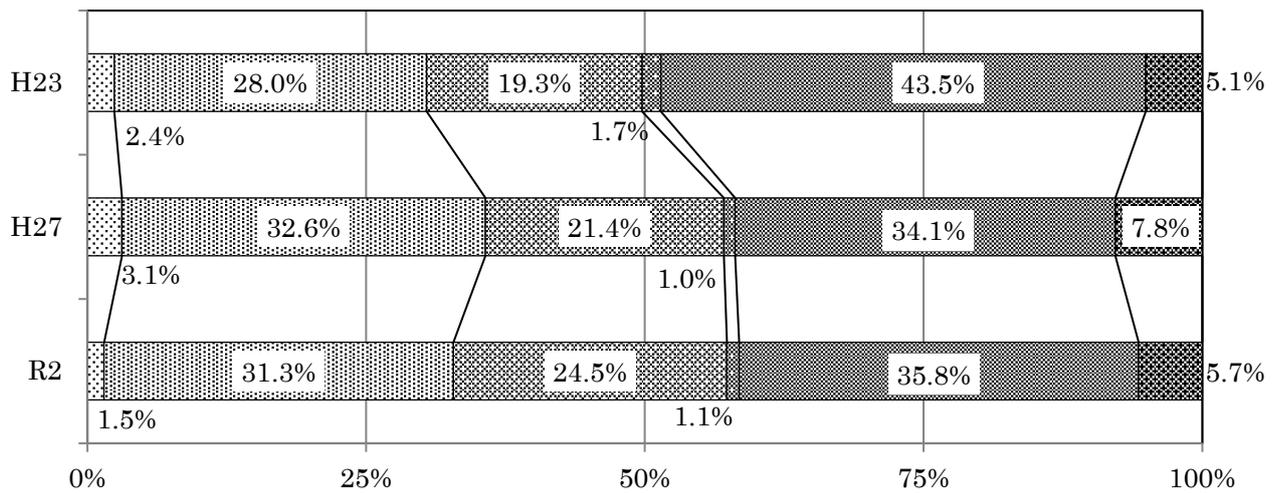
(5) 掃除



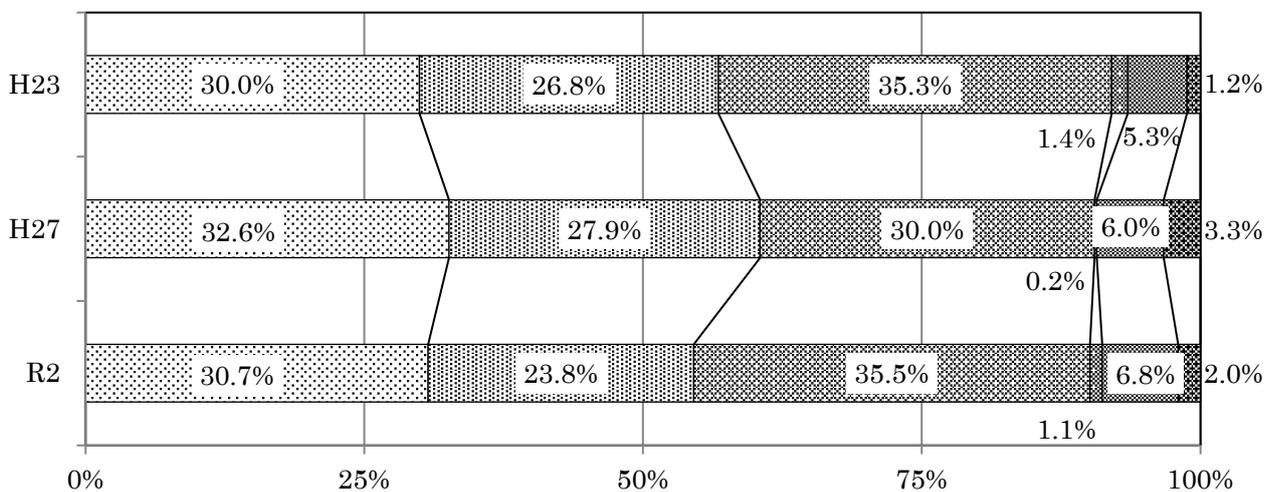
(6) 子どものしつけや家庭教育



(7) 家族の介護



(8) 地域活動等への参加



問12 あなたは、仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）について、どのようにお考えですか。望ましいと思うものを選んでください。

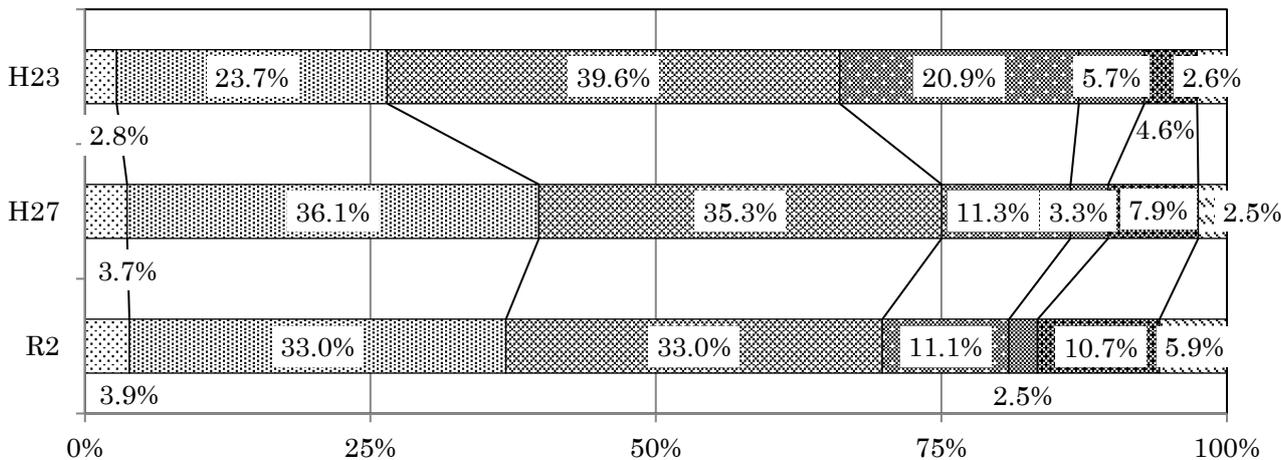
仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先させるかについては、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が33.0%（前回36.1%）、「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が33.0%（前回35.3%）と同率で高く、以下「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」（11.1%、前回11.3%）の順となっています。

性別でみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は男性42.2%（前回48.1%）に対し、女性24.9%（前回28.5%）と男性の方が17.3ポイント高くなっています。逆に、「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」は男性30.2%（前回31.7%）に対し、女性35.4%（前回37.6%）と女性の方が5.2ポイント高くなっています。

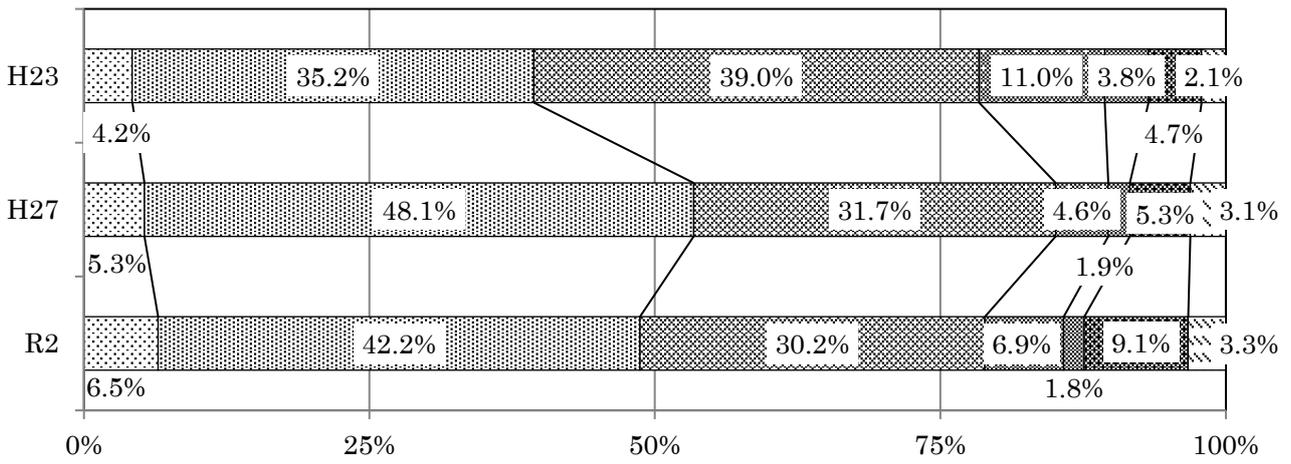
年齢別でみると、10、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が最も高く、60歳代、70歳代以上では「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が最も高くなっています。

- ☐ 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- ▨ 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- ▩ 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる
- ▧ 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- ▦ 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答

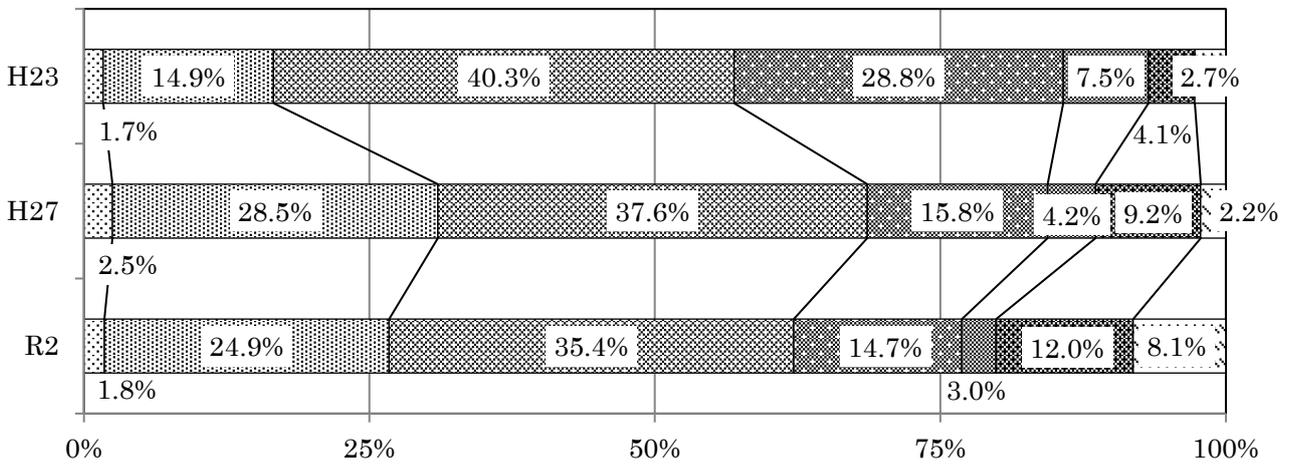
全体



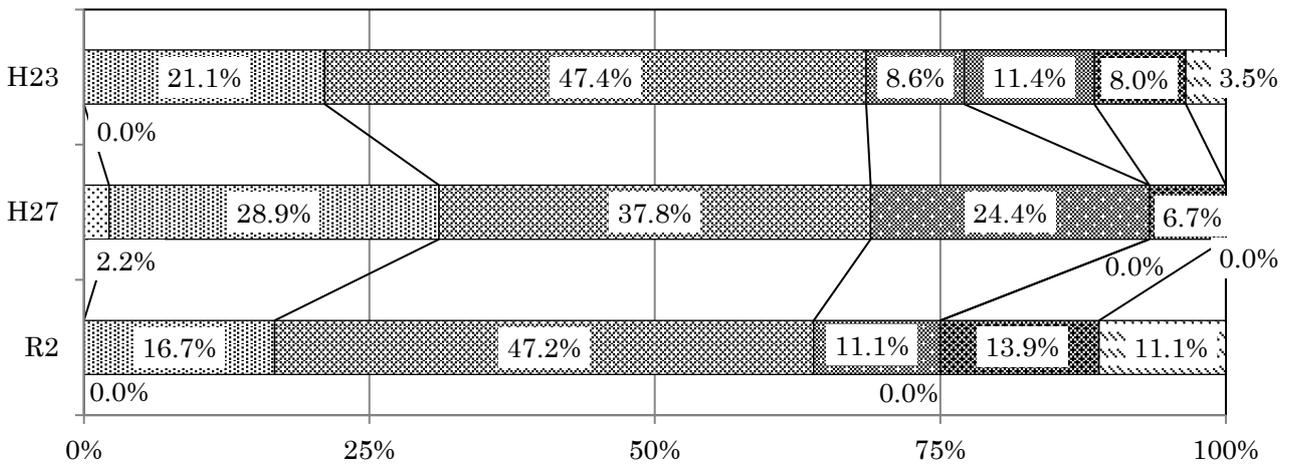
男性



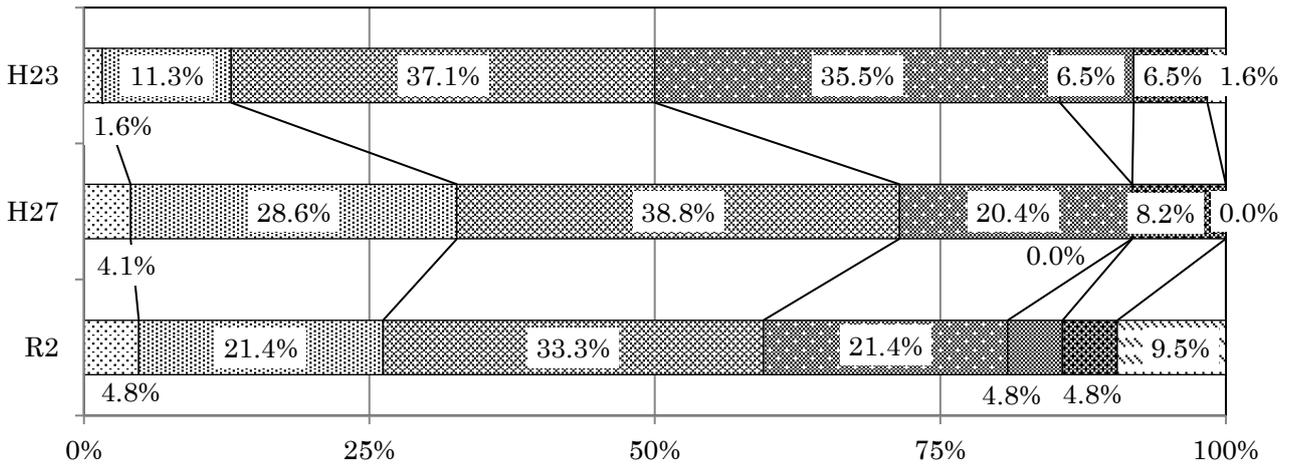
女性



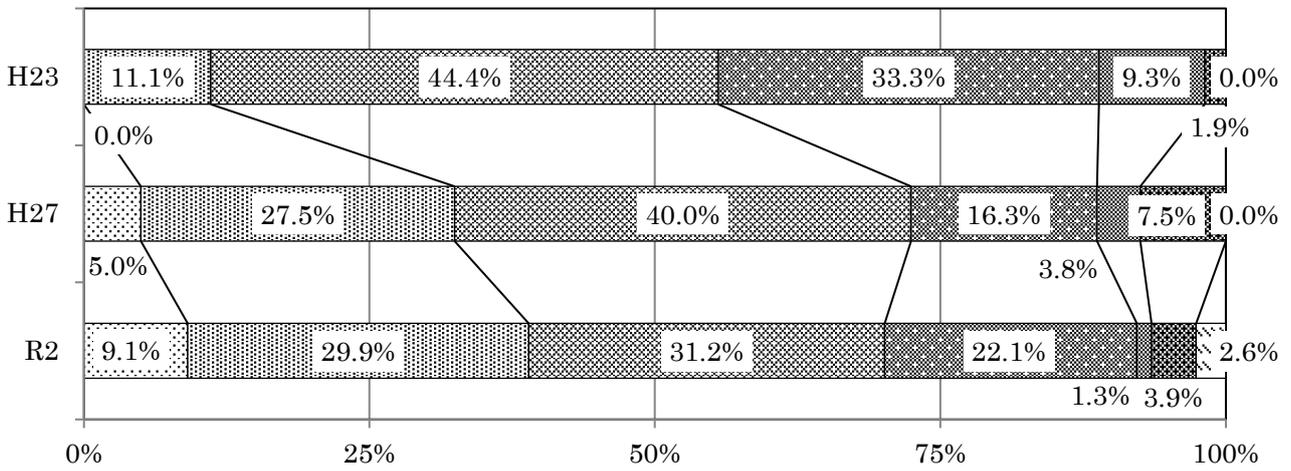
10、20歳代



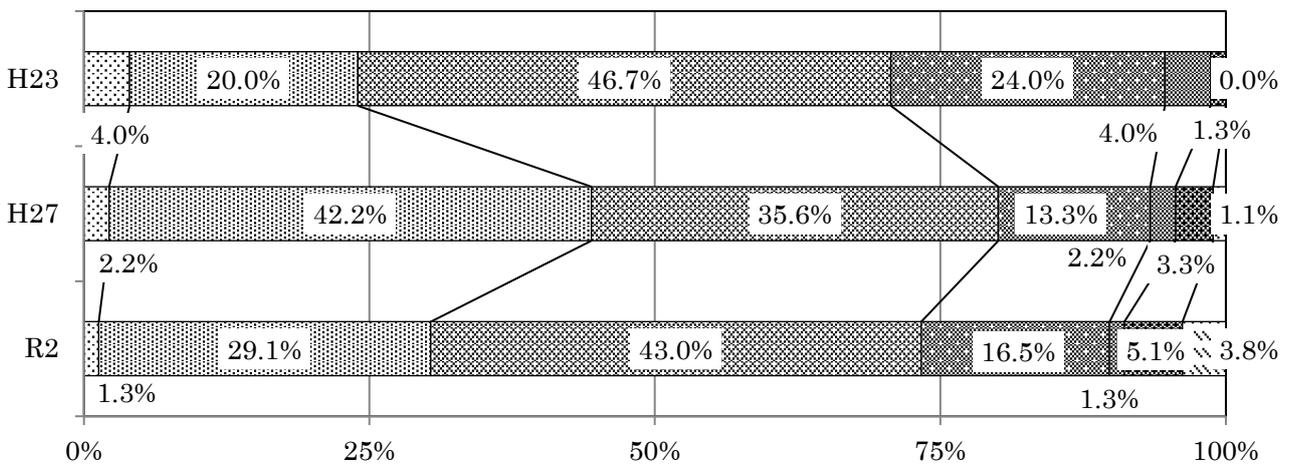
30歳代



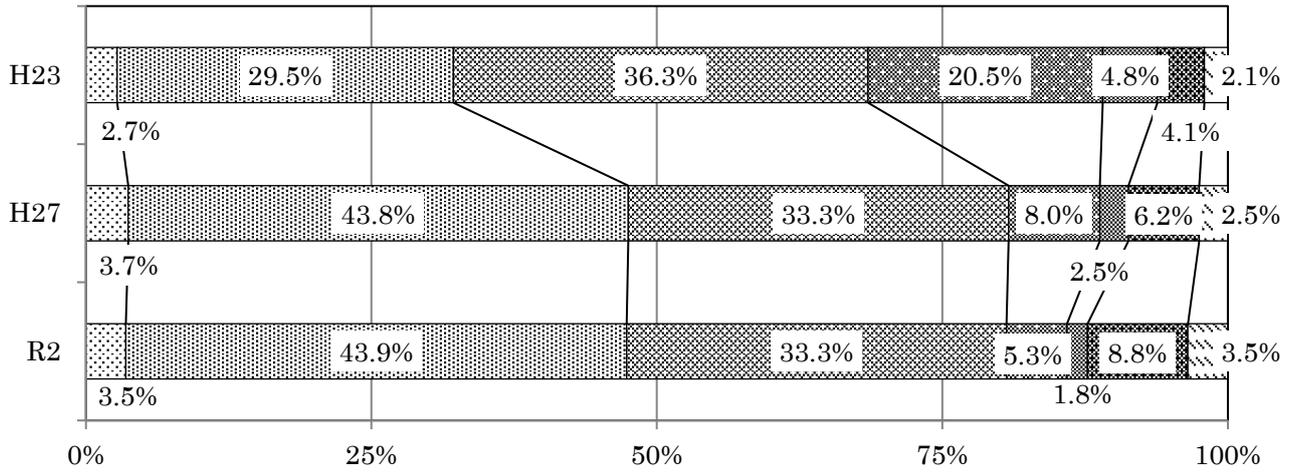
40歳代



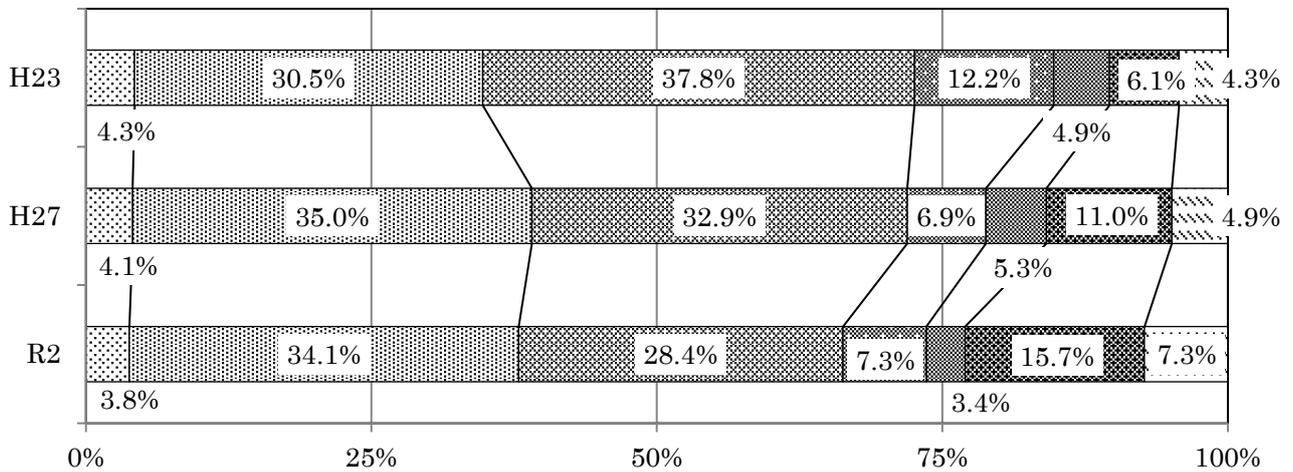
50歳代



60歳代



70歳代以上



【選択肢】

- (1) 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- (2) 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- (3) 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる
- (4) 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- (5) 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する

問13 現在仕事をしている方におたずねします。

あなたは今、仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先していますか。現状に近いものを選んでください。

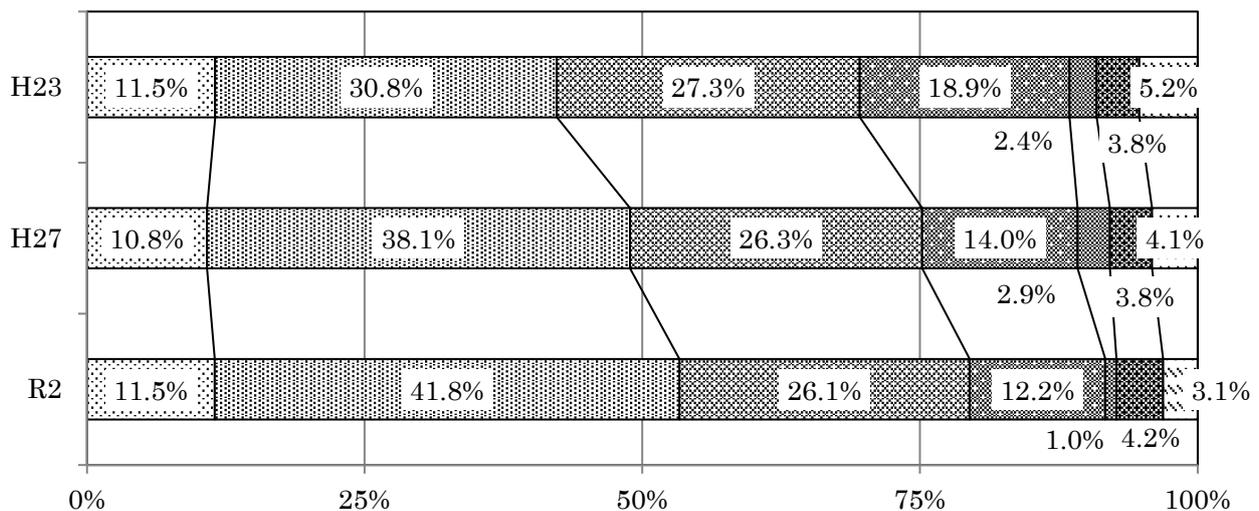
仕事をしている方が実際には仕事とその他の生活（家庭生活、地域活動）のどちらを優先しているかについては、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が41.8%（前回38.1%）と最も高く、以下「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている」（26.1%、前回26.3%）、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている」（12.2%、前回14.0%）の順となっています。

性別でみると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」は男性の45.6%（前回54.7%）に対し、女性は37.7%（前回24.7%）と、男性の方が7.9ポイント高くなっています。逆に、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている」は男性の6.7%（前回4.4%）に対し、女性は18.1%（前回21.8%）と、女性の方が11.4ポイント高くなっています。

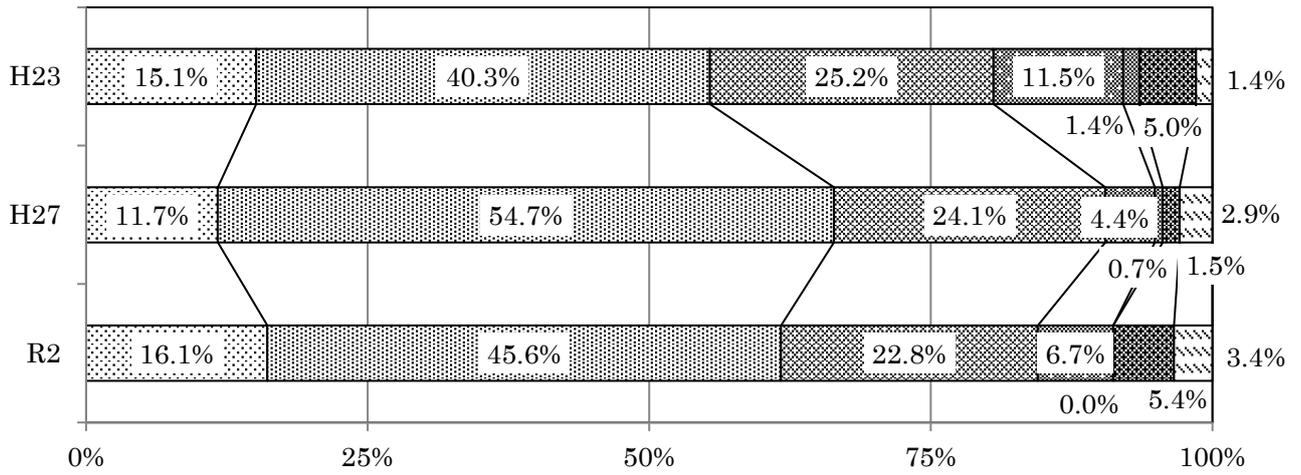
年齢別でみると、50歳代では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている」が最も高くなっており、それ以外の各年代で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が最も高くなっています。

- ▣ 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念している
- ▣ 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている
- ▣ 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている
- ▣ 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている
- ▣ 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念している
- ▣ わからない
- ▣ 無回答

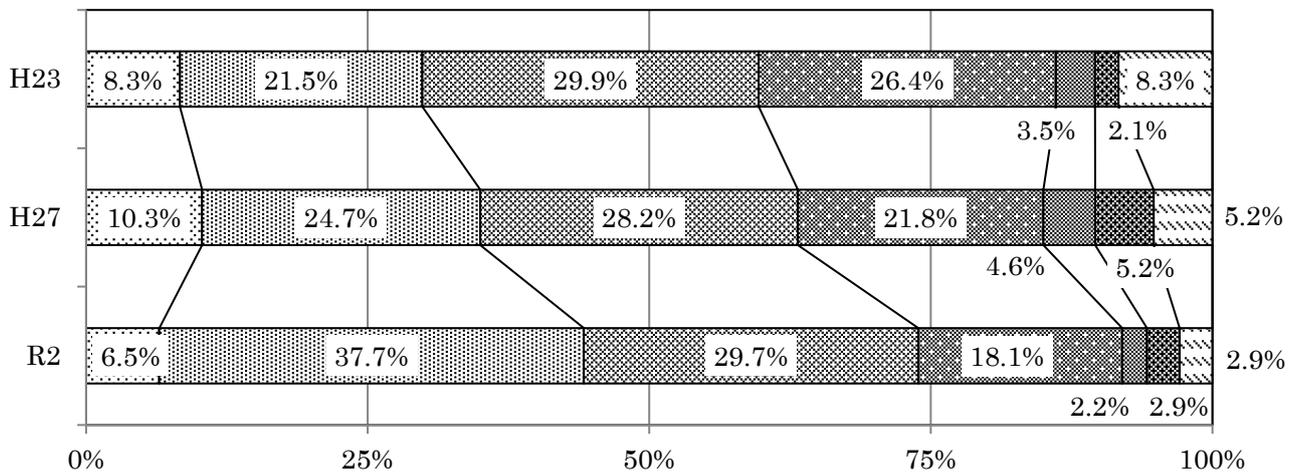
全体



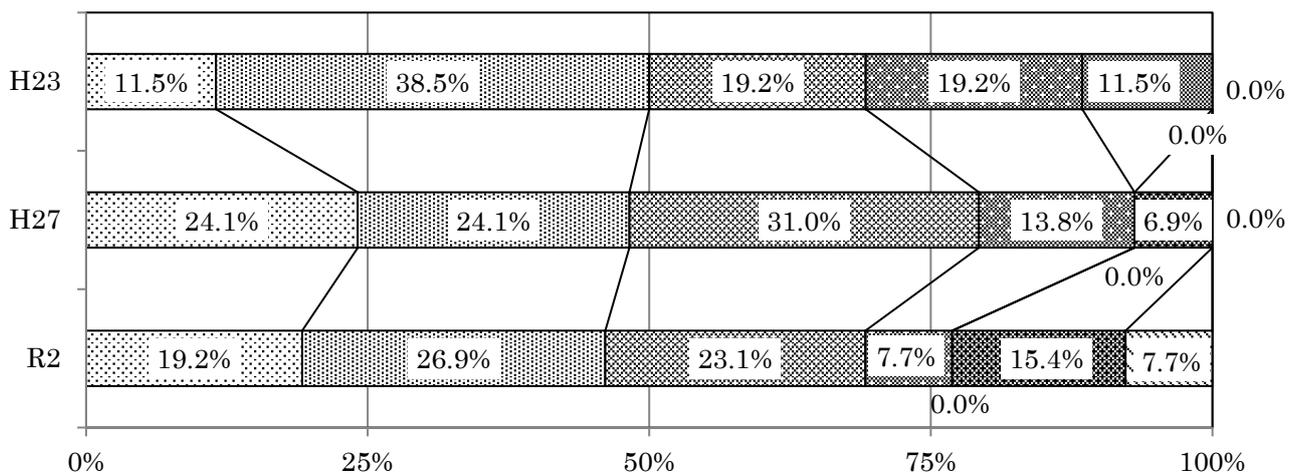
男性



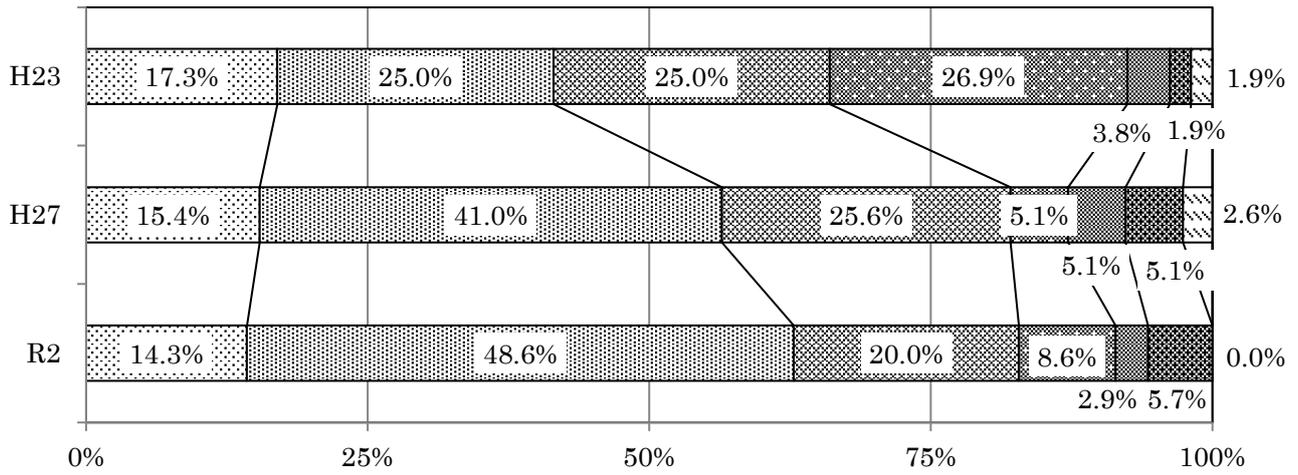
女性



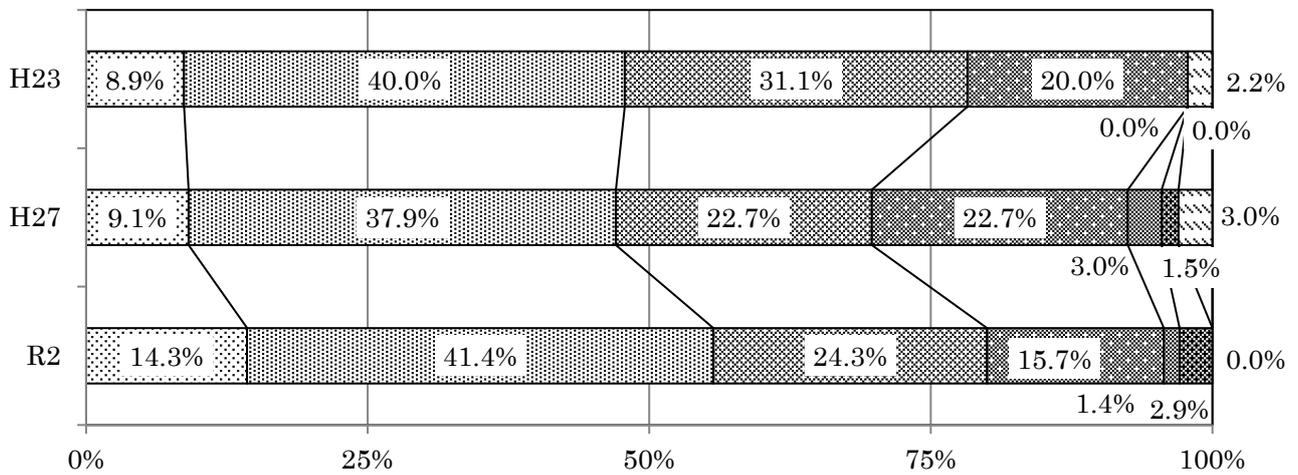
10、20歳代



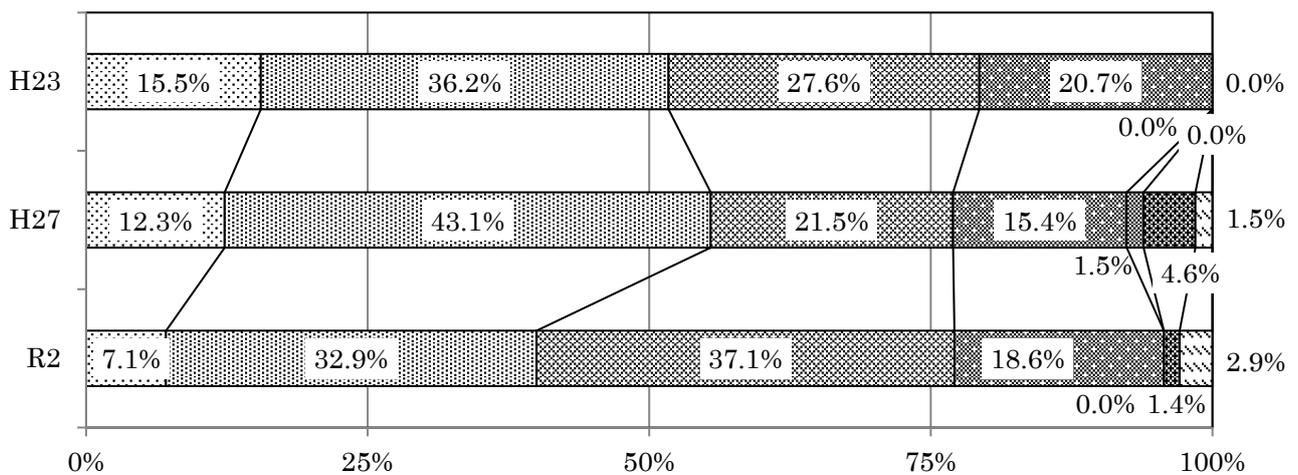
30歳代



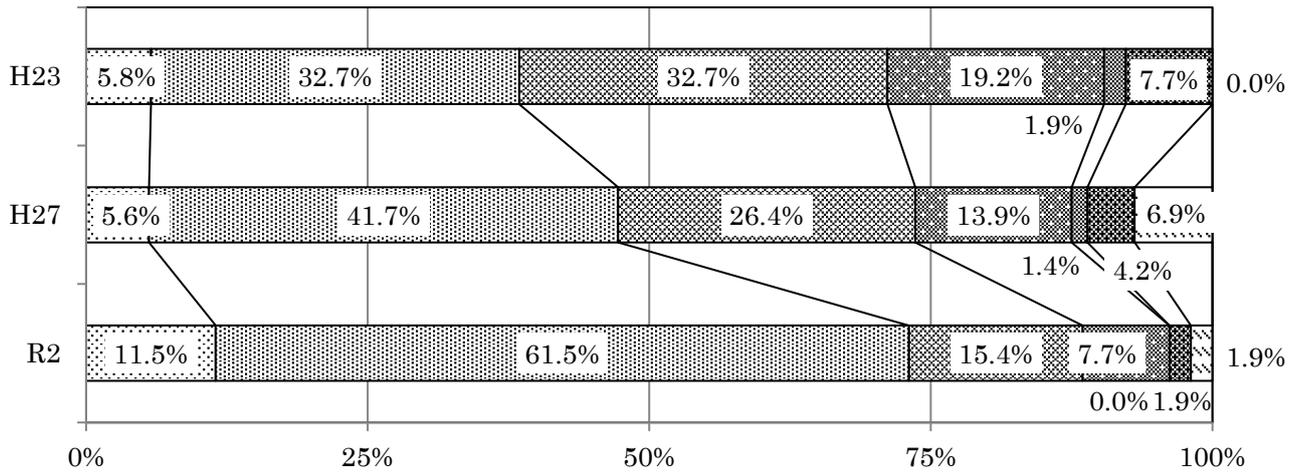
40歳代



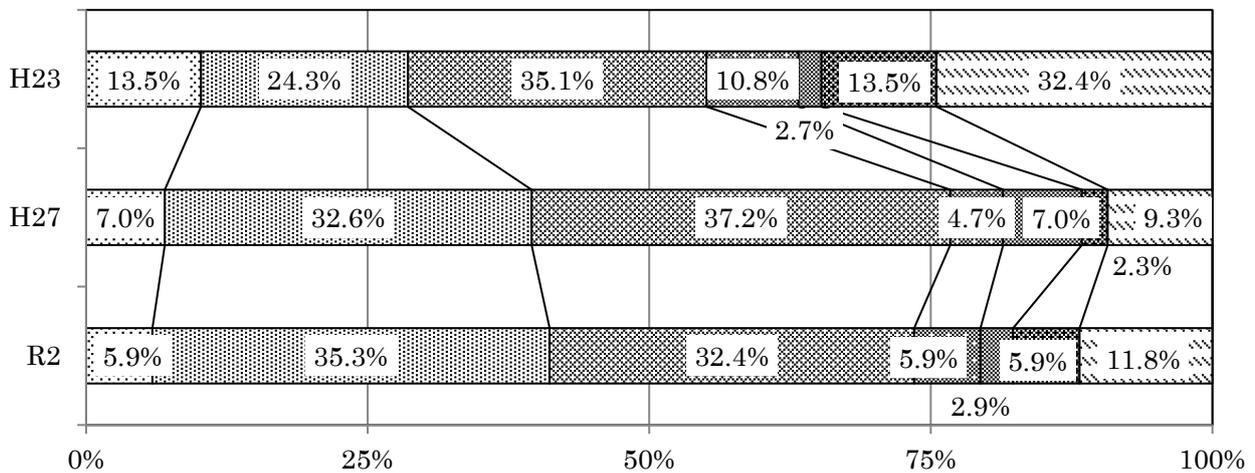
50歳代



60歳代



70歳代以上



【選択肢】

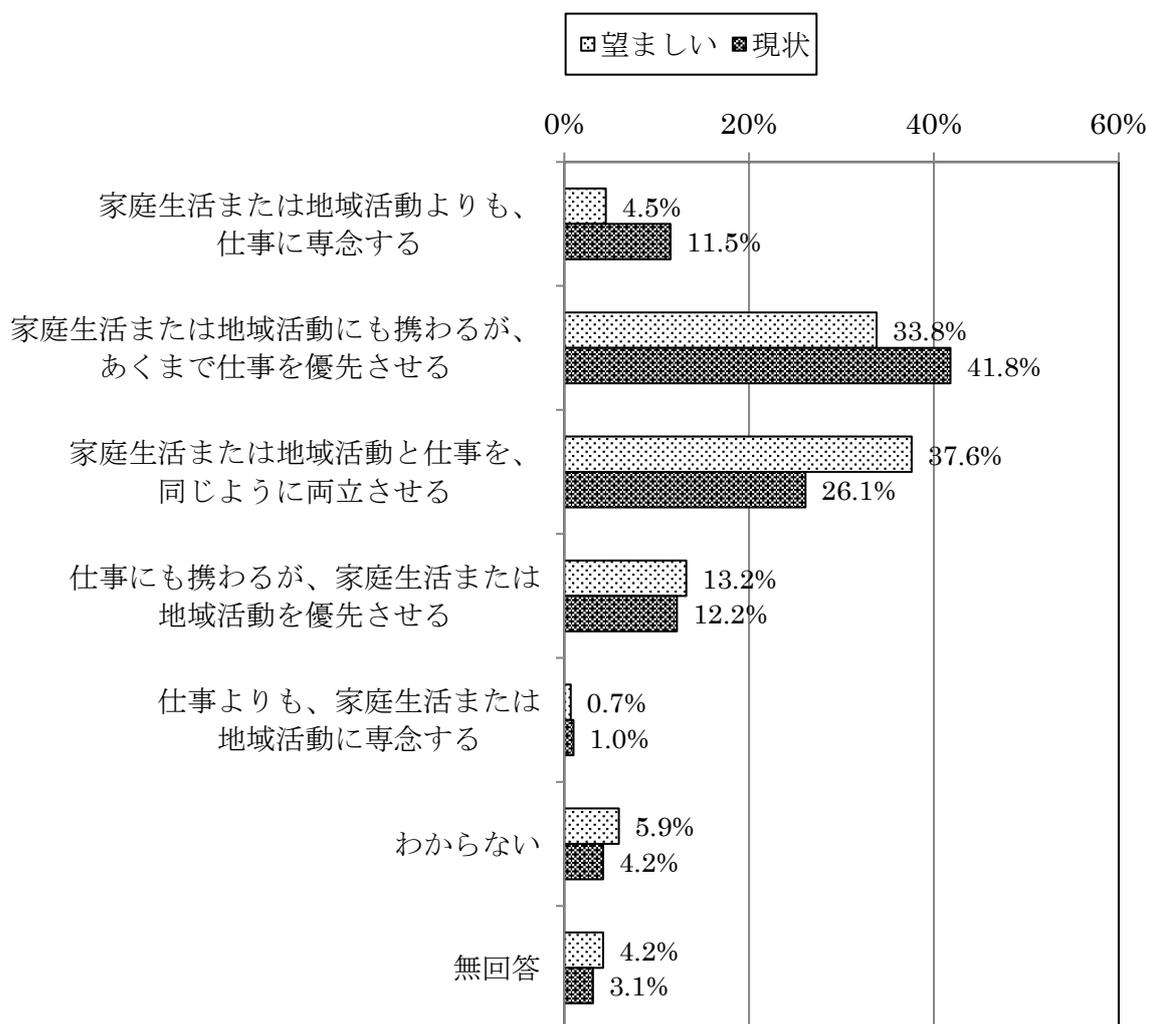
- (1) 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念している
- (2) 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている
- (3) 家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させている
- (4) 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させている
- (5) 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念している

(就労者の理想 (問 1 2 のうち、就労者のみの結果) と現実 (問 1 3 の結果) の比較)

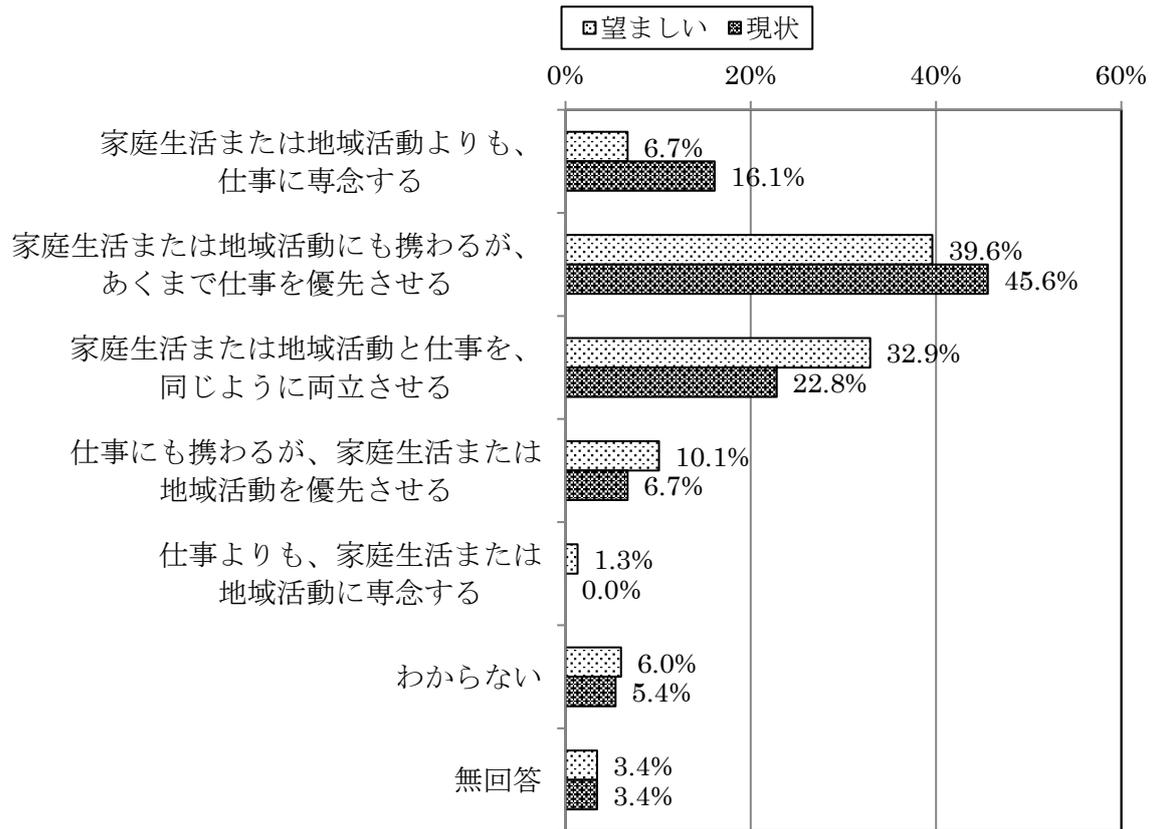
仕事とその他の生活 (家庭生活、地域活動) のどちらを優先させるかについては、「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が理想の 37.6% に対し、現実には 26.1% で 11.5 ポイント低くなっています。逆に、「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」が理想の 4.5% に対し、現実には 11.5% で 7.0 ポイント高くなっています。

性別でみると、男性では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が理想の 32.9% に対し、現実には 22.8% で 10.1 ポイント低く、女性では「家庭生活または地域活動と仕事を、同じように両立させる」が理想の 42.8% に対し、現実には 29.7% で 13.1 ポイント低くなっています。

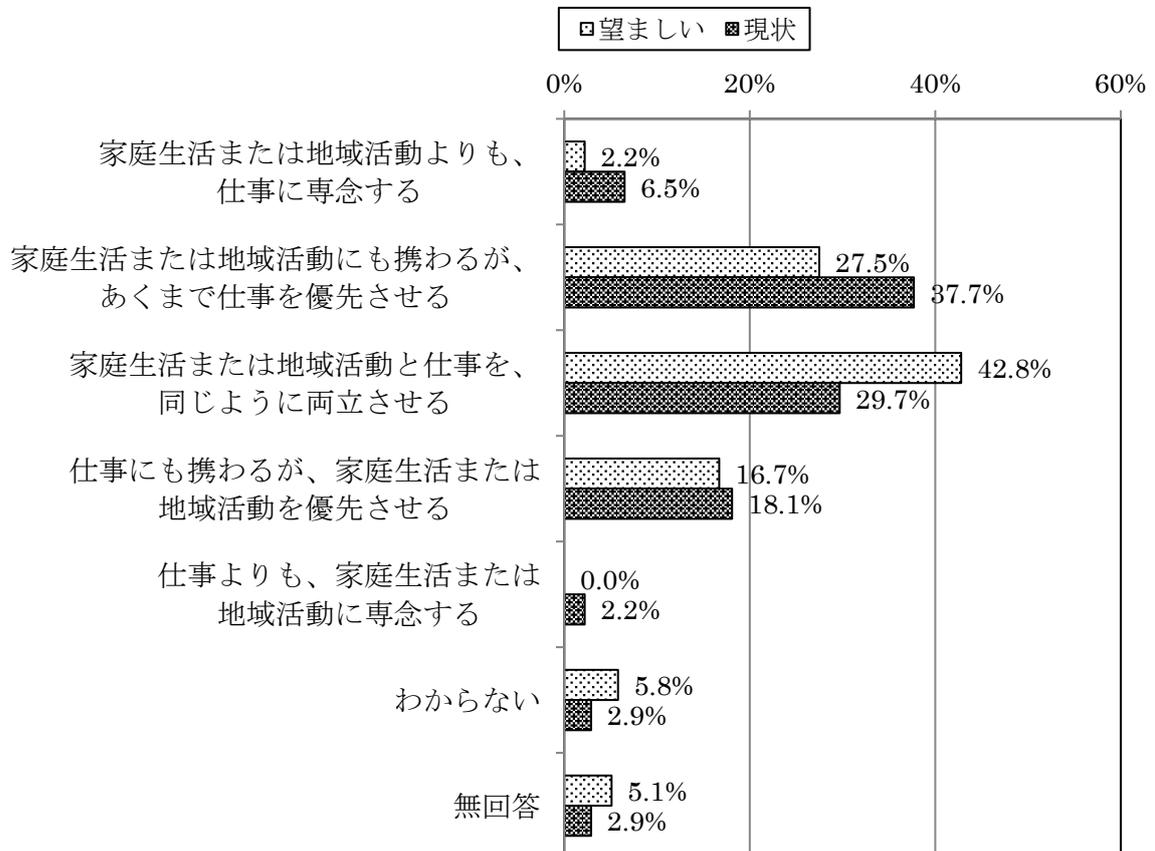
(全体)



(男性)



(女性)



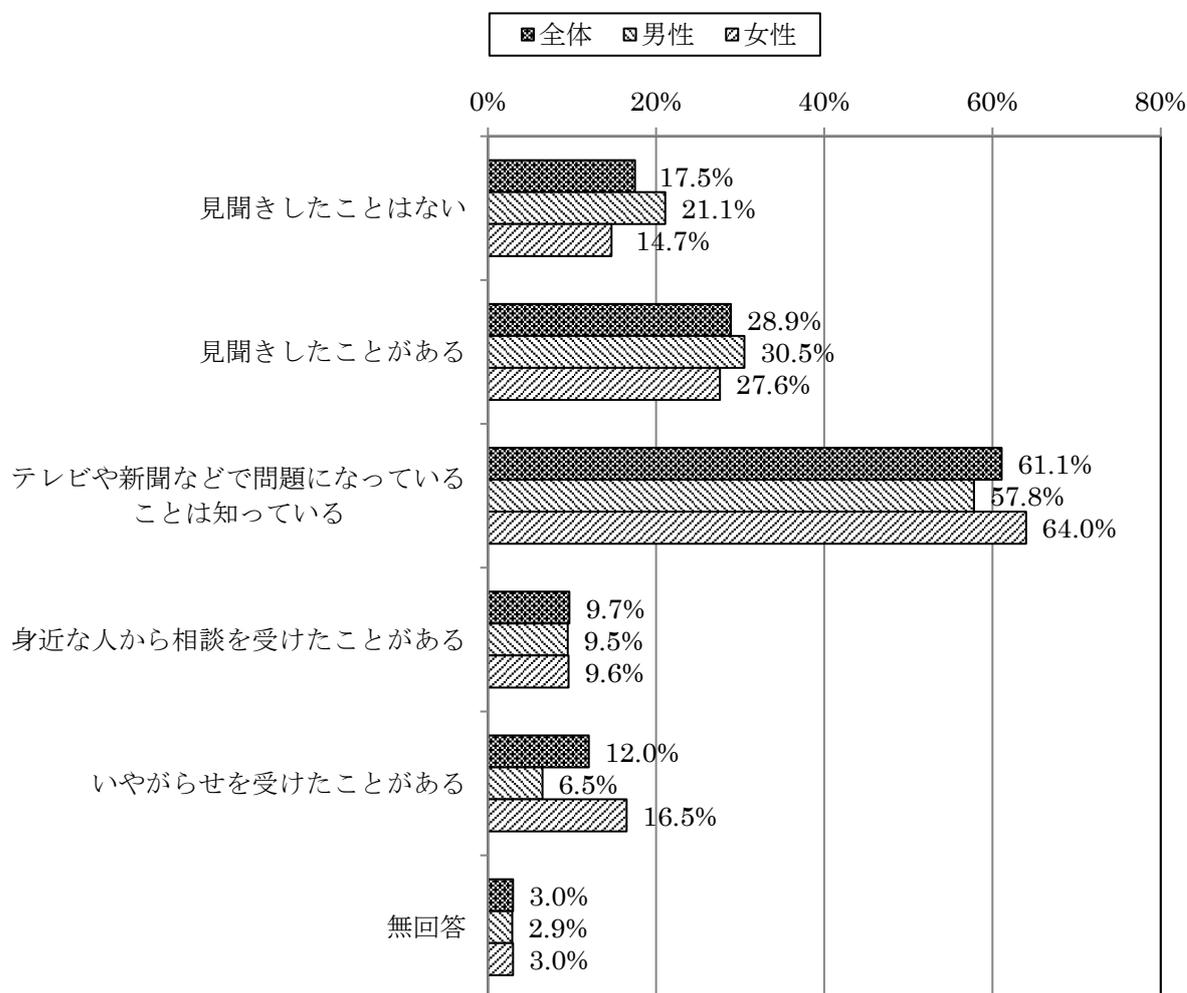
セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティーハラスメントについて
おたずねします

問 14 あなたは、セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）・パワーハラスメント（職権を濫用したいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。
（〇はいくつでも）

セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）・パワーハラスメント（職権を濫用したいやがらせ）を受けたり、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が61.1%と最も高くなっています。

性別でみると、「いやがらせを受けたことがある」は、男性の6.5%に対し、女性は16.5%と10.0ポイント高くなっています。

（今回調査）

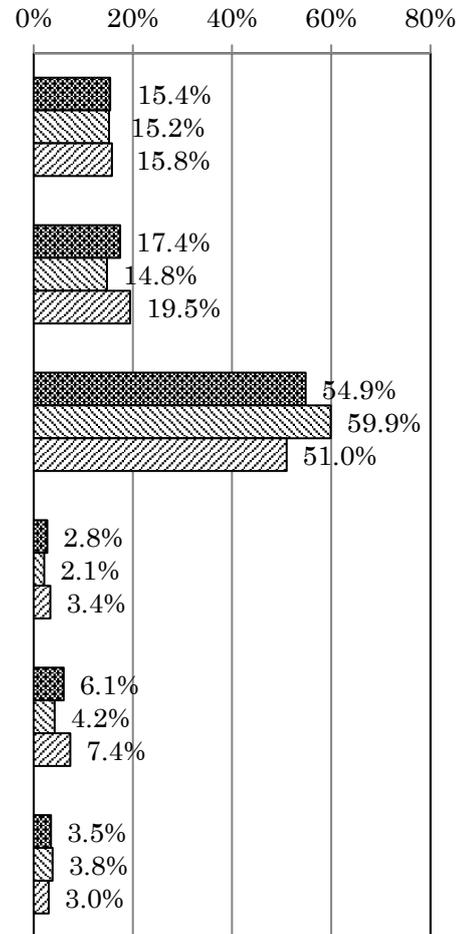
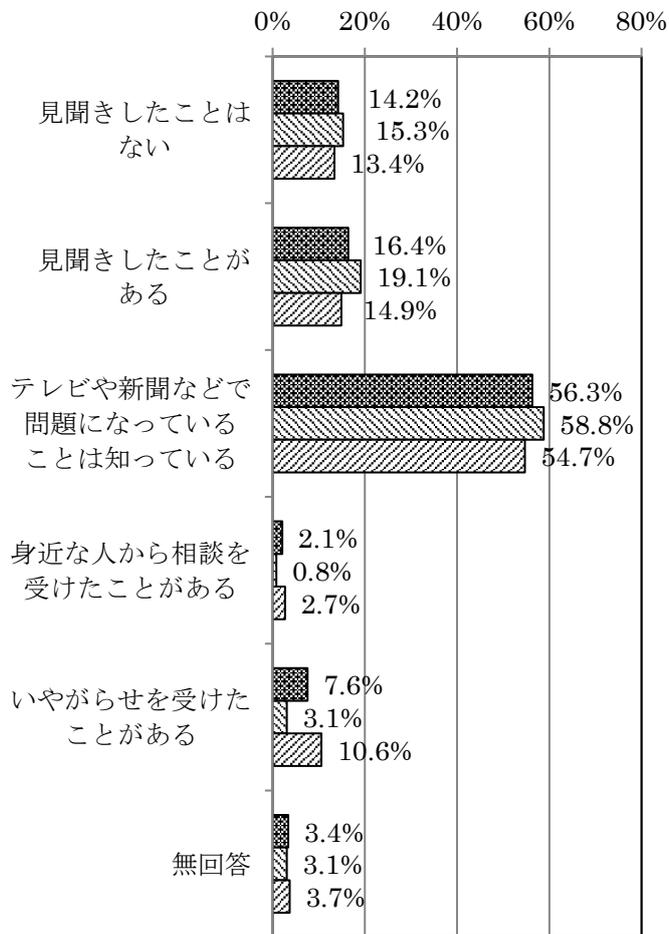


※複数回答のため、合計が100%を超えます。

(H27年調査)

(H23年調査)

■全体 □男性 ▨女性



(※H27年調査までは、1つのみの選択)

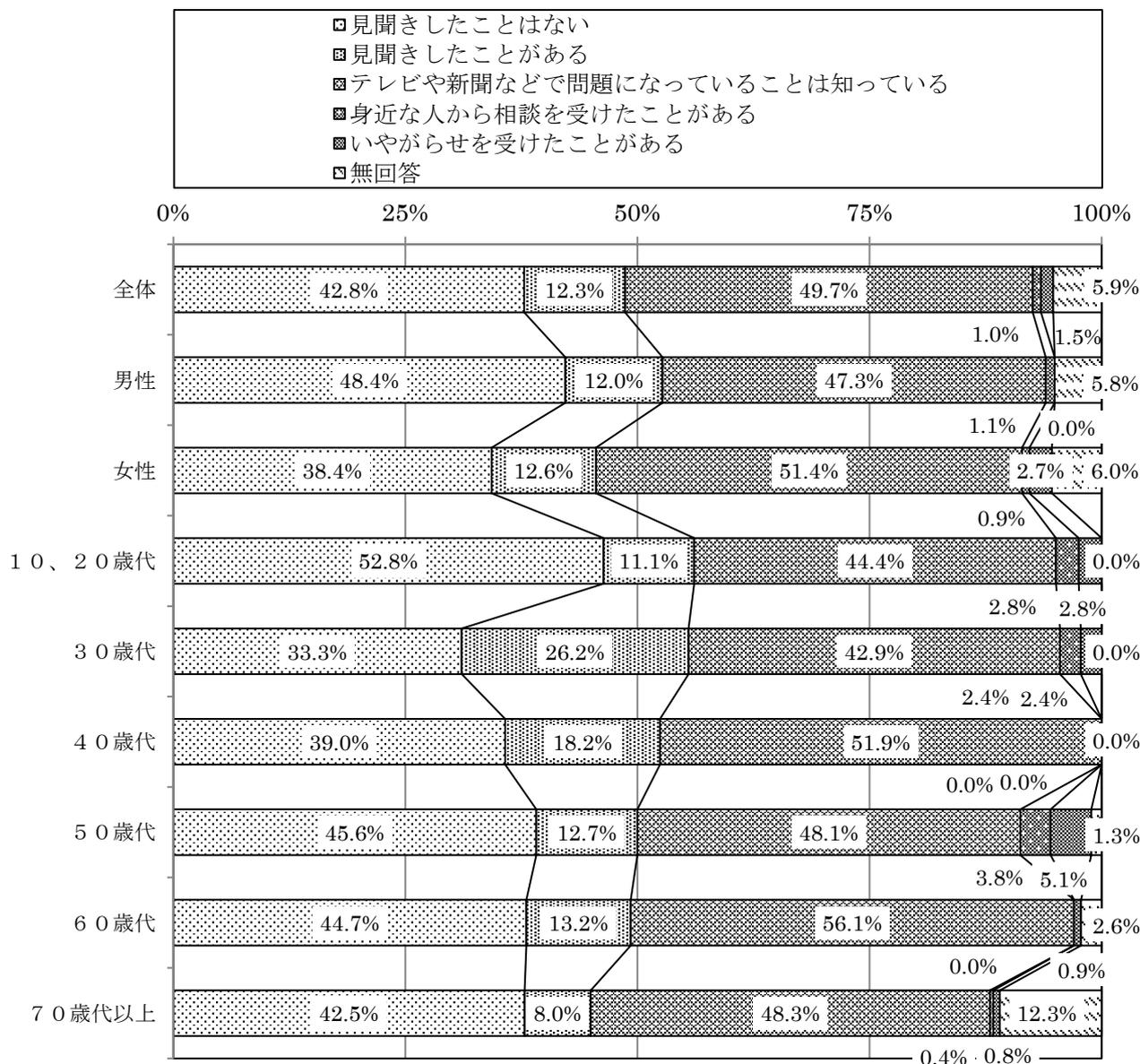
問15 あなたは、マタニティーハラスメント（妊娠や出産に対するいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。（〇はいくつでも）

マタニティーハラスメント（妊娠や出産に対するいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が49.7%と最も高くなっています。

性別で見ると、「見聞きしたことはない」は男性の48.4%に対し、女性は38.4%と10.0ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、「身近な人から相談を受けたことがある」が50歳代で3.8%、また、「いやがらせを受けたことがある」が10、20歳代で2.8%、50歳代で5.1%となっています。

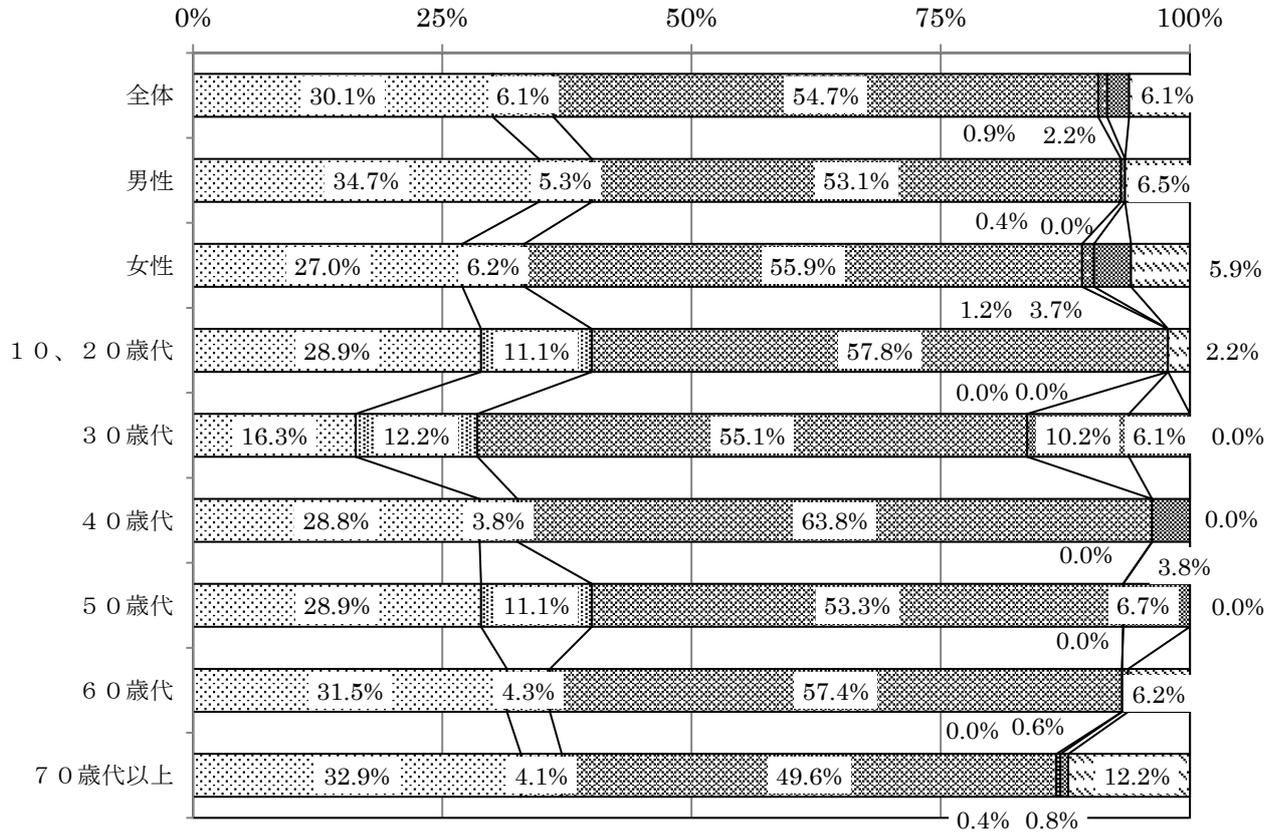
（今回調査）



※複数回答のため、合計が100%を超えます。

(H27年調査)

- 聞きしことはない
- ▨ 聞きしことがある
- ▩ テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 身近な人から相談を受けたことがある
- いやがらせを受けたことがある
- 無回答



(※H27年調査では、1つのみの選択)

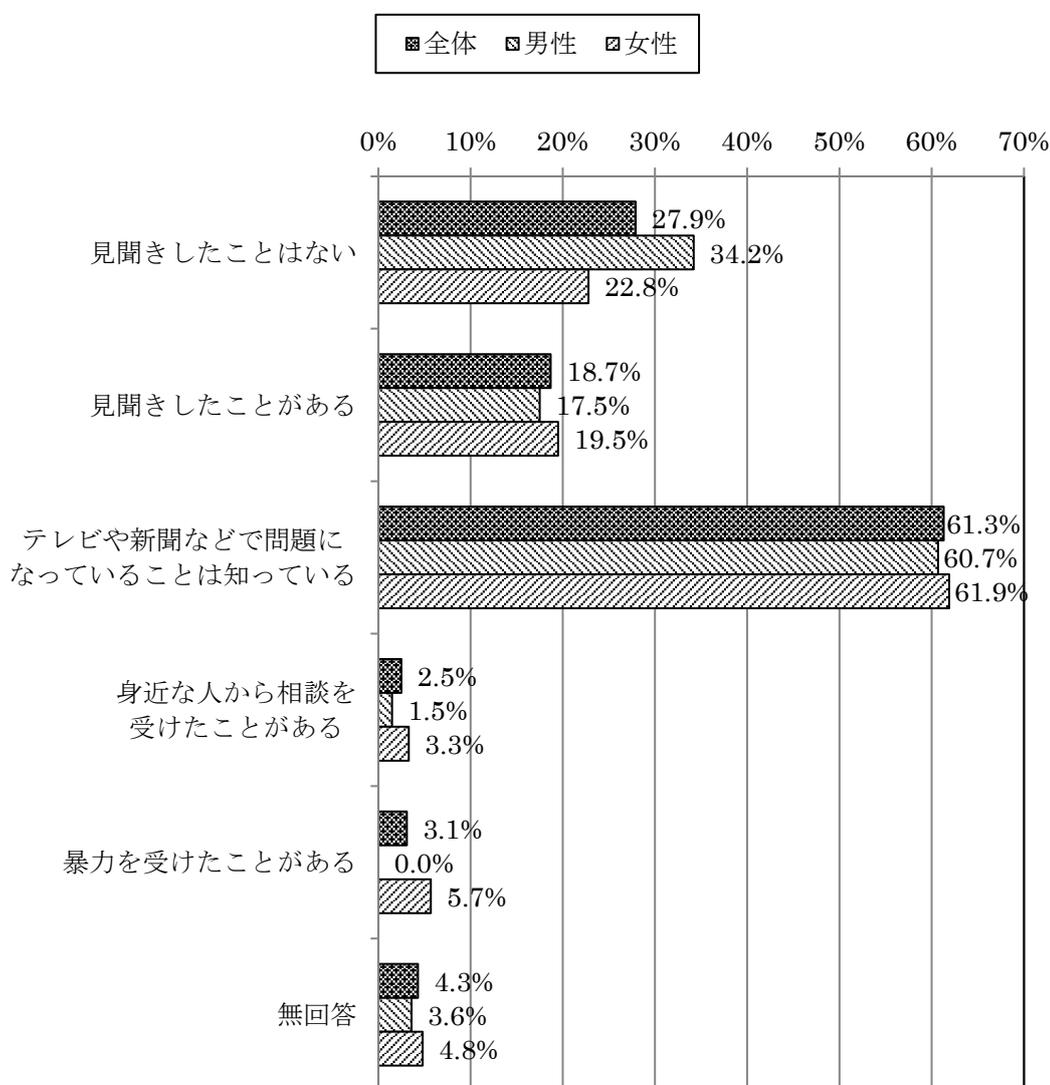
ドメスティック・バイオレンス（DV）についておたずねします

問 16 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人同士などの親しい間での、身体的・心理的な暴力）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。
（〇はいくつでも）

ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること）を経験したり、身近で見聞きしたことがあるかについては、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が61.3%と最も高くなっています。

性別でみると、「暴力を受けたことがある」は、男性の0.0%に対し、女性は5.7%と、今回調査では女性のみとなっています。

（今回調査）

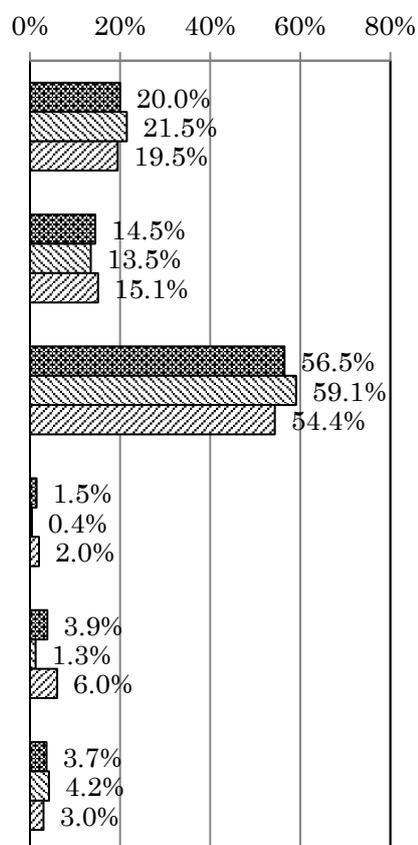
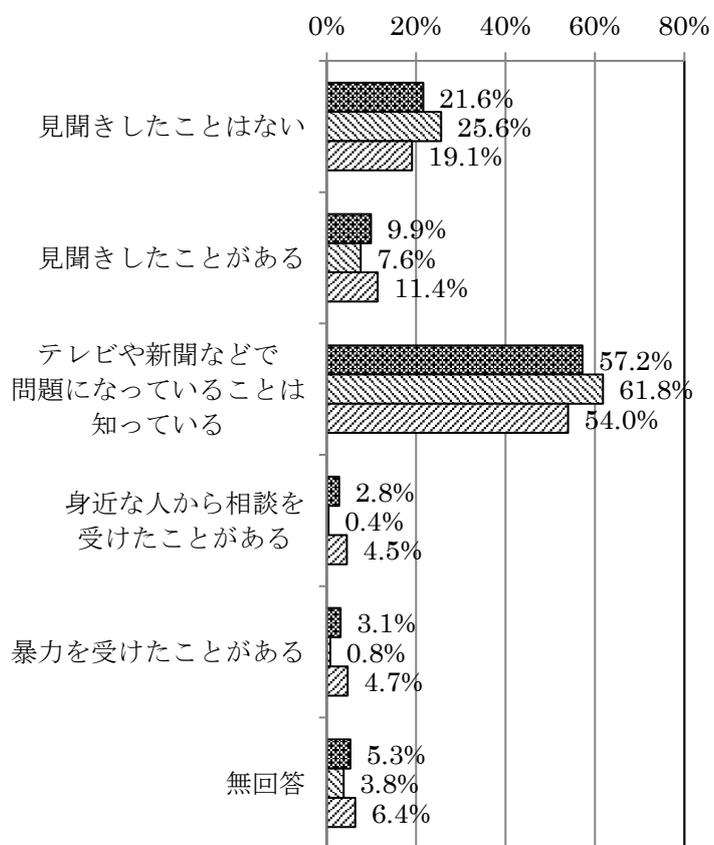


※複数回答のため、合計が100%を超えます。



(H 2 7 年調査)

(H 2 3 年調査)

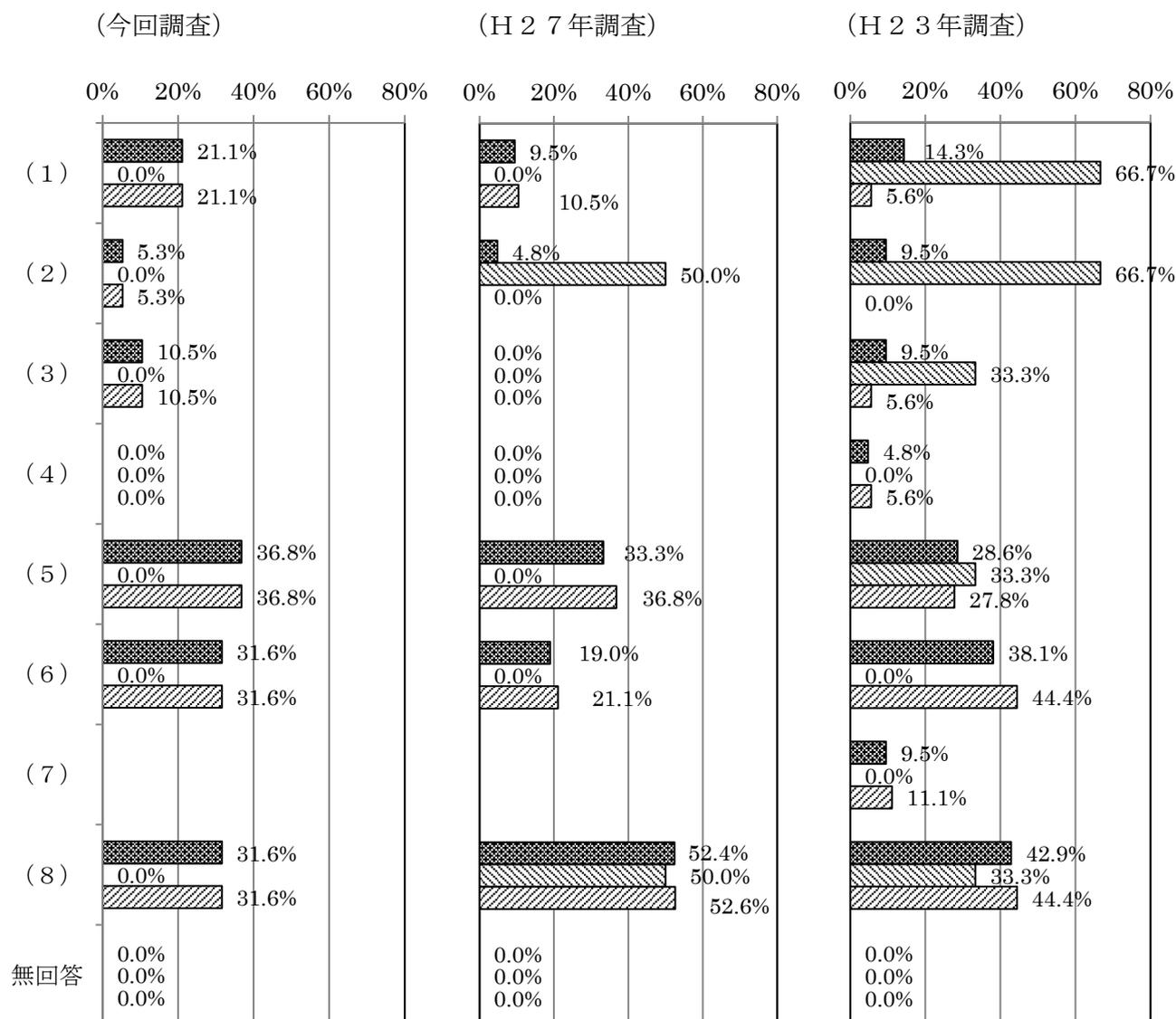


(※H 2 7 年調査までは、1 つのみの選択)

問17 問16で「暴力を受けたことがある」と回答した方におたずねします。
 これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。
 (〇はいくつでも)

問16で「暴力を受けたことがある」と回答した方(男性0名、女性19名(前回は男性2名、女性19名))が誰かに打ち明けたり、相談したことがあるかについては、「家族に相談した」が36.8%(前回33.3%)、以下「友人・知人に相談した」が31.6%(前回19.0%)、同率で「どこ(だれ)にも相談しなかった」が31.6%(前回52.4%)の順となっています。

■全体 □男性 □女性



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
 (※H27年調査までは、3つまでの選択)

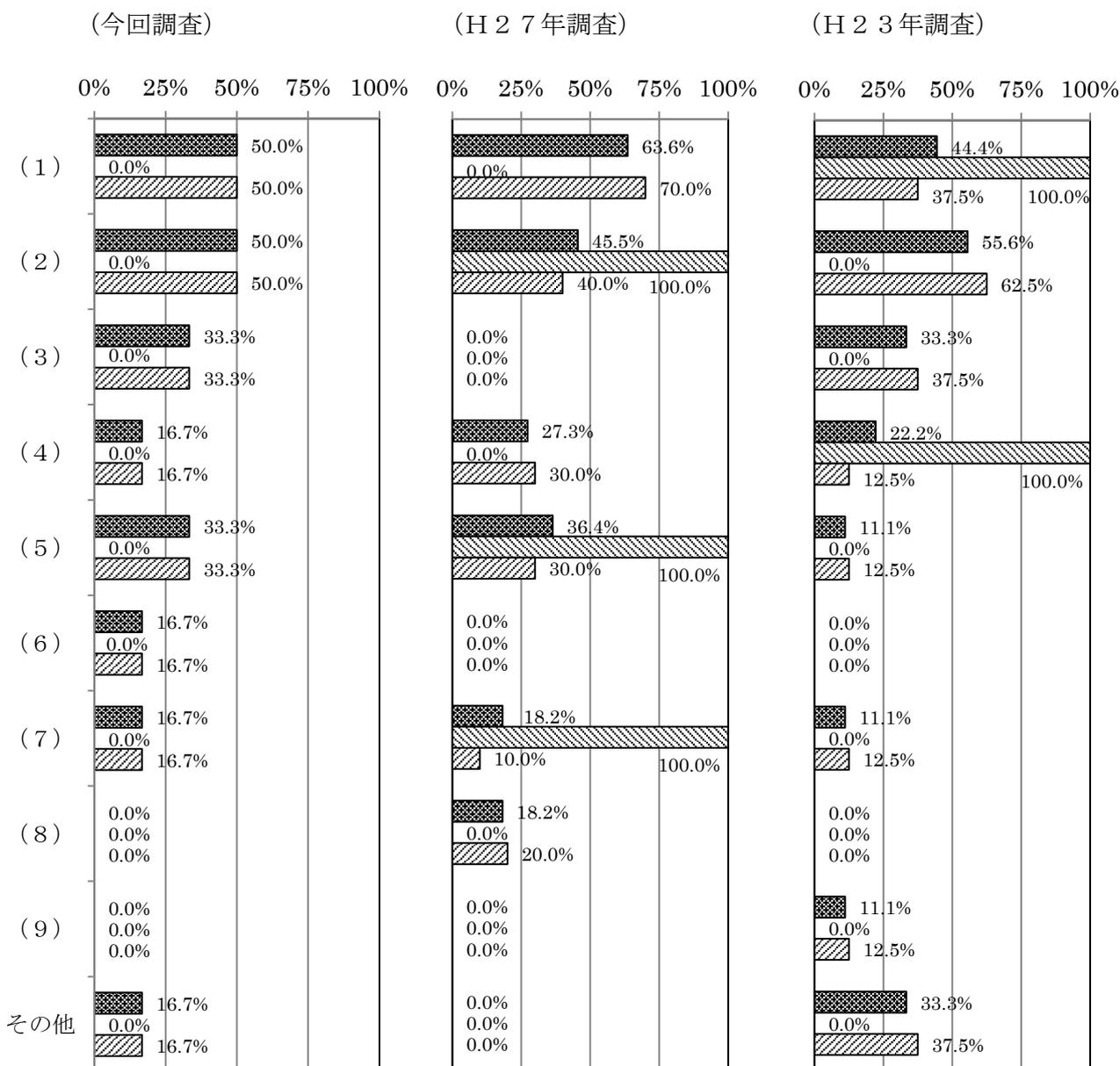
【選択肢】

- (1) 警察に連絡・相談した
- (2) 公的な相談窓口や電話相談に相談した
- (3) 民間の機関（弁護士など）に相談した
- (4) 医師・カウンセラーに相談した
- (5) 家族に相談した
- (6) 友人・知人に相談した
- (7) 相談するところがわからない（※H27年以降の調査では選択肢から除く）
- (8) どこ（だれ）にも相談しなかった

問18 問17で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方におたずねします。
相談しなかったのはなぜですか。(3つまで回答可)

問17で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方(男性0名、女性6名、前回は男性1名、女性10名)の相談しなかった理由については、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が50.0%(前回63.6%)、と「相談しても無駄だと思ったから」が50.0%(前回45.5%)と同率で最も高く、以下「自分にも悪いところがあると思ったから」(33.3%、前回0.0%)、同率で「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(33.3%、前回36.4%)となっています。

■全体 ■男性 ■女性



※複数回答のため、合計が100%を超えます。

【選択肢】

- (1) 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
- (2) 相談しても無駄だと思ったから
- (3) 自分にも悪いところがあると思ったから
- (4) 相談するほどのことではないと思ったから
- (5) 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- (6) そのことについて思い出したくなかったから
- (7) 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい目にあうと思ったから
- (8) どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- (9) 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから

<その他意見>

- ・プライバシーが守られるのか心配だった(50歳代・女性)

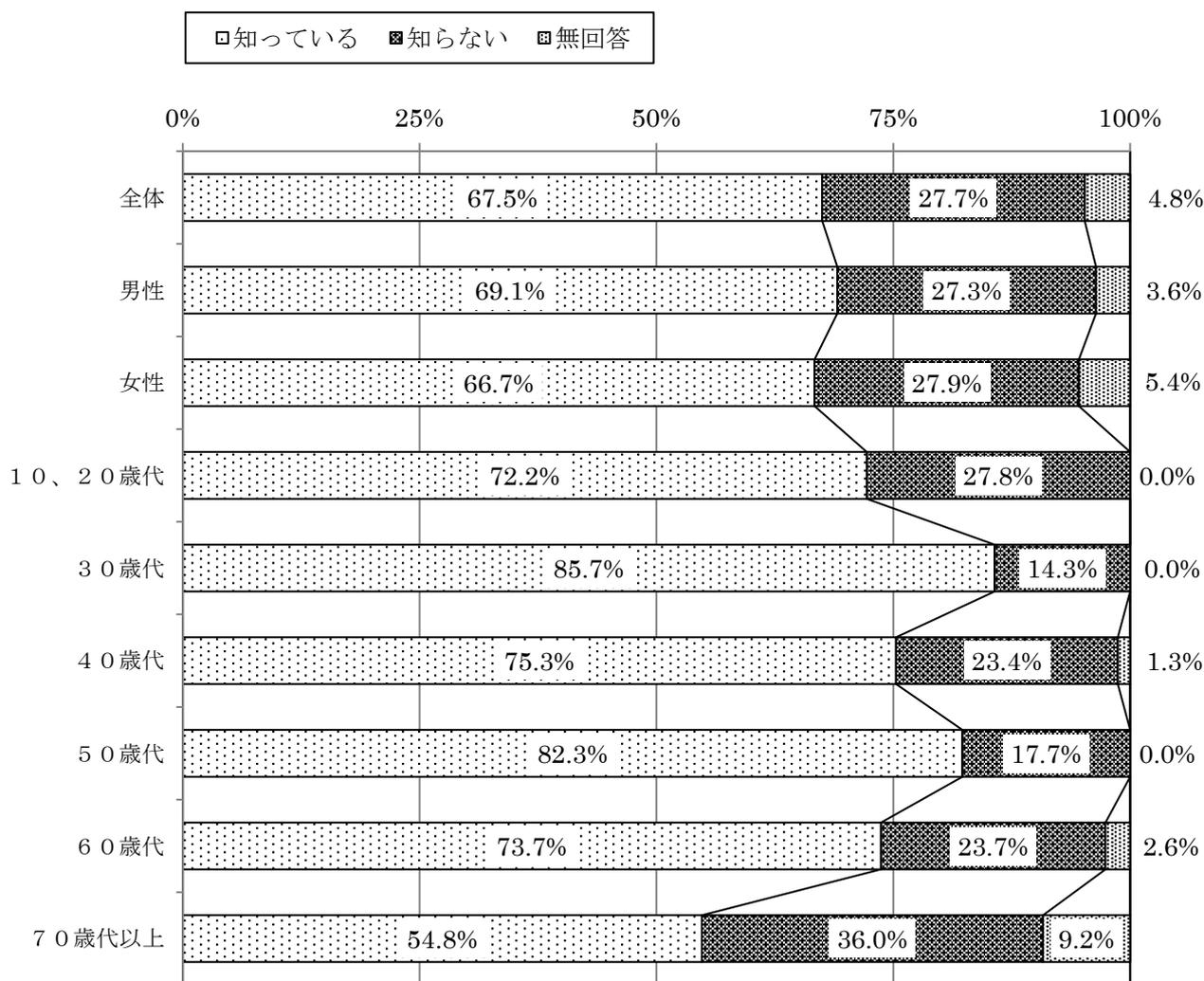
性的少数者（セクシャル・マイノリティ）（LGBT）についておたずねします

問19 性的少数者（セクシャル・マイノリティ）（LGBT）について社会的な取組みが必要とされていますが、あなたは性的少数者（セクシャル・マイノリティ）またはLGBTという言葉の意味を知っていますか。

性的少数者（セクシャル・マイノリティ）またはLGBTという言葉の意味を知っているかについては、「知っている」が67.5%と高く、「知らない」は27.7%となっています。

性別でみると、「知っている」は男性の69.1%に対し、女性は66.7%と2.4ポイント低くなっています。

年齢別でみると、全ての年代で「知っている」が高く、中でも30歳代では85.7%と、各年代の中で最も高くなっています。一方、70歳代以上では36.0%の方が「知らない」と回答しています。



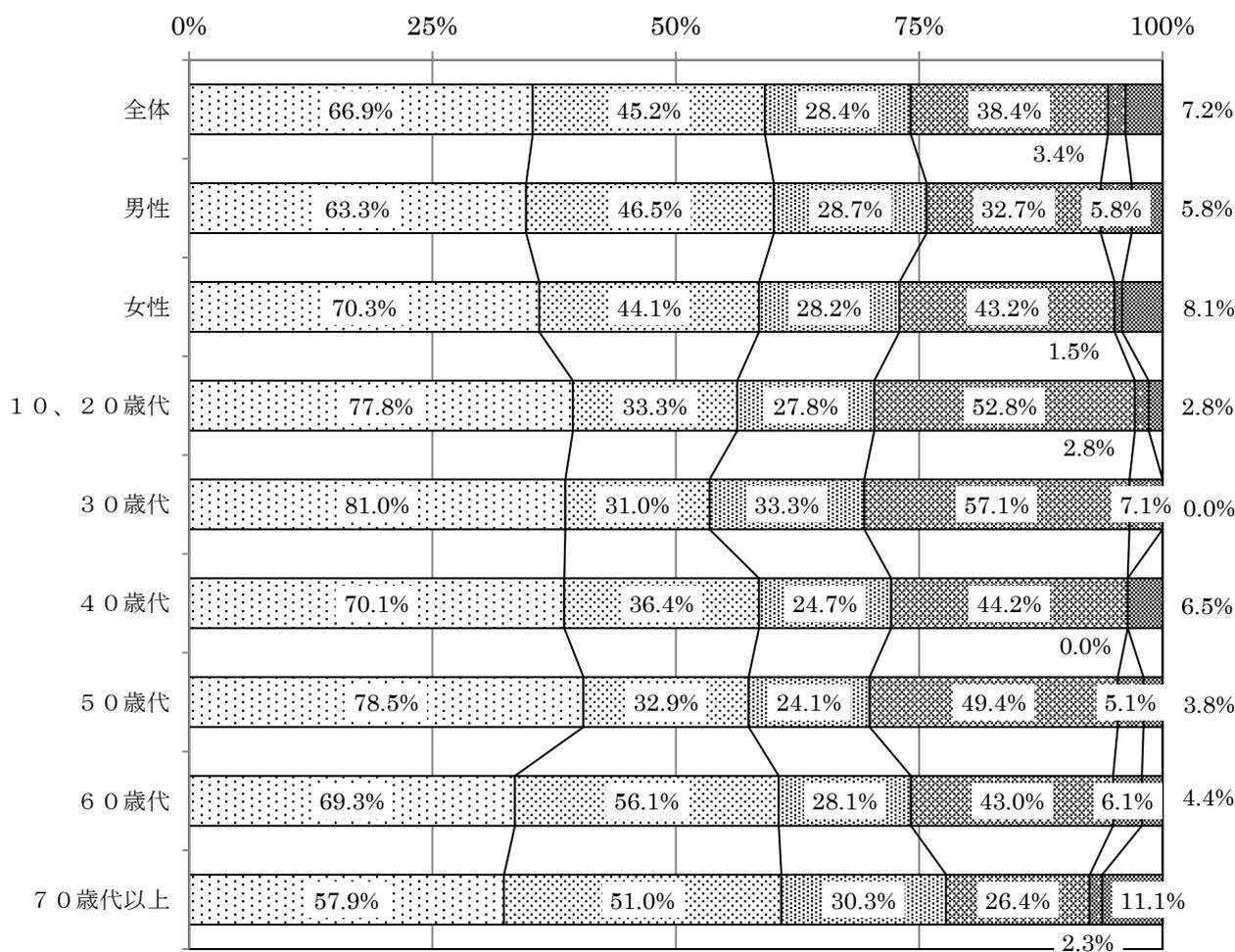
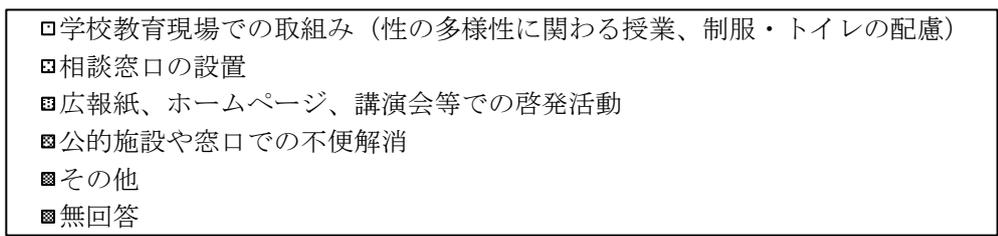
(※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

問20 性的少数者の人権を守るため、どのような取組みが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

性的少数者の人権を守るため、どのような取組みが必要かについては、「学校教育現場での取組み（性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮）」が66.9%と最も高く、以下「相談窓口の設置」（45.2%）、「公的施設や窓口での不便解消」（38.4%）の順となっています。

性別でみると、「公的施設や窓口での不便解消」は男性の32.7%に対し、女性は43.2%と10.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全ての年代で「学校教育現場での取組み（性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮）」が最も高くなっています。



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
(※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

【選択肢】

- (1) 学校教育現場での取組み（性の多様性に関わる授業、制服・トイレの配慮）
- (2) 相談窓口の設置
- (3) 広報紙、ホームページ、講演会等での啓発活動
- (4) 公的施設や窓口での不便解消

<その他意見>

- ・社会の偏見をなくす啓発活動(60 歳代・男性)
- ・よくわからないが性的少数者だと告白できるような環境作りが大切だと思う(50 歳代・女性)
- ・高齢層の人たちへの啓発(20 歳代・女性)
- ・自分の事は、自分にしろ(50 歳代・男性)
- ・個人の問題、あまりさわぐ必要はない(60 歳代・男性)
- ・自分の理解を深める(70 歳代以上・男性)
- ・先ず、人間であると言うことへの理解活動(60 歳代・男性)
- ・法的に人権を守る事が必要。個人的にはLGBTが身近にいてもその様な事を気にしたりする事が無い様に自己を律するしかない。(60 歳代・男性)
- ・わからない(70 歳代以上・男性)
- ・よく解りません(70 歳代以上・男性)
- ・何もしない事、自由にさせてあげる事(50 歳代・女性)
- ・メディアによる報道(30 歳代・男性)
- ・レズ・ゲイ・バイセクシュアルの人達には出会の場を提供してトランスジェンダーについては、特に男の体で女の精神を持っているのでは辛いことが多いと思うので権威ある相談所を作り、それ相応の対策をとる。(50 歳代・男性)
- ・職場での配慮、研修（大人から変わり、子どもに伝える）(30 歳代・男性)
- ・この問題は家庭の中に於いて全員で話し合い取組みを望む(70 歳代以上・女性)
- ・自由で個人勝手にして下さい。(70 歳代以上・男性)
- ・むつかしい(60 歳代・女性)
- ・法制度の整備(30 歳代・男性)
- ・トイレ等設置(60 歳代・男性)
- ・不必要(60 歳代・男性)

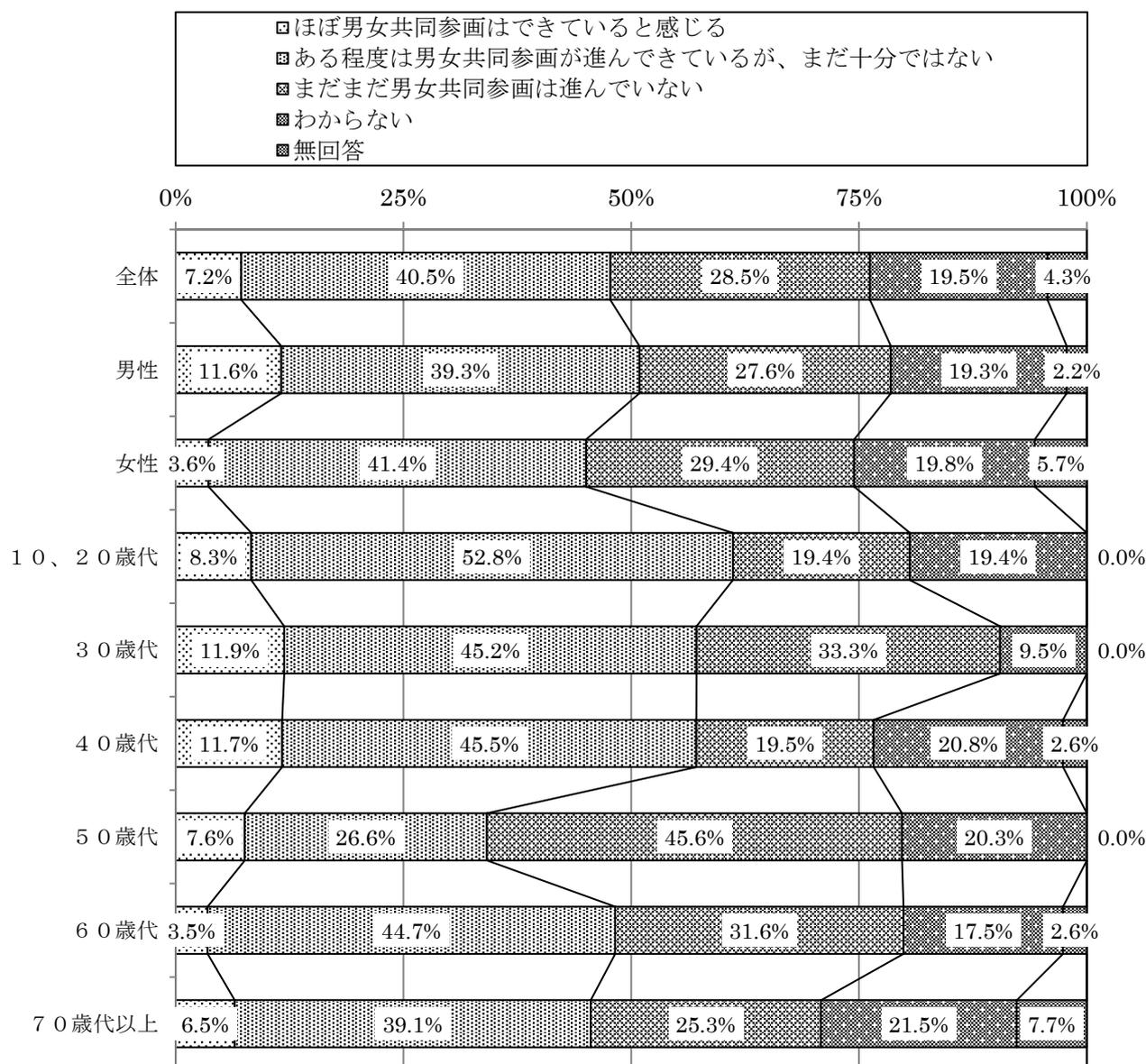
問21 あなたの身の回りにおける男女共同参画について、ご自身の考えにより近いものを選んでください

身の回りにおける男女共同参画については、「ある程度は男女共同参画が進んできているが、まだ十分ではない」が40.5%（前回44.7%）と最も高く、以下「まだまだ男女共同参画は進んでいない」（28.5%）、「わからない」（19.5%、前回14.8%）の順となっています。

性別でみると、「ほぼ男女共同参画はできていると感じる」は男性の11.6%（前回10.7%）に対し、女性は3.6%（前回9.4%）と、女性の方が8.0ポイント低く、「まだまだ男女共同参画は進んでいない」は男性の27.6%に対し、女性は29.4%と、ほぼ同じとなっています。

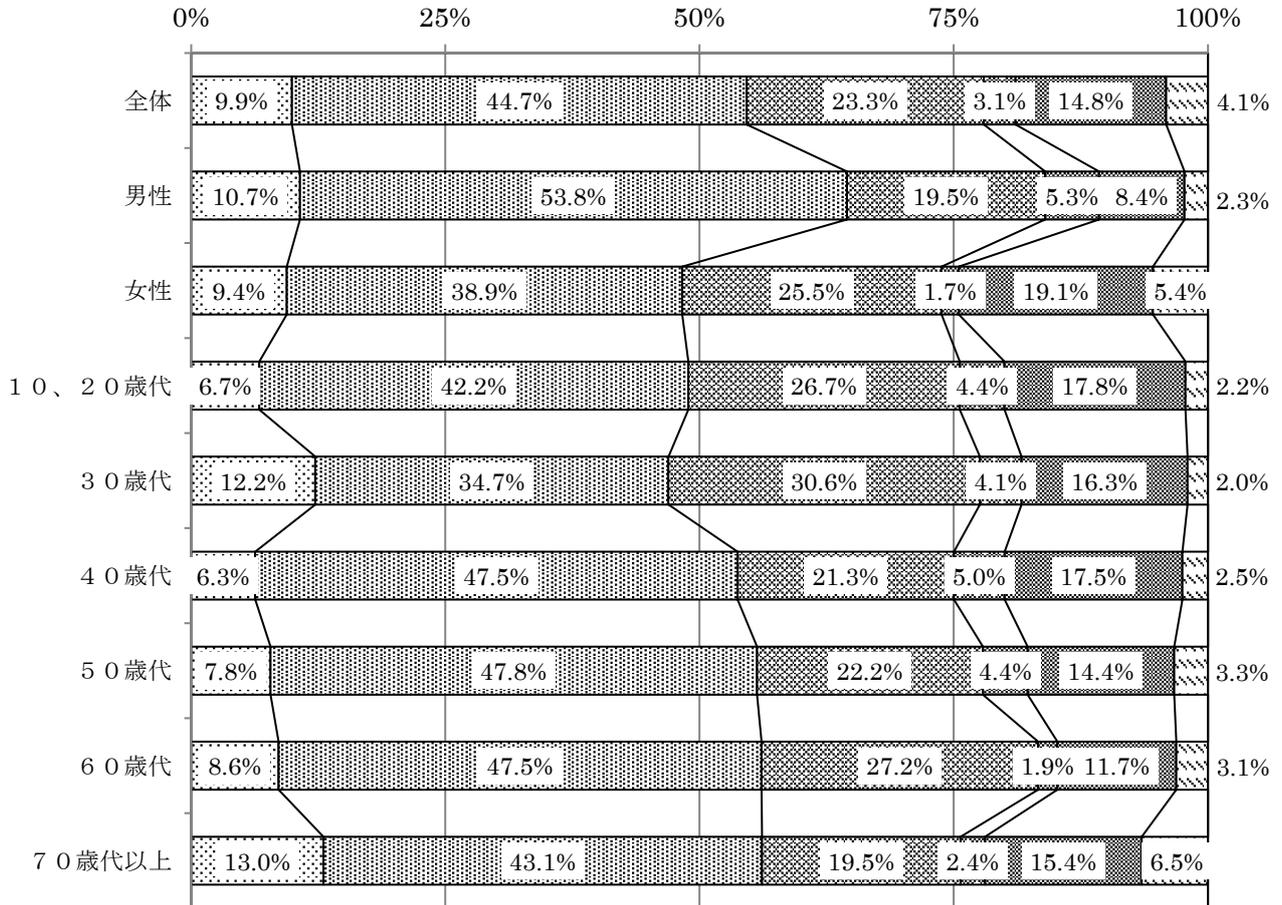
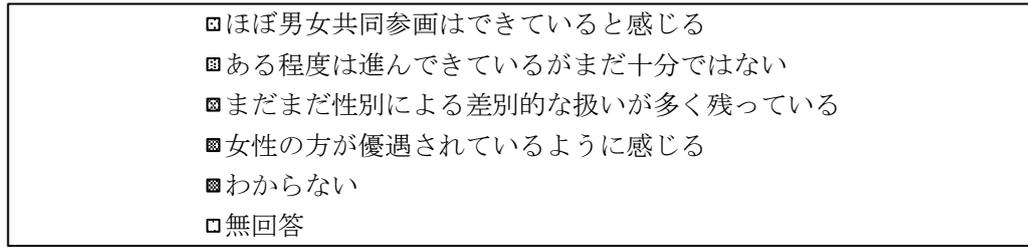
年齢別でみると、50歳代以外の各年代で「ある程度は男女共同参画が進んできているが、まだ十分ではない」が最も高く、50歳代では「まだまだ男女共同参画は進んでいない」が最も高くなっています。

（今回調査）

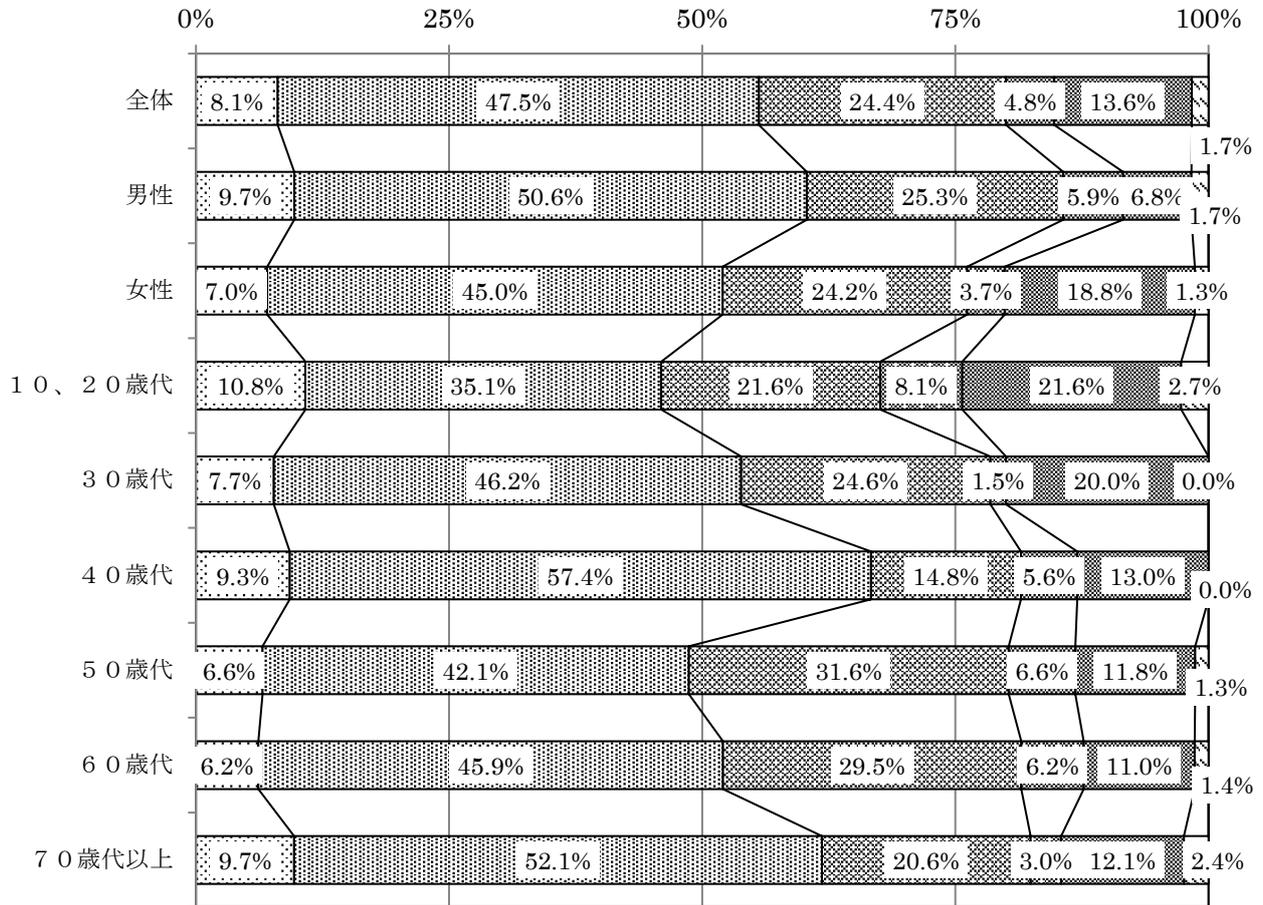
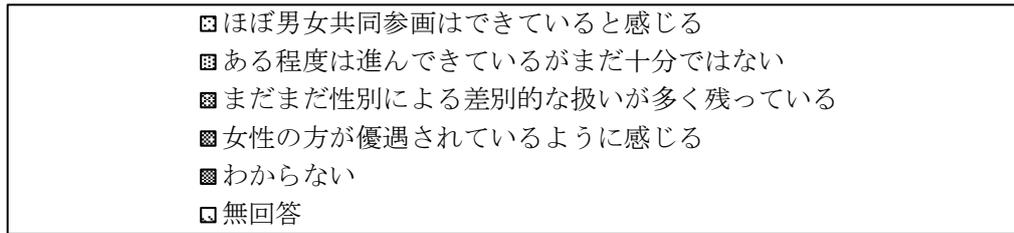


※今回から回答の選択肢の一部を変更しています。

(H27年調査)



(H23年調査)



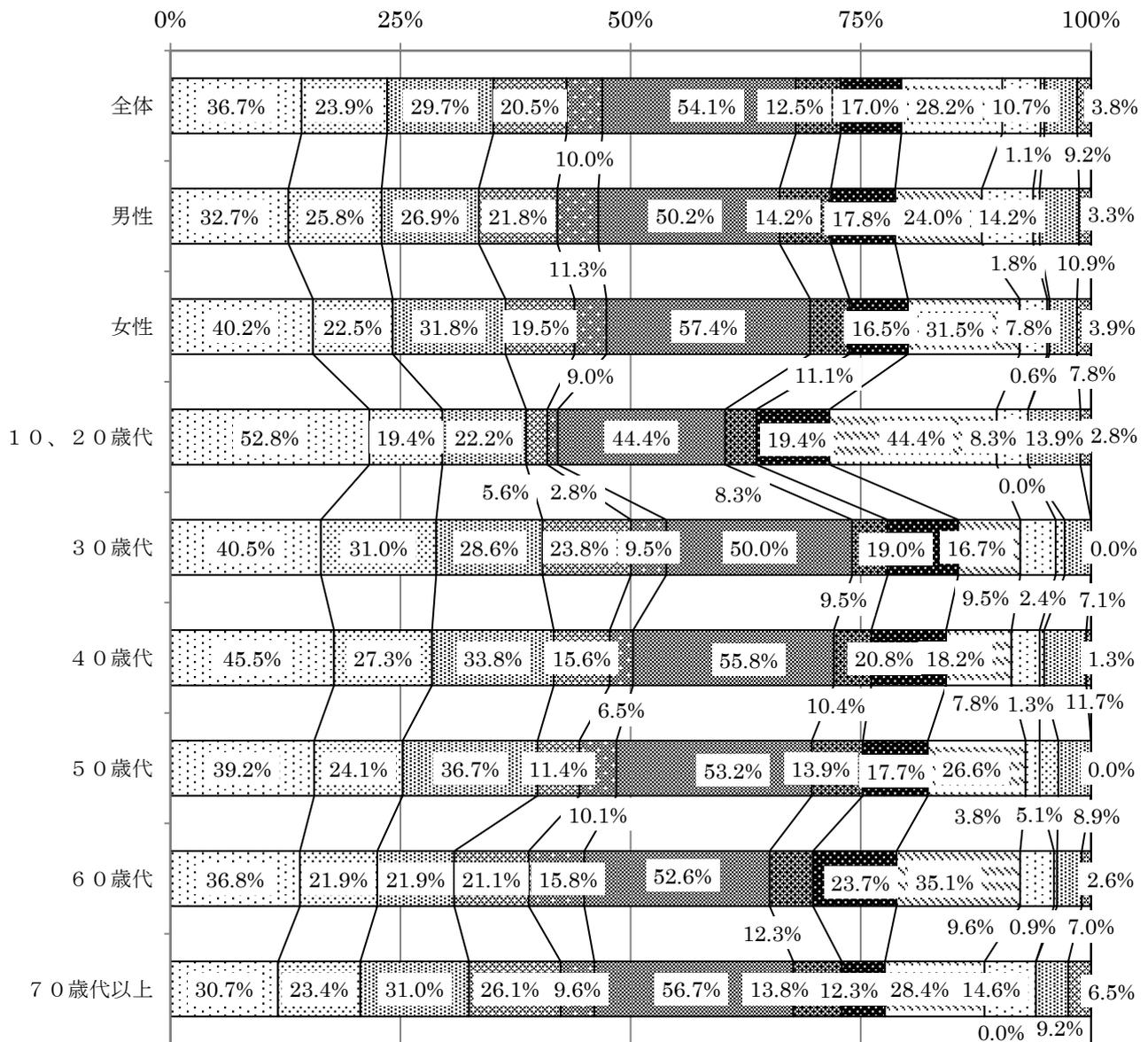
問22 今後、「男女共同参画社会」の形成のため、女性が社会のあらゆる分野にもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで回答可）

今後、「男女共同参画社会」の形成のため、女性が社会のあらゆる分野にもっと参画していくために重要なことについては、「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が54.1%と最も高く、以下「家庭、職場、地域における性別による役割分担、性差別の意識を改める」（36.7%）、「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」（29.7%）の順となっています。

性別で見ると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担、性差別の意識を改める」は男性の32.7%に対し、女性は40.2%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」は男性の24.0%に対し、女性が31.5%と、それぞれ女性が7.5ポイント高く、「一定の割合で女性を登用するようにする」は男性の14.2%に対し、女性は7.8%と6.4ポイント低くなっています。

年齢別で見ると、30歳代以上の年代で「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が最も高くなっています。

- 家庭、職場、地域における性別による役割分担、性差別の意識を改める
- ▣ 男性優位の組織運営を改める
- ▤ 女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする
- ▥ 女性の能力を向上させる機会を増やす
- ▦ 女性の活動を支援するネットワークをつくる
- ▧ 男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する
- ▨ 女性の参画を積極的に進めようとする人（男女）を増やす
- ▩ 法律・制度を見直す
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
- 一定の割合で女性を登用するようにする
- ▬ その他
- ▭ わからない
- ▮ 無回答



※複数回答のため、合計が100%を超えます。
 (※今回新しく設問のため、前回との比較なし)

【選択肢】

- (1) 家庭、職場、地域における性別による役割分担、性差別の意識を改める
- (2) 男性優位の組織運営を改める
- (3) 女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする
- (4) 女性の能力を向上させる機会を増やす
- (5) 女性の活動を支援するネットワークをつくる
- (6) 男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する
- (7) 女性の参画を積極的に進めようとする人（男女）を増やす
- (8) 法律・制度を見直す
- (9) 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
- (10) 一定の割合で女性を登用するようにする

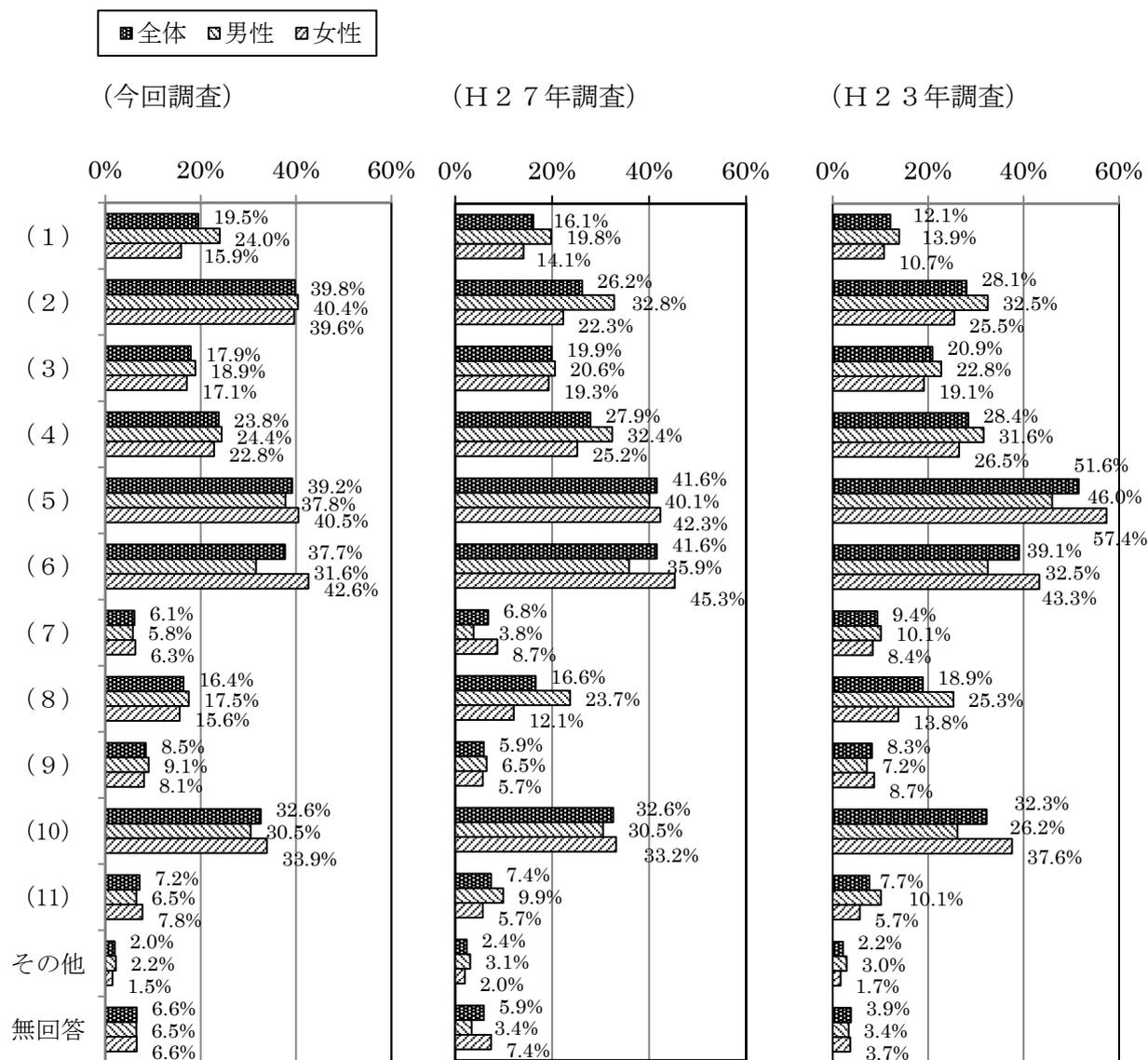
<その他意見>

- ・家庭とのバランスがとれる仕組みづくり（職場の理解・支援）（30歳代・男性）
- ・そうしたい、そうなりたいとする女性はちゃんとしてるが、そうでない人は、都合よくグダグダ言うだけ（50歳代・女性）
- ・なし（50歳代・女性）
- ・不必要（60歳代・男性）

問23 「男女共同参画社会」を実現するために、光市の施策に望むことは何ですか。
(3つまで回答可)

「男女共同参画社会」を実現するための光市の施策については、「学校などにおける男女平等教育の推進」(39.8%、前回26.2%)が最も高く、以下「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(39.2%、前回40.1%)、「介護サービスの充実」(37.7%、前回42.3%)の順となっています。

性別でみると、男性の回答は「学校などにおける男女平等教育の推進」(40.4%、前回32.8%)、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(37.8%、前回40.1%)、「介護サービスの充実」(31.6%、前回35.9%)の順、女性の回答は「介護サービスの充実」(42.6%、前回45.3%)、「保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実」(40.5%、前回42.3%)、「学校などにおける男女平等教育の推進」(39.6%、前回32.5%)の順となっています。



※複数回答のため、合計が100%を超えます。

【選択肢】

- (1) 広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- (2) 学校などにおける男女平等教育の推進
- (3) 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- (4) 男女雇用機会均等法や女性活躍推進法等の周知徹底
- (5) 保育サービスや放課後児童クラブなどの子育て支援の充実
- (6) 介護サービスの充実
- (7) 検診体制や相談など健康に関する事業の充実
- (8) 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- (9) 審議会等の委員への女性の登用
- (10) 女性の就労支援の充実
- (11) 男女共同参画条例の整備

<その他意見>

- ・無駄な事はしない事(50 歳代・男性)
- ・男女と言うより、先ずは人間という考え方の教育通念化(60 歳代・男性)
- ・実力や能力の評価のみを優先する(60 歳代・男性)
- ・施策に望んでも何もかわらない(60 歳代・女性)
- ・職場での女性に対する環境整備(40 歳代・男性)
- ・その人の気持ち(50 歳代・女性)
- ・具体的実効策が必要(60 歳代・男性)
- ・老人ですからもうよくわからない。(70 歳代以上・女性)
- ・男女同数制 (市議会議員数等) (60 歳代・男性)

■ あなたからのご意見、ご要望等についておたずねします

610人のアンケート回答者のうち176人の方（28.9%）からの自由意見の回答がありました。

作成の都合上、個別の掲載は省略しますが、寄せられたご意見につきましては、今後の男女共同参画の取組みを進める上での参考にいたします。